

第五次長野市総合計画 前期基本計画 令和3年度進捗状況

令和4年11月

長野市



目 次

1 アンケート指標と統計指標の達成状況	1
達成状況の評価について	1
アンケート指標の進捗状況	2
統計指標値の進捗状況	8
2 個票	
分野1 行政経営の方針【行政経営分野】	16
政策1 市民が主役のまちづくりの推進	
施策1-1-1 市民とともにつくる市政の推進	
施策1-1-2 市民によるまちづくり活動への支援	
政策2 将来にわたり持続可能な行財政運営の確立	
施策1-2-1 効果的で効率的な行財政運営の推進	
施策1-2-2 市民の満足が得られる市政の推進	
施策1-2-3 地方中核都市としての役割の遂行	
分野2 人にやさしく人がいきいき暮らすまち「ながの」【保健・福祉分野】	23
政策1 少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	
施策2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援	
施策2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実	
施策2-1-3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援	
政策2 生きがいのある豊かな高齢社会の形成	
施策2-2-1 高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進	
施策2-2-2 高齢者福祉サービスの充実	
政策3 だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	
施策2-3-1 障害者（児）福祉の充実	
施策2-3-2 認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現	
施策2-3-3 生活の安定と自立への支援	
政策4 安心して暮らせる健康づくりの推進	
施策2-4-1 健康の保持・増進の支援	
施策2-4-2 保健衛生の充実	
施策2-4-3 地域医療体制の充実	
政策5 人権を尊ぶ明るい社会の形成	
施策2-5-1 人権尊重社会の実現	
施策2-5-2 男女共同参画社会の実現	
分野3 人と自然が共生するまち「ながの」【環境分野】	44
政策1 環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成	
施策3-1-1 低炭素社会の実現	
施策3-1-2 循環型社会の実現	
政策2 自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進	
施策3-2-1 豊かな自然環境の保全	
施策3-2-2 良好な生活環境の保全	

分野 4	安全で安心して暮らせるまち「ながの」【防災・安全分野】	・ ・ ・ ・ ・	51
政策 1	災害に強いまちづくりの推進		
施策4-1-1	防災・減災対策の推進		
施策4-1-2	消防力の充実・強化及び火災予防		
政策 2	安心して暮らせる安全社会の構築		
施策4-2-1	交通安全対策の推進		
施策4-2-2	防犯対策の推進		
施策4-2-3	安全な消費生活の確保		
分野 5	豊かな心を育み人と文化が輝くまち「ながの」【教育・文化分野】	・ ・ ・ ・ ・	58
政策 1	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備		
施策5-1-1	乳幼児期から高等教育までの教育の充実		
施策5-1-2	子どもに応じた支援の充実		
施策5-1-3	家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上		
政策 2	豊かな人生を送るための学習機会の提供		
施策5-2-1	生涯学習環境の充実		
施策5-2-2	学習成果を活かした地域づくりへの参加促進		
政策 3	魅力あふれる文化の創造と継承		
施策5-3-1	多彩な文化芸術の創造と活動支援		
施策5-3-2	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進		
政策 4	スポーツを軸としたまちづくりの推進		
施策5-4-1	だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進		
施策5-4-2	スポーツを通じた交流拡大の推進		
政策 5	国際交流・多文化共生の推進		
施策5-5-1	国際交流活動の推進		
施策5-5-2	多文化共生の推進		
分野 6	産業の活力とにぎわいのあふれるまち「ながの」【産業・経済分野】	・ ・ ・ ・ ・	73
政策 1	魅力を活かした観光の振興		
施策6-1-1	豊富な観光資源等を活かした観光交流促進		
施策6-1-2	インバウンドの推進		
施策6-1-3	コンベンションの誘致推進		
政策 2	活力ある農林業の振興		
施策6-2-1	多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進		
施策6-2-2	地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進		
施策6-2-3	森林の保全と資源の活用促進		
政策 3	特色を活かした商工業の振興		
施策6-3-1	商工業の強化と環境整備の促進		
施策6-3-2	地域の特性が光る商工業の推進		
施策6-3-3	新たな活力につながる産業の創出		
政策 4	安定した就労の促進		
施策6-4-1	就労の促進と多様な働き方の支援		
施策6-4-2	勤労者福祉の推進		

分野7 快適に暮らし活動できるコンパクトなまち「ながの」【都市整備分野】・・・87

政策1 いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進

施策7-1-1 地域の特性に応じた都市機能の充実

施策7-1-2 暮らしを支える生活機能の維持

施策7-1-3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進

施策7-1-4 地域の特色を活かした景観の形成

政策2 拠点をつなぐネットワークの充実

施策7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築

施策7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備

アンケート指標と統計指標の達成状況

達成状況の評価について

【アンケート指標】

アンケート指標は、「目指す状態」の進捗度合を市民の主観に基づいて測る指標として設定しており、環境や体制に関する質問の結果（53項目）及び市民（回答者自身）の実践状況に関する質問の結果（38項目）の2種類があります。

目標は、現状値と比較して計画期間の平均値を5ポイント以上の上昇とする場合「↑」を、現状維持（5ポイント未満までの上昇）とする場合「→」としており、前期基本計画期間である平成29年度から令和3年度までの5年間のアンケート結果の平均値から、指標それぞれの目標を「達成」か「未達成」のいずれかで評価しました。

【統計指標】

統計指標は、「目指す状態」の進捗度合を統計に基づいて測る指標として設定しており、それぞれの令和3年度末時点での実績値が前期基本計画の目標値に対し、どの段階まで到達しているかを以下のとおり4段階で評価しました。

評価	評価内容
A	令和3年度末の目標値を達成 (進捗率 100%以上)
B	目標をおおむね達成 (目標値 100%未満～進捗率 80%以上)
C	目標値を達せず (進捗率 80%未満～0%超)
D	基準値と同値、または基準値から後退 (進捗率 0%以下)
未確定	令和3年度または令和2年度の指標値を得ることができないもの等

- ※ 令和3年度末の指標値が未確定の指標については、令和2年度末の指標値で評価
- ※ 指標が複数あり、それぞれの進捗率が異なる場合には、原則進捗率の低い数値で評価（一部については、平均値で評価）

アンケート指標の進捗状況

分野	指標数	達成	未達成
分野1【行政経営分野】 行政経営の方針	8	0	8
分野2【保健・福祉分野】 人にやさしく人がいきいき暮らすまち「ながの」	23	0	23
分野3【環境分野】 人と自然が共生するまち「ながの」	10	1	9
分野4【防災・安全分野】 安全で安心して暮らせるまち「ながの」	10	1	9
分野5【教育・文化分野】 豊かな心を育み人と文化が輝くまち「ながの」	18	0	18
分野6【産業・経済分野】 産業の活力とにぎわいのあふれるまち「ながの」	19	1	18
分野7【都市整備分野】 快適に暮らし活動できるコンパクトなまち「ながの」	11	1	10
合 計	99	4	95

※全 99 指標中 8 指標は重複あり

全 99 指標中、目標を達成した指標は 4 項目、未達成は 95 指標となりました。

5 ポイント以上の上昇を目標とした 86 指標のうち、目標を達成したものは 1 指標でありましたが、約三分の一の 29 指標で、計画期間 5 年間の平均値が基準値を上回り、前進が見られました。

また、現状維持（5 ポイント未満までの上昇）を目標とした 13 指標のうち、目標を達成したものは 3 指標となっています。

なお、アンケート指標のうち、計画開始から令和元年度までの傾向と、令和 2 年度以降の傾向を比較し、令和 2 年度以降に落ち込みが見られる指標は、地域活動や文化芸術・スポーツ関係、国際交流イベント、観光関連が多く、これらは施策の影響以外に令和元年 10 月の東日本台風災害や令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大による社会活動の減退などの外的要因がアンケート結果に影響を与えたのではないかと推察されます。

アンケート指標一覧

- : 環境や体制に関する質問の結果(53項目)
- : 市民(回答者自身)の実践状況に関する質問の結果 (38項目)
- ↗: 現状値と比較して計画期間の平均値を5ポイント以上の上昇
- : 現状維持(5ポイント未満までの上昇)

質問 分類	施策番号・施策名等 指標名	現状値			実績値						目標	達成 状況
		基準年	現状値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	平均		
	1-1-1 市民とともにつくる市政の推進											
●	市民の声が市政に反映されている	H28	19.2%		19.0	18.4	18.7	21.2	18.8	19.2	↗	未達成
○	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている	H28	9.8%		9.4	10.0	7.7	8.5	10.1	9.1	↗	未達成
	1-1-2 市民によるまちづくり活動への支援											
●	住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている	H28	36.3%		38.0	36.1	36.3	38.5	37.5	37.3	↗	未達成
○	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している	H28	23.2%		23.5	23.6	23.1	24.0	24.9	23.8	↗	未達成
	1-2-1 効果的で効率的な行政運営の推進											
●	効果的で効率的な行政運営が行われている	H28	20.4%		19.5	18.6	20.1	22.2	20.5	20.2	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2-2 市民の満足が得られる市政の推進											
●	市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている	H28	20.2%		19.2	19.5	20.4	23.3	20.9	20.7	↗	未達成
●	市の職員に好感が持てる	H28	45.2%		43.4	44.7	43.8	47.3	49.4	45.7	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2-3 地方中核都市としての役割の遂行											
●	長野市は近隣市町村と連携し、広域的に発展に向けて取り組んでいる	H28	30.9%		28.8	27.1	29.2	31.3	30.0	29.3	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援											
●	子どもを産み育てやすい地域である	H28	63.9%		52.9	54.8	52.3	56.3	55.9	54.4	↗	未達成
○	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている	H28	45.3%		47.9	42.5	45.2	48.5	46.4	46.1	↗	未達成
	2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実											
●	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育が充実している	H28	57.4%		51.5	52.1	50.9	53.6	51.5	51.9	↗	未達成
○	[再掲: 子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている]	H28	45.3%		47.9	42.5	45.2	48.5	46.4	46.1	↗	未達成
	2-1-3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援											
●	子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている	H28	32.5%		27.8	28.0	26.4	30.6	26.8	27.9	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	2-2-1 高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進											
●	高齢者がボランティアや学習活動など、社会と関わる活動をしやすい環境が整っている	H28	45.0%		40.5	39.5	38.2	40.4	39.8	39.7	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	2-2-2 高齢者福祉サービスの充実											
●	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている	H28	49.0%		42.4	38.5	37.6	45.1	42.9	41.3	↗	未達成
○	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	H28	52.5%		56.6	49.7	52.3	54.7	54.7	53.6	↗	未達成
	2-3-1 障害者(児)福祉の充実											
●	障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている	H28	26.7%		23.4	22.4	21.9	25.9	22.8	23.3	↗	未達成
○	障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようにしている	H28	65.2%		67.9	63.3	64.3	64.8	64.5	65.0	↗	未達成

質問 分類	施策番号・施策名等 指標名	現状値			実績値						目標	達成 状況
		基準年	現状値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	平均		
	2-3-2 認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現											
●	ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている	H28	49.7	%	45.0	46.0	42.6	47.0	42.8	44.7	↗	未達成
○	ご近所同士で交流をし、困った時にお互いに助け合える関係を築こうとしている	H28	55.6	%	61.3	57.9	59.1	61.4	57.6	59.5	↗	未達成
	2-3-3 生活の安定と自立への支援											
●	生活に困った時に相談できる体制が整っている	H28	27.3	%	23.5	21.7	22.4	25.4	24.7	23.5	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	2-4-1 健康の保持・増進の支援											
●	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	H28	49.5	%	43.9	43.3	42.7	45.3	43.7	43.8	↗	未達成
○	健康づくりに継続的に取り組んでいる	H28	56.8	%	62.8	60.1	58.9	63.3	62.9	61.6	↗	未達成
	2-4-2 保健衛生の充実											
●	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている	H28	21.7	%	17.8	17.4	16.7	20.8	18.4	18.2	↗	未達成
○	不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている	H28	64.8	%	69.2	69.0	66.4	68.4	68.4	68.3	↗	未達成
	2-4-3 地域医療体制の充実											
●	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	H28	62.9	%	58.4	60.3	58.2	62.8	61.3	60.2	↗	未達成
○	かかりつけ医がいる	H28	75.4	%	73.7	74.3	74.7	74.7	73.9	74.3	→	未達成
	2-5-1 人権尊重社会の実現											
●	互いの個性や立場を尊重し合える地域である	H28	40.7	%	34.5	34.2	33.1	35.9	34.7	34.5	↗	未達成
○	人権問題について理解を深めようとしている	H28	52.4	%	55.9	54.1	52.3	56.5	58.3	55.4	↗	未達成
	2-5-2 男女共同参画社会の実現											
●	性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である	H28	29.0	%	25.5	24.1	23.1	27.0	23.5	24.6	↗	未達成
○	男女共同参画について理解を深めようとしている	H28	47.3	%	50.3	48.6	49.6	51.2	56.7	51.3	↗	未達成
	3-1-1 低炭素社会の実現											
●	身のまわりにおいて、太陽光発電や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	H28	27.4	%	37.0	27.4	24.3	24.8	22.9	27.3	↗	未達成
○	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	H28	43.3	%	44.0	40.9	38.0	40.4	40.2	40.7	↗	未達成
	3-1-2 循環型社会の実現											
●	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	H28	50.0	%	58.6	47.3	44.4	45.4	44.1	48.0	↗	未達成
○	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している	H28	81.7	%	81.0	82.9	81.7	84.4	85.2	83.0	→	達成
○	使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる	H28	62.6	%	60.8	63.4	62.8	65.1	65.1	63.4	↗	未達成
○	ごみの分別を徹底している	H28	93.3	%	91.5	92.5	92.2	93.7	93.7	92.7	→	未達成
	3-2-1 豊かな自然環境の保全											
●	豊かな自然環境が保たれている	H28	73.6	%	71.6	69.1	69.1	72.5	70.4	70.5	→	未達成
○	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている	H28	50.2	%	46.9	49.5	49.6	53.3	51.7	50.2	↗	未達成
	3-2-2 良好な生活環境の保全											
●	空気や水がきれいで、まちな美しく保たれている	H28	74.1	%	71.6	71.0	71.0	74.1	71.8	71.9	→	未達成
○	地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している	H28	48.8	%	50.6	45.2	46.7	46.7	47.5	47.3	↗	未達成
	4-1-1 防災・減災対策の推進											
●	災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている	H28	35.5	%	35.7	34.0	32.9	32.3	34.2	33.8	↗	未達成
○	災害に備えて食料や飲料水などを備蓄している	H28	41.1	%	37.2	36.5	42.3	51.2	49.6	43.4	↗	未達成

質問 分類	施策番号・施策名等 指標名	現状値			実績値						目標	達成 状況
		基準年	現状値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	平均		
	4-1-2 消防力の充実・強化及び火災予防											
●	消防や救急体制が十分に整っている	H28	62.7	%	61.8	61.3	61.5	61.7	60.4	61.3	↗	未達成
○	応急手当の仕方を講習会などにより勉強している	H28	37.6	%	34.5	33.6	34.8	34.0	33.3	34.0	↗	未達成
	4-2-1 交通安全対策の推進											
●	交通マナーが良い地域である	H28	44.1	%	46.2	45.5	43.7	54.9	56.4	49.3	↗	達成
○	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している	H28	90.4	%	86.7	87.8	88.1	90.0	89.7	88.5	→	未達成
	4-2-2 防犯対策の推進											
●	地域で防犯に向けた取組が行われている	H28	41.8	%	44.5	42.1	38.7	42.2	41.0	41.7	↗	未達成
○	犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している	H28	27.6	%	25.9	24.5	23.8	23.7	22.2	24.0	↗	未達成
	4-2-3 安全な消費生活の確保											
●	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている	H28	31.0	%	32.8	32.0	27.5	30.6	31.3	30.8	↗	未達成
○	家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている	H28	60.9	%	55.7	54.5	58.9	57.7	57.2	56.8	↗	未達成
	5-1-1 乳幼児期から高等教育までの教育の充実											
●	子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている	H28	41.2	%	40.1	38.8	46.3	47.6	43.4	43.2	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	5-1-2 子どもに応じた支援の充実											
●	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている	H28	41.0	%	40.9	40.2	42.5	47.4	42.7	42.7	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-
	5-1-3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上											
●	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている	H28	49.7	%	51.4	49.4	53.4	55.9	51.0	52.2	↗	未達成
○	地域の子どもにあいさつや声かけをしている	H28	71.2	%	66.2	64.7	64.0	64.1	62.3	64.3	↗	未達成
	5-2-1 生涯学習環境の充実											
●	公民館などで、学びの機会が提供されている	H28	52.0	%	51.3	52.4	48.7	44.9	43.6	48.2	↗	未達成
○	公民館などで提供されている学びの場に参加している	H28	26.8	%	25.7	25.2	23.6	23.4	22.0	24.0	↗	未達成
	5-2-2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進											
●	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている	H28	50.8	%	52.0	52.1	48.9	45.6	43.8	48.5	↗	未達成
○	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている	H28	19.2	%	18.1	15.6	14.6	13.1	13.1	14.9	↗	未達成
	5-3-1 多彩な文化芸術の創造と活動支援											
●	音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている	H28	40.7	%	39.6	40.6	40.7	39.6	39.5	40.0	↗	未達成
○	音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる	H28	39.4	%	37.1	35.1	33.0	32.6	31.7	33.9	↗	未達成
	5-3-2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進											
●	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている	H28	51.0	%	51.0	48.8	52.8	54.1	52.2	51.8	↗	未達成
○	地域の伝統的な行事に参加している	H28	38.5	%	34.6	34.0	32.1	34.1	31.3	33.2	↗	未達成
	5-4-1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進											
●	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	H28	54.8	%	52.5	51.8	53.3	53.9	53.5	53.0	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-		-	-	-	-	-	-	-	-

質問 分類	施策番号・施策名等 指標名	現状値			実績値						目標	達成 状況
		基準年	現状値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	平均		
	5-4-2 スポーツを通じた交流拡大の推進											
●	プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている	H28	35.1	%	36.7	37.7	39.6	33.0	36.1	36.6	↗	未達成
○	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している	H28	22.8	%	19.7	20.8	19.5	20.4	16.8	19.4	↗	未達成
	5-5-1 国際交流活動の推進											
●	国際交流が盛んに行われている	H28	12.6	%	14.3	15.4	17.4	14.9	12.3	14.9	↗	未達成
○	国際交流イベントに参加している	H28	5.2	%	4.8	3.9	3.7	3.9	3.2	3.9	↗	未達成
	5-5-2 多文化共生の推進											
●	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
○	外国の文化や習慣を理解しようと努めている	H28	31.0	%	32.5	29.3	27.7	30.5	29.4	29.9	↗	未達成
	6-1-1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進											
●	長野市は、魅力的な観光都市である	H28	66.4	%	64.7	60.3	63.7	66.7	64.0	63.9	↗	未達成
○	知人や友人などに地域の魅力を伝えている	H28	36.4	%	35.8	32.3	30.9	32.9	33.1	33.0	↗	未達成
	6-1-2 インバウンドの推進											
●	[再掲:長野市は、魅力的な観光都市である]	H28	66.4	%	64.7	60.3	63.7	66.7	64.0	63.9	↗	未達成
○	困っている外国人観光客を見かけた時、なるべく手助けするよう心がけている	H28	34.2	%	39.1	33.9	32.8	34.7	33.0	34.7	↗	未達成
	6-1-3 コンベンションの誘致推進											
●	コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている	H28	52.6	%	45.2	46.4	47.0	40.9	34.4	42.8	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6-2-1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進											
●	野菜や果物づくりをしている人が増えている	H28	47.5	%	45.0	40.4	41.8	47.0	44.6	43.8	↗	未達成
○	野菜や果物づくりなどを楽しんでいる	H28	44.0	%	47.0	41.7	40.8	43.5	42.4	43.1	↗	未達成
	6-2-2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進											
●	りんご、もも、ぶどうなどの、おいしい農産物が生産されている地域である	H28	87.8	%	86.4	85.7	88.6	89.8	92.0	88.5	→	達成
○	地元産の農作物を意識的に買うように心がけている	H28	80.9	%	77.3	75.9	76.2	78.2	78.5	77.2	→	未達成
	6-2-3 森林の保全と資源の活用促進											
●	森林が整備されている地域である	H28	41.1	%	36.6	34.8	38.8	42.4	41.7	38.9	→	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6-3-1 商工業の強化と環境の整備											
●	活力のある企業が多い地域である	H28	22.8	%	21.7	23.5	24.9	26.9	30.1	25.4	↗	未達成
●	市内に個性的で魅力的なお店が増えている	H28	30.7	%	30.7	31.7	34.1	33.9	37.3	33.5	↗	未達成
○	地元のお店で買い物をするように心がけている	H28	79.6	%	77.7	76.3	76.4	81.4	79.9	78.3	→	未達成
	6-3-2 地域の特性が光る商工業の推進											
●	[再掲:活力のある企業が多い地域である]	H28	22.8	%	21.7	23.5	24.9	26.9	30.1	25.4	↗	未達成
●	[再掲:市内に個性的で魅力的なお店が増えている]	H28	30.7	%	30.7	31.7	34.1	33.9	37.3	33.5	↗	未達成
○	[再掲:地元のお店で買い物をするように心がけている]	H28	79.6	%	77.7	76.3	76.4	81.4	79.9	78.3	→	未達成
	6-3-3 新たな活力につながる産業の創出											
●	新たな雇用が生まれている	H28	9.4	%	10.8	11.6	10.6	8.7	9.3	10.2	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

質問 分類	施策番号・施策名等 指標名	現状値			実績値						目標	達成 状況
		基準年	現状値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	平均		
	6-4-1 就労の促進と多様な働き方の支援											
●	仕事を見つけやすい環境が整っている	H28	13.2	%	12.9	15.5	15.1	13.7	13.7	14.2	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6-4-2 勤労者福祉の推進											
●	市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている	H28	34.4	%	32.6	30.7	30.9	35.2	33.6	32.6	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7-1-1 地域の特性に応じた都市機能の充実											
●	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である	H28	49.4	%	49.2	48.3	47.7	48.1	50.4	48.7	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7-1-2 暮らしを支える生活機能の維持											
●	日常生活に必要なインフラが整備されている	H28	51.7	%	53.3	52.6	49.3	55.3	56.3	53.4	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7-1-3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進											
●	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	H28	30.3	%	30.8	30.4	28.7	31.8	31.4	30.6	↗	未達成
○	(設定なし)	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7-1-4 地域の特色を活かした景観の形成											
●	景観やまちなみが美しい地域である	H28	57.2	%	55.4	54.8	56.6	60.5	59.6	57.4	→	達成
○	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	H28	73.9	%	71.6	71.7	68.0	71.2	71.9	70.9	→	未達成
	7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築											
●	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	H28	35.7	%	33.9	31.9	30.4	34.5	34.1	33.0	↗	未達成
○	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している	H28	26.4	%	27.2	24.2	22.1	21.3	20.4	23.0	↗	未達成
○	公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	H28	50.4	%	55.9	48.4	47.8	49.3	48.7	50.0	↗	未達成
	7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備											
●	〔再掲:公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている〕	H28	35.7	%	33.9	31.9	30.4	34.5	34.1	33.0	↗	未達成
○	〔再掲:通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している〕	H28	26.4	%	27.2	24.2	22.1	21.3	20.4	23.0	↗	未達成
○	〔再掲:公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている〕	H28	50.4	%	55.9	48.4	47.8	49.3	48.7	50.0	↗	未達成

統計指標の進捗状況

分野	A	B	C	D	未確定
分野1 【行政経営分野】(9 指標)	5 (55.6)	0 (0.0)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)
分野2 【保健・福祉分野】(17 指標)	6 (35.3)	1 (5.9)	2 (11.8)	8 (47.1)	0 (0.0)
分野3 【環境分野】(7 指標)	3 (42.9)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	0 (0.0)
分野4 【防災・安全分野】(8 指標)	4 (50.0)	1 (12.5)	2 (25.0)	1 (12.5)	0 (0.0)
分野5 【教育・文化分野】(14 指標)	4 (28.6)	0 (0.0)	1 (7.1)	9 (64.3)	0 (0.0)
分野6 【産業・経済分野】(17 指標)	7 (41.2)	0 (0.0)	1 (5.9)	7 (41.2)	2 (11.8)
分野7 【都市整備分野】(9 指標)	5 (55.6)	0 (0.0)	1 (11.1)	3 (33.3)	0 (0.0)
計画推進重点テーマ1 「魅力ある地域づくり」(2 指標)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計画推進重点テーマ2 「にぎわいあるまちづくり」(4 指標)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)
計画推進重点テーマ3 「活力あるまちづくり」(3 指標)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)
合 計(90 指標)	35 (38.9)	3 (3.3)	15 (16.7)	34 (37.8)	3 (3.3)

※全 90 指標中 8 指標は重複あり

※()内は、分野内で占める割合

全 90 指標のうち、42.2%にあたる 38 指標が「A」または「B」の評価となり、15 指標 (16.7%) が「C」、34 指標 (37.8%) が「D」となりました。

分野別では、分野 4 で「A」及び「B」の評価の割合が 62.5%と高く、続いて分野 3 が 57.1%、分野 1 及び分野 7 が 55.6%、分野 2 及び分野 6 が 41.2%、分野 5 が 28.6% となりました。それぞれの分野の中でも行事・イベントや人の移動を伴う指標が特にコロナ禍の影響を大きく受けているため、これまでの取組の結果が成果として現れない状況となりました。

統計指標一覧

施策番号・施策名等 指標名	基準値			実績値					目標値		進捗率	評価
	基準年	基準値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R3	単位		
1-1-1 市民とともにつくる市政の推進												
審議会等の公募委員の応募倍率	H27	0.7	倍	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	1.0	倍	33.3%	C
パブリックコメント1件当たりに寄せられた意見数	H27	39.7	件	42.5	34.0	121.3	63.9	13.2	50.0	件	-257.3%	D
1-1-2 市民によるまちづくり活動への支援												
地区地域福祉活動計画の評価に取り組んでいる地区数 [再掲: 2-3-2]	H27	17	地区	24	27	28	32	32	32	地区	100.0%	A
1-2-1 効果的で効率的な行財政運営の推進												
実質公債費比率	H27	3.4	%	2.0	2.1	2.8	3.6	R4.11 算出予定	18.0	% 未満	達成	A
将来負担比率	H27	37.7	%	46.2	44.0	50.7	42.8	R4.11 算出予定	150.0	% 未満	達成	A
1-2-2 市民の満足が得られる市政の推進												
行政評価の達成状況	H27	92.0	%	-	-	-	-	-	100	%		未確定
オンライン化可能な申請、届出、予約手続のオンライン化実施率	H27	74.1	%	81.5	88.9	88.9	88.9	R4.12 算出予定	100	%	57.1%	C
オンライン化済の申請、届出、予約手続のオンライン利用率	H27	58.8	%	63.7	63.7	70.4	74.9	R4.12 算出予定	70.2	%	141.2%	A
1-2-3 地方中核都市としての役割の遂行												
長野地域の定住人口	H28	541,368	人	538,608	535,241	531,791	528,488	530,133	525,000	人	145.7%	A
2-1-1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援												
合計特殊出生率(年)	H27	1.55		1.56	1.51	1.55	1.41	R4.12 算定予定	1.65		-140.0%	D
2-1-2 子どもの成長を育む環境の充実												
子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じる保護者の割合	H28	89.1	%	アンケート 未実施	86.3	80.4	90.5	88.0	92.0	%	-37.9%	D
家庭で日頃、子どもに絵本の読み聞かせをしている保護者の割合	H28	88.9	%	アンケート 未実施	89.9	90.0	89.3	85.0	92.0	%	-125.8%	D
2-1-3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援												
高等職業訓練促進給付金事業による就業率	H27	100	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%	100.0%	A
2-2-1 高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進												
社会参加している60歳以上の市民の割合	H28	79.5	%	83.5	81.9	82.2	81.4	79.6	84.0	%	2.2%	C
2-2-2 高齢者福祉サービスの充実												
要介護状態ではない高齢者の割合	H27	86.7	%	86.7	86.9	86.8	86.8	86.8	86.1	%	116.7%	A
2-3-1 障害者(児)福祉の充実												
一般企業の障害者雇用率(年)	H27	2.06	%	2.11	2.21	2.22	2.28	2.36	2.37	%	96.8%	B

施策番号・施策名等 指標名	基準値			実績値					目標値		進捗率	評価
	基準年	基準値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R3	単位		
2-3-2 認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現												
地区地域福祉活動計画の評価に取り組んでいる地区数	H27	17	地区	24	27	28	32	32	32	地区	100.0%	A
2-3-3 生活の安定と自立への支援												
「まいさぼ長野市」の支援により就労した人の割合	H27	38.6	%	55.9	51.9	54.1	67.0	78.5	45.0	%	623.4%	A
2-4-1 健康の保持・増進の支援												
健康寿命(年)	H27	男80.81 女84.97	年	男80.94 女85.16	男82.06 女86.96	男80.9 女85.1	男81.1 女84.8	R5.7以降 算定予定	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	年	男/未達成 女/達成	D
75歳未満のがん死亡率(年)	H27	57.1	-	64.6	66.2	59.9	60.0	R5.6以降 算定予定	45.7	以下	-25.4%	D
糖尿病予備群・糖尿病が強く疑われる市民の割合	H26	男64.9 女68.3	%	男53.8 女57.4	男57.1 女60.5	男53.8 女56.0	男51.1 女49.5	R4.12以降 算定予定	男55.2 女58.1	% 以下	142.3%	A
メタボリックシンドローム予備群・該当者の割合	H26	男38.7 女12.1	%	男47.0 女15.9	男47.5 女15.6	男47.1 女15.8	男50.1 女17.5	R4.12以降 算定予定	男29.1 女9.1	% 以下	-180.0%	D
2-4-2 保健衛生の充実												
自殺率(年)	H27	18.5	-	14.9	17.1	15.9	15.2	13.9	15.5	以下	153.3%	A
2-4-3 地域医療体制の充実												
健康寿命(年) [再掲: 2-4-1]	H27	男80.81 女84.97	年	男80.94 女85.16	男82.06 女86.96	男80.9 女85.1	男81.1 女84.8	R5.7以降 算定予定	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	年	男/未達成 女/達成	D
2-5-1 人権尊重社会の実現												
人権教育・啓発研修会参加者の満足度	H28	89.8	%	90	86.3	83.3	アンケート実施せず	84.8	92.0	%	-227.3%	D
2-5-2 男女共同参画社会の実現												
地域の方針決定の場への女性の参画度	H27	16.4	%	16.5	16.0	17.9	17.5	16.8	30.0	%	2.9%	C
3-1-1 低炭素社会の実現												
温室効果ガス排出量	H24	14.55	kg-CO ₂ 以下	16.22	15.0	R5.2 算定予定	R6.2 算定予定	R7.2 算定予定	14.08	kg-CO ₂ 以下	-95.7%	D
再生可能エネルギーによる電力自給率(発電設備容量)	H26	39.1	%	49.5	51.8	54.7	56.4	57.9	60.0	%	90.0%	B
木質バイオマス燃料需要量(灯油換算)	H27	180,120	ℓ	245,420	292,795	278,424	254,305	237,993	330,000	ℓ	38.6%	C
3-1-2 循環型社会の実現												
事業所からのごみ排出量	H27	41,662	t	41,295	40,897	41,950	37,507	38,079	41,538	t以下	2889.5%	A
ごみ総排出量	H27	961	g	939	926	928	910	892	935	g以下	265.4%	A
3-2-1 豊かな自然環境の保全												
環境保全活動参加者数	H27	3,766	人	4,629	4,842	4,588	1,814	1,805	4,700	人	-210.0%	D
3-2-2 良好な生活環境の保全												
ポイ捨て等ごみ回収量	H27	25,719	kg	16,171	16,576	16,263	11,837	9,245	21,500	kg以下	390.5%	A

施策番号・施策名等 指標名	基準値			実績値					目標値		進捗率	評価
	基準年	基準値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R3	単位		
4-1-1 防災・減災対策の推進												
地域防災マップ作成率	H27	65.8	%	74.4	76.4	77.2	77.8	78.0	85.1	%	63.2%	C
防災訓練実施率	H27	87.1	%	85.1	82.1	68.9	55.0	60.4	100.0	%	-207.0%	D
4-1-2 消防力の充実・強化及び火災予防												
出火率(年)	H27	3.3	件	2.8	3.9	3.4	2.5	2.5	3.0	件以下	266.7%	A
4-2-1 交通安全対策の推進												
交通事故件数(年)	H27	1,701	件	1,471	1,306	1,114	992	1,033	1,250	件以下	148.1%	A
高齢者の交通事故件数(年)	H27	580	件	502	481	393	360	406	375	件以下	84.9%	B
4-2-2 防犯対策の推進												
刑法犯発生件数(年)	H27	2,324	件	1,934	1,843	1,877	1,282	1,190	2,000	件未満	350.0%	A
4-2-3 安全な消費生活の確保												
通信販売(インターネット等)に関する被害認知件数	H27	99	件	90	63	59	59	30	50	件以下	140.8%	A
特殊詐欺認知件数(年)	H27	54	件	49	38	27	29	43	25	件以下	37.9%	C
5-1-1 乳幼児期から高等教育までの教育の充実												
全国学力・学習状況調査における国語、算数、数学の平均正答率	H27	小学生 国語A 101.0 国語B 101.2 算数A 100.1 算数B 103.6 中学生 国語A 99.2 国語B 97.4 数学A 97.2 数学B 95.7	—	小学生 国語A 102.0 国語B 101.6 算数A 101.7 算数B 102.0 中学生 国語A 100.9 国語B 98.5 数学A 97.4 数学B 97.3	小学生 国語A 103.2 国語B 101.1 算数A 99.7 算数B 100.6 中学生 国語A 99.9 国語B 99.2 数学A 97.9 数学B 95.8	小学生 国語 103.4 算数 100.6 中学生 国語 101.6 数学 100.3	未実施	小学生 国語 98.9 算数 99.7 中学生 国語 100.6 数学 99.7	小学生 国語A 103 国語B 98.9 算数A 103 算数B 102 中学生 国語A・B 数学A・B 100	—	-19.0%	D
全国体力・運動能力、運動習慣等調査において全国平均値を上回った種目数	H27	小学生 男子 5 女子 5 中学生 男子 3 女子 4	種目	小学生 男子 5 女子 4 中学生 男子 7 女子 4	小学生 男子 6 女子 2 中学生 男子 7 女子 4	小学生 男子 6 女子 5 中学生 男子 6 女子 4	未実施	小学生 男子 6 女子 5 中学生 男子 6 女子 4	小学生 男子 6 女子 6 中学生 男子 4 女子 5	種目	100.0%	A
5-1-2 子どもに応じた支援の充実												
不登校児童・生徒の学校復帰率	H27	小学生 47.4 中学生 35.3	%	小学生 46.7 中学生 39.6	小学生 48.2 中学生 38.1	小学生 38.1 中学生 38.6	小学生 46.8 中学生 43.1	小学生 52.2 中学生 48.7	毎年度、国の不登校児童・生徒の学校復帰率の数値を上回る(R3/小学生27.1、中学生28.1)	%	173.3%	A
5-1-3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上												
家の人と学校での出来事について話をしている児童・生徒の割合	H27	小学生 100.5 中学生 99.2	—	小学生 98.6 中学生 101.1	小学生 100.9 中学生 100.0	小学生 99.9 中学生 101.3	未実施	未実施	小学生 101.2 中学生 100.6	—	-85.7%	D
住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合	H27	小学生 129.4 中学生 118.8	—	小学生 135.6 中学生 120.9	小学生 159.8 中学生 114.3	小学生 128.1 中学生 120.0	未実施	小学生 140.0 中学生 126.9	小学生 131.7 中学生 120.6	—	450.0%	A
5-2-1 生涯学習環境の充実												
若い世代を中心に構成される団体が市立公民館を利用した割合	H27	9.9	%	10.5	9.5	7.8	7.8	7.5	11.0	%	-218.2%	D

施策番号・施策名等 指標名	基準値			実績値					目標値		進捗率	評価
	基準年	基準値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R3	単位		
5-2-2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進												
市立公民館の講座における地域住民が講師を務めた講座の割合	H27	37.2 %		31.5	30.6	34.9	28.6	27.7	38.5 %		-730.8%	D
5-3-1 多彩な文化芸術の創造と活動支援												
市有ホール施設の利用者数	H27	277,372 人		402,734	406,206	359,927	149,200	237,929	535,000 人		-15.3%	D
5-3-2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進												
文化財保護活動参加者数	H27	5,537 人		6,149	6,417	6,348	5,255	2,195	5,800 人		-1270.7%	D
5-4-1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進												
スポーツ実施率	H27	59.1 %		55.9	56.1	59.9	59.9	62.3	65.0 %		54.2%	C
5-4-2 スポーツを通じた交流拡大の推進												
南長野運動公園総合球技場入場者数	H27	171,228 人		154,669	116,948	90,838	62,403	50,174	251,500 人		-150.8%	D
5-5-1 国際交流活動の推進												
国際交流事業件数	H27	7 件		9	12	10	2	0	13 件		-116.7%	D
5-5-2 多文化共生の推進												
国際交流コーナーの利用者数	H27	8,909 人		9,416	9,783	8,098	5,582	5,681	9,200 人		-1109.3%	D
SNSのフォロワー数	H27	449 人		660	726	796	866	898	800 人		127.9%	A
6-1-1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進												
市内観光宿泊者数(年)	H27年御開帳開始時 (H23～26年御開帳 係非開帳時の平均)	160 (140) 万人泊		161	153	157	103	R4.11 算定予定	R3年御開帳開始時 176 (R2年御開帳非開帳 時151)	万人泊	-336.4%	D
観光消費額	H27	13,017 円		13,866	10,415	11,693	12,497	11,601	14,300 円		-110.4%	D
観光入込客数	H27年御開帳開始時 (H23～26年御開帳 係非開帳時の平均)	1,701 (1,002) 万人		1,101	1,073	1,038	448	528	R3年御開帳開始時 1,790 (R2年御開帳非開帳 時1,040)	万人	-1247.4%	D
6-1-2 インバウンドの推進												
市内外国人宿泊者数(年)	H27	59,206 人泊		86,382	107,081	117,334	24,344	R4.11 算定予定	71,000 人泊		-295.6%	D
6-1-3 コンベンションの誘致推進												
コンベンションの参加者数	H27	115,537 人		106,513	113,702	108,061	10,220	28,771	120,000 人		-1944.1%	D
6-2-1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進												
新規就農者数(5年間累計)	H27 (H23～27 の累計)	118 人		36	87	130	183	228	150 人		343.8%	A
農地の利用権設定面積	H27	667.3 ha		750.1	773.2	831.6	752.7	835.4	893 ha		74.5%	C
6-2-2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進												
果樹の新品種・新技術による栽培面積	H27	68.3 ha		86.1	95.9	109.2	120.5	153.6	106 ha		226.3%	A
果樹農業生産額	H28	92.7 億円		90.2	92.0	87.6	89.6	84.4	104 億円		-73.5%	D

施策番号・施策名等 指標名	基準値			実績値					目標値		進捗率	評価
	基準年	基準値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R3	単位		
6-2-3 森林の保全と資源の活用促進												
木材生産量	H27	8,168	m ³	9,345	13,783	6,867	9,773	5,693	17,500	m ³	-26.5%	D
6-3-1 商工業の強化と環境の整備												
製造品出荷額等(年)	H26	4,388	億円	5,506	5,661	5,884	5,938	R5.2以降 算定予定	4,575	億円	828.9%	A
商品販売額(小売業)(年)	H26	4,290	億円	-	-	-	-	R6.2以降 算定予定	4,290	億円		未確定
6-3-2 地域の特性が光る商工業の推進												
製造品出荷額等(年) [再掲:6-3-1]	H26	4,388	億円	5,506	5,661	5,884	5,938	R5.2以降 算定予定	4,575	億円	828.9%	A
商品販売額(小売業)(年) [再掲:6-3-1]	H26	4,290	億円	-	-	-	-	R6.2以降 算定予定	4,290	億円		未確定
6-3-3 新たな活力につながる産業の創出												
新技術・新製品開発件数	H27	29	件	36	39	42	45	47	47	件	100.0%	A
6-4-1 就労の促進と多様な働き方の支援												
就職情報サイト「おしごとなが の」セッション数	H27	41,253	回	92,505	145,486	167,067	170,081	155,257	62,000	回	549.5%	A
6-4-2 勤労者福祉の推進												
長野市勤労者共済会への加入 者割合	H27	10.9	%	10.2	10.5	10.6	11.2	11.3	11.0	%	400.0%	A
7-1-1 地域の特性に応じた都市機能の充実												
人口密度	H27	50.9	人/ ha	50.9	50.8	50.7	50.6	50.4	50.9	人/ha	-50.0%	D
7-1-2 暮らしを支える生活機能の維持												
上下水道管の耐震化率	H27	11.4	%	13.1	13.9	14.4	15.2	15.8	14.5	%	141.9%	A
7-1-3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進												
道路施設における歩行空間の 整備	H27	279.9	km	289.4	292.0	293.7	296.8	297.1	286.0	km	282.0%	A
	H27	84.1	km	85.9	86.6	87.5	89.8	89.8	87.0	km	196.6%	A
	H27	331	箇所	356	370	384	391	396	360	箇所	224.1%	A
7-1-4 地域の特色を活かした景観の形成												
道路美化延長	H27	7.83	km	8.41	8.41	8.52	8.62	9.00	9.00	km	100.0%	A
7-2-1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築												
公共交通利用回数	H26	128.5	回/ 人	139.0	139.4	137.0	100.7	R4.12以降 算定予定	132.1	回/人	-772.2%	D
7-2-2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備												
公共交通利用回数 [再掲:7-2-1]	H26	128.5	回/ 人	139.0	139.4	137.0	100.7	R4.12以降 算定予定	132.1	回/人	-772.2%	D
自転車通行空間の延長	H27	7.96	km	8.70	9.00	9.80	11.40	13.40	15.00	km	77.3%	C

施策番号・施策名等 指標名	基準値			実績値					目標値		進捗率	評価
	基準年	基準値	単位	H29	H30	R1	R2	R3	R3	単位		
計画推進重点テーマ1 「魅力ある地域づくり」～暮らし続けられる環境づくりに向けて～												
環境や体制に関するアンケート指標の達成度	H27	-	-	-	-	-	-	-	3	53 指標	5.7%	C
市民(回答者)の実践状況に関するアンケート指標の達成度	H27	-	-	-	-	-	-	-	1	38 指標	2.6%	C
計画推進重点テーマ2 「にぎわいあるまちづくり」～交流人口の増加に向けて～												
地域ブランド調査結果(認知度)	H27	84 位		56	39	52	64	77		50 位	20.6%	C
地域ブランド調査結果(魅力度)	H27	63 位		86	51	80	87	57		50 位	46.2%	C
地域ブランド調査結果(観光意欲度)	H27	96 位		86	65	60	107	74		50 位	47.8%	C
観光入込客数 [再掲: 6-1-1]	H27年御開帳期間 推定 (H27～28年御開帳 期間推定の平均)	1,701 (1,002)	万人	1,101	1,073	1,038	448	528	R3年御開帳期間推定: 1,790 (R2年御開帳期間推定: 1,040)	万人	-1247.4%	D
計画推進重点テーマ3 「活力あるまちづくり」～定住人口の増加に向けて～												
定住人口	H28	376,672 人		374,910	372,815	370,632	368,586	371,131		367,000 人	234.1%	A
合計特殊出生率(年) [再掲: 2-1-1]	H27	1.55		1.56	1.51	1.55	1.41	R4.12 算出予定		1.65	-140.0%	D
健康寿命(年) [再掲: 2-4-1]	H27	男80.81 女84.97	年	男80.94 女85.16	男82.06 女86.96	男80.9 女85.1	男81.1 女84.8	R5.7以降 算定予定	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	年	男/未達成 女/達成	D

個 表

分野1 行政経営の方針(行政経営分野)

政策1 市民が主役のまちづくりの推進

施策1 市民とともにつくる市政の推進

施策2 市民によるまちづくり活動への支援

政策2 将来にわたり持続可能な行財政運営の確立

施策1 効果的で効率的な行財政運営の推進

施策2 市民の満足が得られる市政の推進

施策3 地方中核都市としての役割の遂行

1 施策の概要

施策番号	1-1-1		
分野	行政経営分野	担当部局	企画政策部
政策	市民が主役のまちづくりの推進	担当課	広報広聴課
施策	市民とともに作る市政の推進		
施策の目指す状態	市政情報を迅速に分かりやすく提供するとともに、多くの市民意見を市政に活用している。		

※ SDGsとの関連

	社会						環境				経済				全体			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
主要な目的に該当するゴール							○											○

2 指標の推移等

指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	市民の声が市政に反映されている	%	(H28) 19.2	19.0	18.4	18.7	21.2	18.8	19.2	↑
	R3年度実績値の理由	昨年度に比べ、18歳～19歳では肯定的評価が7ポイント以上上昇したものの、他の年代では肯定的回答が低下し、全体では一昨年並みの値となった。5年間の平均値で見ても基準値と同値である。									
	回答者自身の実践状況①	地域づくりに関するアイデアを市役所や自治会などに寄せている	%	(H28) 9.8	9.4	10.0	7.7	8.5	10.1	9.1	↑
	R3年度実績値の理由	昨年度に比べ、20歳代以外の年代で上昇し、全体で1.6ポイント上昇しているが、基準と比較しても大きな差はなく、許容すべき変動の範囲であると言える。									
統計指標	審議会等の公募委員の応募倍率	審議会等委員の公募人数に対する応募者数の比率 (直近2年間の平均)	倍	(H27) 0.7	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8		1.0
	R3年度実績値の理由	総務課	令和3年度は0.8となった。審議会等によって応募数の多寡がある。								
	パブリックコメント1件当たりに寄せられた意見数	パブリックコメント1件当たりに寄せられた意見数 (直近5年間の平均)	件	(H27) 39.7	42.5	34.0	121.3	63.9	13.2		50.0
	R3年度実績値の理由	広報広聴課	令和3年度は30件の政策案件に対して397件の意見が寄せられた (令和2年度は8政策・511件)。内容によって0件から75件の意見もあるなど、数に大きなばらつきがあった。直近5年間の平均値 (55.0) は目標値を上回った。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ながの未来トーク」(住自協主催)を通じ、地区の活動状況や課題などについて意見交換を行った。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を予定した地区が4地区にとどまり、うち2地区では中止せざるを得なかった。開催した2地区では、市の説明に対する理解度は8割弱で、地区住民と市の対話の場として、一定の役割を果たした。 ・「みどりののはがき」では、従来、投書者の性別を聞いていたが、多様な性自認に対応し、性別欄を廃止した。また、年齢欄は20歳代、30歳代というような選択肢を選ぶよう変更するなど、投書しやすいような改善を実施した。 ・「カトウさんへの提案ポスト」は、加藤前市長の退任に伴い、制度を終了することとした。 ・コロナ禍において、広報紙やホームページ、動画配信などを活用した情報発信の他、マスメディア(駅前大型ビジョン、新聞、ラジオCM)を活用した注意喚起の充実を努めた。また、情報の伝達媒体が多様化する中、11月には市公式LINEをスタートさせ、情報発信力の強化を進めた。さらに、広報紙については、より分かりやすく見やすい紙面を目指して、令和4年度の広報紙リニューアルに向けた準備を開始した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ながの未来トークでは、若者や女性が参加しやすいよう、開催者に曜日や時間、テーマなどへの工夫を引き続き依頼していく。一方で、従来のやり方は、感染症拡大による中止のリスクがあるとともに、開催者である住自協も負担と感じている。 ・読みやすい広報紙への改善が必要。ホームページでは、利用者が探しやすい使いやすい機能性を踏まえたより充実した構成に改善する必要がある。 	市民の誰もが市政情報を得られるよう、広報紙による発信を継続するとともに、ホームページやソーシャルメディア等の媒体をより一層活用した効果的な情報発信を図る必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ながの未来トークでは、多くの市民の意見を市政に反映できるよう、幅広い層との意見交換の場をもちつつ、時代の要請に即した開催方法について検討する必要がある。 ・より分かりやすく見やすく、手に取りたくなる広報紙を目指してリニューアルを進める。また、ホームページについては、より機能性、利便性の高いホームページにリニューアルする。さらに、職員を対象とした研修会などを開催し、情報発信力の強化と職員のスキル向上に努める。 	

1 施策の概要

施策番号	1-1-2	
分野	行政経営分野	担当部局 地域・市民生活部
政策	市民が主役のまちづくりの推進	担当課 地域活動支援課
施策	市民によるまちづくり活動への支援	
施策の 目指す状態	行政、市民、地域コミュニティ組織、市民公益活動団体、民間企業など多様な主体による協働のまちづくりが、暮らしやすい地域社会につながっている。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
							○										○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケータ指標 環境・体制に関する評価①	住民自治協議会、区、自治会、NPO法人などの活動がまちづくりに役立っている	%	(H28) 36.3	38.0	36.1	36.3	38.5	37.5	37.3	↗
R3年度実績値の理由	市民公益団体の活動に対する重要性の認識が一部の市民に留まっているため									
アンケータ指標 回答者自身の実践状況①	住民自治協議会、区、自治会などの活動やまちづくりに関わるボランティア活動などに参加している	%	(H28) 23.2	23.5	23.6	23.1	24.0	24.9	23.8	↗
R3年度実績値の理由	地縁活動やボランティア活動への参加が一部の市民に限られているため									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
統計指標 地区地域福祉活動計画の評価①	地区	(H27) 17	H29	H30	R1	R2	R3	備考		
地区地域福祉活動計画の評価①	地区地域福祉活動計画の進捗状況の把握や計画の検証・見直しに取り組んでいる地区数 (再掲: 2-3-2)	地区	24	27	28	32	32		32	
R3年度実績値の理由	福祉政策課	各地区において地区地域福祉活動計画等の評価に取り組んでいる。								
R3年度実績値の理由	(H27)									

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	自主性・自立性を尊重した公益活動を推進するため、市民公益につながる活動の財政的支援を行うとともに、市民協働サポートセンターが地縁組織を含む市民公益団体を支援し、市民や団体同士の協働の場をコーディネートすることに取り組んだ。また、市民協働サポートセンターがホームページやフェイスブック等による情報発信に力を入れたことにより、市民がまちづくりの重要性を認識することにつながり、利用者数は前年比127.0%となるなど、より多くの活動の支援につながった。
--	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
ボランティア活動や地縁組織などによる市民公益活動は広がりつつあるが、少子高齢化が進む中、地域の中で豊かな生活を送るには、今後ますます、互助共助や協働によるまちづくり活動の必要性が求められてくることから、多様な支援により、自主性・自立性を尊重した活動を広げていく必要がある。	あらゆる世代や様々な立場にある市民にとって、快適に暮らし、活動しやすく持続可能なまちづくりを推進するため、市民による自主的な活動を一層支援していく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
自主性・自立性を尊重した公益活動を強化するため、市民公益につながる活動の財政的支援を行うとともに、市民協働サポートセンターが市民公益団体の支援の核となり、また、新たな活動団体の育成等も行うことにより、市民や団体同士の協働の輪を広げながら、その活動のコーディネートを充実していく必要がある。	

1 施策の概要

施策番号	1-2-1			担当部署	総務部
分野	行政経営分野			担当課	行政管理課
政策	将来にわたり持続可能な行財政運営の確立				
施策	効果的で効率的な行財政運営の推進				
施策の目指す状態	安定的な行政サービスが提供される持続可能な財政基盤が構築されている。				

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○										○

2 指標の推移等

アンケータ指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	効果的で効率的な行政運営が行われている	%	(H28) 20.4	19.5	18.6	20.1	22.2	20.5	20.2	↗
R3年度実績値の理由	否定的意見が3.0ポイント増加したことに加え、肯定的意見が1.7ポイント減少した。行政運営に係る効果が見えにくいといった意見が寄せられている。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
	実質公債費比率	財政規模に対する公債費の割合	%	(H27) 3.4	2.0	2.1	2.8	3.6	R4.11算出予定	18%未満
	R3年度実績値の理由	財政課	令和3年度分は、令和4年11月を予定							
将来負担比率	財政規模に対する確定している負債の割合	%	(H27) 37.7	46.2	44.0	50.7	42.8	R4.11算出予定	150%未満	
R3年度実績値の理由	財政課	令和3年度分は、令和4年11月を予定								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容(改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 市民生活の安全確保と市民が未来に向けて安心を実感できることを目指し、令和元年東日本台風災害からの復興、新型コロナウイルス感染症対策を含む喫緊の課題に対応するとともに、地域経済の活性化とまちの賑わいを創出する事業へ積極的に予算を配分し取り組んだ。 第七次長野市行政改革大綱に関する具体的な取組を盛り込んだ実施計画に基づき、行政改革を実施した。 公共施設マネジメント推進に向けた中長期的な方向性を定める「公共施設等総合管理計画」を改訂した。 効率的な業務推進を目指し、介護認定申請受付や新規口座振替データ登録などの業務にAI-OCRやRPAといったデジタル技術を導入した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 通常の業務に加え、令和元年東日本台風災害からの復興や新型コロナウイルス感染症への対応など新たな事務も発生する中で、限られた資源を効果的に割り当てていく必要がある。 公共施設については、多くの施設が老朽化し、改修や更新費用の増大などが見込まれる中、将来に渡り効率的に施設を更新する必要がある。 市が取り組んでいる施策や事業について、その情報が市民に十分伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政の効率化と公平性・透明性の実現に向け、市民理解を得られるよう説明責任を意識して取り組む必要がある。 誰もが将来にわたり住み続けたいと感じる持続可能なまちづくりを目指し、行財政運営を進める必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 様々な新たな課題に対応しながら、市民サービス向上に向け、限られた財源や職員の配分を最適化するため、行政DXへの取組を加速していく。 公共施設の効率的な更新に向け、コストや利用率などの調査を行い、今後の施設の在り方を検討していく。 様々な市の事業や取組が市民に十分伝わり、更に関心が持てるよう、また、併せて市が発信する情報を市民が受け取りやすいよう、情報の発信方法を工夫していく。 	

1-2-2

1 施策の概要

施策番号	1-2-2		
分野	行政経営分野	担当部局	総務部
政策	将来にわたり持続可能な行財政運営の確立	担当課	総務課
施策	市民の満足が得られる市政の推進		
施策の 目指す状態	市民ニーズを踏まえた質の高い行政サービスを提供している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
							○										○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価① 市民のニーズを踏まえた行政運営が行われている	%	(H28) 20.2	19.2	19.5	20.4	23.3	20.9	20.7	↗
R3年度実績値の理由	否定的意見が4.7ポイント増加したことに加え、肯定的意見が2.4ポイント減少した。事業内容や進捗状況について否定的な意見が寄せられており、新型コロナウイルス感染症対策など、新たな課題への対応について評価が低いため								
環境・体制に関する評価② 市の職員に好感が持てる	%	(H28) 45.2	43.4	44.7	43.8	47.3	49.4	45.7	↗
R3年度実績値の理由	否定的意見が1.0ポイント増加した一方、肯定的意見が2.1ポイント増加した。職員の対応は親切で丁寧という意見が多く、市民の職員に対する信頼度や期待度が高いと考える。								
回答者自身の実践状況① (設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
行政評価の達成状況 行政評価の一環として実施する施策評価における、施策の目指す状態の達成状況の割合	%	(H27) 92.0	-	-	-	-	-	-	100
R3年度実績値の理由									
オンライン化可能な申請、届出、予約手続のオンライン化実施率	%	(H27) 74.1	81.5	88.9	88.9	88.9	88.9	算定中	100
R3年度実績値の理由	行政DX推進課 令和3年度分は令和4年12月頃の予定								
オンライン化済の申請、届出、予約手続のオンライン利用率	%	(H27) 58.8	63.7	63.7	70.4	74.9	74.9	算定中	70.2
R3年度実績値の理由	行政DX推進課 令和3年度分は令和4年12月頃の予定								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の窓口に行かなくても各種申請手続が可能となるよう、押印廃止による行政手続のオンライン化に取り組んだ。 持続可能なまちづくりを実現する観点から、SDGsの視点を取り入れた行政評価を継続して実施した。 新規採用の正規職員や会計年度任用職員を対象とした接遇向上のための研修を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズに応える行政手続のデジタル化を図るため、更に業務のペーパーレス化やオンライン化を進めるとともに、デジタル化した行政サービスを利用することができる市民を増やす取組が必要である。 現行の行政評価の効果が見えにくい中、より市民サービスに繋がる評価となるよう見直しを行う必要がある。 市民の信頼と期待に応えられる職員の育成のため、研修等の更なる取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、良質な市民サービスの提供を意識し、丁寧で分かりやすい対応を行う必要がある。 誰一人取り残さない社会の実現を意識しつつ、市民が主役のまちづくりを進める必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 市民の利便性向上のため、行政手続のオンライン化を更に進めるとともに、デジタルデバインド対策に取り組んでいく。 行政評価を施策の推進や事業目標の達成、市民サービスの向上に繋げるため、EBPM（証拠に基づく政策立案）の視点を含め、具体的な手法について検討を進める。 社会状況や市民ニーズの変化を踏まえ、職員の能力開発や能力向上のための研修を実施する。 	

1-2-3

1 施策の概要

施策番号	1-2-3		
分野	行政経営分野	担当部局	企画政策部
政策	将来にわたり持続可能な行財政運営の確立	担当課	企画課
施策	地方中核都市としての役割の遂行		
施策の目指す状態	地方公共団体間の連携を有効に活用し、連携する市町村全体が発展している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境				経済				全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○			○		○			○	○	○	○		○

2 指標の推移等

	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	長野市は近隣市町村と連携し、広域的に発展に向けて取り組んでいる	%	(H28) 30.9	28.8	27.1	29.2	31.3	30.0	29.3	↗
	R3年度実績値の理由	ニュースや市広報での知っているとの意見もあったが、商業や災害など一部事業への否定的意見があり、市全体としての取り組み内容が十分周知されていないと思われる。									
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
	R3年度実績値の理由										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	備考		
	長野地域の定住人口	長野県毎月人口異動調査における、6月1日現在の長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、小川村、飯綱町の人口の合計	人	(H27) 541,368	538,608	535,241	531,791	528,488	530,133		526,000
	R3年度実績値の理由	企画課	令和2年10月の国勢調査により、長野市の人口に増加補正があったため、圏域全体としての目標値(526,000人)を4,133人上回った。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容(改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 長野地域連携中枢都市圏ビジョンにおいて設定している成果指標を基に、連携事業を評価し改善につなげるPDCAサイクルを令和元年度から引き続き実施した。 令和3年4月から「第二期長野地域連携中枢都市圏ビジョン」をスタートさせ、圏域全体を持続可能な形で活性化し、発展させていくことを目指して、構成市町村間で互いの強みを活かし弱みを補うための事業を行った。 長野地域連携中枢都市圏の経済基盤の強化に向けて、戦略マネージャーとプロジェクトチームが一体となり、経済基盤の強化を目指す「長期戦略2040」に基づき、各プロジェクトを進めた。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
圏域全体の持続可能な地域づくりを目指し、人口減少に歯止めをかけ、将来においても一定の人口を維持できるよう、雇用の主な受け皿である本市の経済基盤の強化に継続的に取り組む必要がある。	経済基盤の強化に際しては、社会や環境の側面にも配慮する必要がある、社会・環境・経済の3側面の統合的な取組とする必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
<p>持続可能な社会の実現のため、「第二期長野地域連携中枢都市圏ビジョン」に掲げる連携事業を推進する。また、新型コロナウイルスの影響により低迷した経済の回復と経済基盤の強化のため「長期戦略2040」に基づく既存産業の底上げと付加価値の高い産業を創造していく。</p> <p>また、SDGsの推進についても連携事業に位置付けており、長野市は、長野地域連携中枢都市圏の「連携中枢都市」として、圏域全体での効果を考えて計画を組み立てていく。</p> <p>これら連携事業の取組みのPR、周知について、効果的な広報手段を検討・実施する。</p>	

分野2 人にやさしく人がいきいき暮らすまち「ながの」(保健・福祉分野)

政策1 少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援

施策1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援

施策2 子どもの成長を育む環境の充実

施策3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援

政策2 生きがいのある豊かな高齢社会の形成

施策1 高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進

施策2 高齢者福祉サービスの充実

政策3 だれもが自分らしく暮らせる社会の形成

施策1 障害者(児)福祉の充実

施策2 認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現

施策3 生活の安定と自立への支援

政策4 安心して暮らせる健康づくりの推進

施策1 健康の保持・増進の支援

施策2 保健衛生の充実

施策3 地域医療体制の充実

政策5 人権を尊ぶ明るい社会の形成

施策1 人権尊重社会の実現

施策2 男女共同参画社会の実現

1 施策の概要

施策番号	2-1-1			担当部局	こども未来部・保健福祉部
分野	保健・福祉分野			担当課	こども政策課
政策	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援				
施策	結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援				
施策の目指す状態	若い世代が結婚や妊娠・出産についての希望をかなえ、温かい社会の中で安心して子どもを育てている。				

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○		○		○										○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	子どもを産み育てやすい地域である	%	(H28) 63.9	52.9	54.8	52.3	56.3	55.9	54.4	↗
R3年度実績値の理由	10代、30代、60代の肯定的割合は昨年度より上昇したが、全体の肯定的割合としては昨年度より減少した。これは、主に子どもがいる家庭での肯定的割合が減少したことによるものと思われ、長引くコロナ禍による子育て環境の悪化が懸念される。									
回答者自身の実践状況①	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている	%	(H28) 45.3	47.9	42.5	45.2	48.5	46.4	46.1	↗
R3年度実績値の理由	10代、30代、60代の肯定的割合は昨年度より上昇したが、全体の肯定的割合としては昨年度より減少し、コロナ禍においても支え合う子育ての気運は乏しい状況といえる。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
合計特殊出生率 (年)	一人の女性が生涯に産む子どもの数	(H27) 1.55	H29 1.56	H30 1.51	R1 1.55	R2 1.41	R3 R4.12 算定予定	備考	1.65	
R3年度実績値の理由	企画課	令和2年度の目標値が大きく下落した要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症感染拡大などによる社会状況の変化があるとされており、今後も状況を注視していく。(令和3年度分は令和4年12月算定予定)								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども総合プランの安定的・継続的实施のため、放課後子ども総合プラン推進委員会において事業の運営体制の在り方について検討した結果、新法人設立の提言を受けたことから、市として一般財団法人の設立を決定した。 ・子育て短期支援事業では、令和2年度に受入施設を増やし、利用希望に沿えるよう対応した。 ・「ながのわくわく子育てLINE配信事業」は、令和元年11月からLINEで配信を行っているが、多くの人々が利用しやすくなるよう、令和3年11月に長野市公式アカウントとしてリニューアルしたことに伴い、配信カテゴリのひとつとなった。 ・未婚化・晩婚化が進行する中、若者が結婚・子育てを含む将来設計について早期に考える機会を持つことが大切であるため、大学等が主催するセミナーに講師を派遣し、ライフデザインについて考える機会を提供した。また、若手社会人を対象に、ライフプランを考える上で必要な資金計画やワーク・ライフ・バランスなどのライフデザインに関するセミナーを開催した。 ・ながの版ネウボラ：母子手帳の交付時から保健師による全数面談受付を目指し、保健センターへ専任の母子保健コーディネーターを平成28年度から配置した。令和元年度には新たに西部・東部に配置し、本庁健康課窓口もネウボラ窓口に位置付けた。保健センターでの母子手帳交付数は母子保健コーディネーターを配置以降、徐々に伸びており、令和3年度の交付数は1281件(49.0%)であった。また、市内一円において連携した支援のための母子保健コーディネーター会議を定期的に開催した(令和3年度は年4回実施)。 ・産後ケア：令和元年12月から「通所型」(日帰りサービス)を導入し、利用者のニーズに幅広く対応し、利便性の向上を図った。(令和元年度(12月～3月)：76件、令和2年度：474件、令和3年度：1,294件) ・マタニティーセミナー：令和2年4月から母子手帳交付時に「マタニティノート」を全妊婦に渡し、妊娠初期から早産の原因となりうる生活習慣を改善していくための支援強化を図った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止を図るとともに、放課後子ども総合プラン事業における安心安全な子どもの居場所を確保する。 ・子育て短期支援事業は、委託施設の定員に空きがなく、また、新型コロナウイルスの影響もあり、利用希望に沿えないことがある。 ・「結婚などに関する市民意識アンケート調査」の結果において、結婚には前向きであるが「特に婚活はしていない」若者が多いことから、出会いの場の提供や支援が必要。 ・妊娠、出産、子育ての様々な不安を軽減するために切れ目のない支援が図られ、家庭や地域において安心して子どもを産み育てられるよう、妊産婦及び子育て家庭の個別のニーズを把握し必要なサービスを円滑に提供できる体制整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・職場・地域など、市全体での子育て世代に対する支援の取り組みをつなげる必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども総合プラン事業については、年少人口の推計を見据えつつ、必要な居室の確保に向け、施設・設備等の整備方針を検討していくとともに、事業の安定的・継続的な実施に向け、新法人への運営体制の移行を確実にを行うとともに、適正な利用者負担の検討等を進めていく必要がある。 ・子育て短期支援事業は、利用者の利用希望に応じていくため、受け入れ先の拡大等を検討する必要がある。 ・婚活イベントを開催するなど、独身男女に出会いの場を提供するとともに、独身者が結婚・子育てを含むライフプランを考える上で必要な経済的、精神的、身体的側面に関するセミナーを開催し、結婚・子育ての希望が叶うよう情報提供を行う。 ・母子手帳の交付時から早期にハイリスクの妊産婦を把握し支援につなぐため、市内全域をカバーできるよう母子保健コーディネーターを配置し、保健師による全数面談受付を目指す。 ・母子手帳交付時にマタニティーノートを配布し、妊娠初期から早産の原因となりうる生活習慣を改善していくための知識の普及、支援の強化を図る。また、妊婦との面接をとし、妊娠から出産に関する不安の軽減および産後の子育て支援に関する支援体制の周知に努める。 ・相談から支援につなげるため、母子保健コーディネーター、保健センター保健師、子育てコンシェルジュ及び医師等の情報共有や連携強化を図る。 	

2-1-2

1 施策の概要

施策番号	2-1-2		
分野	保健・福祉分野	担当部局	こども未来部
政策	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	担当課	保育・幼稚園課
施策	子どもの成長を育む環境の充実		
施策の目指す状態	乳幼児期の子どもが、安心感や人への信頼感を土台にして健やかに育ち、その後の発達・成長の基礎となる力を着実に育てている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境				経済			全体			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
				○			○											○

2 指標の推移等

指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	幼稚園・保育所・認定子ども園における教育・保育が充実している	%	(H28) 57.4	51.5	52.1	50.9	53.6	51.5	51.9	↑
	R3年度実績値の理由	4月に待機児童について7人確認されたこと及び希望の施設に入れないなどの意見があったことから、肯定的な割合が若干減少したと思われる。									
	回答者自身の実践状況①	子育てしている家庭を温かく見守り、必要な時には手助けしている (再掲：2-1-1)	%	(H28) 45.3	47.9	42.5	45.2	48.5	46.4	46.1	↑
R3年度実績値の理由	10代、30代、60代の肯定的割合は昨年度より上昇したが、全体の肯定的割合としては昨年度より減少し、コロナ禍においても支え合う子育ての気運は乏しい状況といえる。										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	備考		
	子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じる保護者の割合	市内の幼稚園・保育所・認定子ども園に通園している子どもの保護者の状況	%	(H27) 89.1	アンケート未実施	86.3	80.4	90.5	88.0		92.0
	R3年度実績値の理由	保育・幼稚園課	新型コロナウイルス感染症が長期化していることで、自宅で親子と過ごす時間が増え、外出する機会も減ったため、喜びや生きがいを感じる保護者の割合が若干減少したと思われる。								
家庭で日頃、子どもに絵本の読み聞かせをしている保護者の割合	市内の幼稚園・保育所・認定子ども園に通園している子どもの保護者の状況	%	(H27) 88.9	アンケート未実施	89.9	90.0	89.3	85.0		92.0	
R3年度実績値の理由	保育・幼稚園課	長期化している新型コロナウイルス感染症予防対策として、多くの園が絵本の貸し出しを中止したことにより、家庭での読み聞かせの割合が減少したと思われる。									

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童解消に向け、保育士養成校への情報提供や学生と現場の保育士との懇談の場を設けたり、非常勤保育士の処遇改善等実施することにより、不足している保育士の確保に努めた。 長野市乳幼児期の教育・保育の指針に基づき、公立保育所において県が認定する「信州型自然保育認定制度」に取り組んでいる。平成28年度に認定された保育所は、5年を経過したため令和3年度に更新手続きを行い、継続して自然保育に取り組んでいる。 幼保小の円滑な接続に向け、市内全ての保育所、幼稚園、認定子ども園が、小学校教育のスタートカリキュラムにつながるアプローチカリキュラムを作成した。市内7支会で開催される幼保小連携会議や、公開保育、公開授業の検討会の機会を活用して意見交換を行った。 子育て支援や事故防止等の研修会を実施し、保育士等の質の向上を図った。コロナ禍において、研修会にオンラインを取り入れたことにより、開催数や市内保育所、幼稚園、認定子ども園の参加が増え、研修の充実を図ることができた。 園だよりや絵本だよりなどにより、各園が保護者等に絵本の読み聞かせを行うための啓発を行った。 公立保育所・認定子ども園(28園)に、保育業務支援システム(コドモン)を導入したことにより、保育園と保護者との情報共有が速やかにできた。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の確保については、保育士養成校と密に連絡を取り合いながら、より細やかで柔軟な対策を行っていく必要がある。 ・保育所指針等に合わせた研修体系、研修内容の見直しを行い、コロナ禍においても、保育者の資質・専門性の更なる向上について継続的に取り組む必要がある。 ・保護者に対して、日頃から絵本を読み聞かせることの大切さを周知する必要がある。 	<p>多様な教育・保育ニーズへの対応と発達の連続性を踏まえた家庭、地域社会、教育・保育施設等の連携促進</p>
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・待機児童解消のため、県内外の保育士養成校への情報提供、就職セミナー等への参加、学生と現場の保育士との懇談などの取り組みに加え、全国的に進む短期大学の4年制化に対応した大卒程度の試験区分新設を行い保育士確保を図る。 ・保育所保育指針等に沿って適切に教育・保育が進んでいるか、カリキュラム・マネジメント（指導計画案のPDCA）を徹底し、常に、教育・保育の質の向上を図るとともに、コロナ禍においてもオンラインを活用し、多くの職員が研修に参加することで、質の向上を図る。 ・保育士が積極的に読み聞かせを子ども達に実践するとともに、保護者にはその効果を説明しながら、積極的に啓発を行う。 	

1 施策の概要

施策番号	2-1-3		
分野	保健・福祉分野	担当部局	子ども未来部
政策	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	担当課	子育て家庭福祉課
施策	社会的援助を必要とする家庭等の自立支援		
施策の目指す状態	すべての子どもが安定した環境の中、安心して暮らしている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境				経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	○				○	○	○						○				○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	子育て中の保護者が悩みを抱えた時に相談できる体制が整っている	%	(H28) 32.5	27.8	28.0	26.4	30.6	26.8	27.9	↗
R3年度実績値の理由	20～39歳の子育て世代では、肯定的な意見が否定的な意見を上回っているが、40歳以上では「どこに相談すればいいのかわからない」といった意見が見られ、相談場所の周知が行き届いていない面があるものと思われる。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
高等職業訓練促進給付金事業による就業率	高等職業訓練促進給付金を受給し養成機関を修了した者に占める就業者の割合	%	(2人/2人)	(3人/3人)	(3人/3人)	(9人/9人)	(4人/4人)	(5人/5人)		100
R3年度実績値の理由	子育て家庭福祉課	養成機関を修了した全ての者が就業した。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの貧困対策計画策定の基礎資料収集のため、子どもの生活実態調査を実施した。 児童福祉法に基づく「子ども家庭総合支援拠点」として専門職を配置し、子どもと家庭への継続的な支援を行った。 ひとり親家庭の様々な悩みに対応するため、弁護士等による「ワンストップ相談会」の開催や、就労しているひとり親に対する負担軽減を図るため、平日夜間に児童扶養手当現況届の受付窓口を開設した。 ひとり親家庭の子どもの生活・学習支援を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> すべての子どもが将来に夢や希望を持って成長していける社会の実現を目指し、地域や社会全体で貧困の連鎖を断ち切るため取り組む必要がある。 増加する児童虐待に対応するため「子ども家庭総合支援拠点」により総合的な相談と援助を実践していく。 各種の相談窓口において、子育て中の保護者の多様な相談に応じているが、どこにどんな相談をすればよいのかが市民に十分に理解されていない。 ひとり親家庭の経済的自立促進のため、各種制度等を広く周知し、支援に繋げていく必要があるが、制度が十分に周知されていない。 	<p>家庭環境により子どもの将来が閉ざされることがないように、ひとり親等の子育て家庭に支援をしていく必要がある。</p>

上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）

- ・子どもたちへの貧困の連鎖を断ち切るため、「長野市子どもの貧困対策計画」を策定し、庁内関係課、外部関係機関が連携して取り組む。
- ・「こども総合支援センター」において子どもに関する様々な相談に応じ、必要な支援に繋げる。
- ・「子ども家庭総合支援拠点」として、専門職員を確保するとともに家庭児童相談システムの活用し、児童虐待の早期発見や支援が必要な児童、家庭への適切な支援に繋げる。
- ・就労等により昼間相談ができないひとり親家庭を支援するため、休日のワンストップ相談会を実施し、悩みや問題を把握して、解決に向けた助言や情報提供を行う。
- ・ひとり親家庭の自立や経済的負担の軽減を図るため、あらゆる機会を通じてひとり親家庭に対する支援制度を周知するとともに、就業に結び付く可能性の高い資格取得や、高等学校等への通学費の支援などを継続して行う。

2-2-1

1 施策の概要

施策番号	2-2-1		
分野	保健・福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	生きがいのある豊かな高齢社会の形成	担当課	高齢者活躍支援課
施策	高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進		
施策の目指す状態	高齢者が自らの経験や能力を活かして積極的に社会に参加し、生きがいを感じながらいきいきと暮らしている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
			○				○						○				○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
アンケート指標 環境・体制に関する評価①	%	(H28) 45.0	40.5	39.5	38.2	40.4	39.8	39.7	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルスの影響により、活動が制限されたことが挙げられる。								
回答者自身の実践状況①	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由	(設定なし)								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
統計指標 社会参加している60歳以上の市民の割合	%	(H27) 79.5	83.5	81.9	82.2	81.4	79.6		84.0
R3年度実績値の理由	高齢者活躍支援課	「ボランティア」、「興味関心のある活動」の項目で、前年の値を下回っており、主な理由の一つとして新型コロナウイルスの影響が挙げられる。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア向けのディスコイベントや体操教室等の各種講座を各老人福祉センター等（11か所、生きがいづくり講座受講人数21,093人、講座回数1,531回）で実施し、高齢者の心身の健康維持、閉じこもりの解消と社会参加の促進に取り組んだ。 ・シニアの就労希望と企業側の採用希望をマッチングすることにより、就労に結び付けるとともに、人生設計を見つめ直す機会を提供するためのイベント（年2回、参加者数80人、内就業者数26人）を開催した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート指標については、特に60代の肯定的評価の増加及び40歳未満の評価保留割合の減少を目指す。 ・統計指標において、「ボランティアの割合」が大きく下がっている。 ・新型コロナウイルスの影響等により、イベントを開催しても参加者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（保健）健康寿命を延伸する取り組みが引き続き必要。 ・（平和）透明性・公平性の高い高齢者施策の展開。 ・（経済成長と雇用）高齢者に対する公平な就業機会の確保。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・かがやきひろば等を運営する指定管理者と協力し、シニア向けの講座内容をより魅力なものに適宜見直しを行うとともに、新型コロナウイルスへの感染対策を行いながら、イベント等への更なる参加を促す。 	

1 施策の概要

施策番号	2-2-2	
分野	保健・福祉分野	担当部局 保健福祉部
政策	生きがいのある豊かな高齢社会の形成	担当課 地域包括ケア推進課
施策	高齢者福祉サービスの充実	
施策の目指す状態	高齢者が自ら介護予防の取組を実践するとともに、介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域の中で、必要な介護を受けながら安心して暮らしている。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○				○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている	%	(H28) 49.0	42.4	38.5	37.6	45.1	42.9	41.3	↗
R3年度実績値の理由	介護サービス体制が整っている、地域内で助け合っているなど肯定的な意見がある一方、否定的な意見でコロナ禍の影響による孤独化を懸念するものや、制度を知らない、安全面と緊急時のフォローで家族とご近所のネットワークづくりができていないというものが見られた。									
回答者自身の実践状況①	ご近所の高齢者を温かく見守り、必要な時には手助けしている	%	(H28) 52.5	56.6	49.7	52.3	54.7	54.7	53.6	↗
R3年度実績値の理由	否定的な意見にも、高齢者が身近にいれば手助けしたい、お互い様との意見がある。また、肯定的な意見として声かけや手助けをすでに行っているというものがあり、近隣の住民同士の緩やかな支え合いの意識が広がってきている。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
要介護状態ではない高齢者の割合	高齢者（65歳以上）のうち、要介護認定（要介護1～5）を受けていない人の割合	%	(H27) 86.7	86.7	86.9	86.8	86.8	86.8		86.1
R3年度実績値の理由	介護保険課	高齢者（65歳以上）数の増加率と比較して、同程度の比率で推移している。 R2：13.2%（14,736人/111,384人）⇒R3：13.3%（14,891人/111,992人）								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> フレイル予防チェック&ガイドを活用してフレイルへの気づきや予防に向けた取組につなげる活動を行う市民ナビゲーター42人を養成し、令和元年度から累計で11,584人の市民がチェック&ガイドを実施することでフレイル予防の自主的な取組を推進した。 市内31地区に生活支援コーディネーターを配置し、地区ごとに自主的な介護予防の取組や生活支援体制整備を推進する検討会等において活動の創出や担い手づくりを進めている。 介護予防に資する住民主体の通いの場事業を推進し、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しながら、13の生きいき通いの場及び214の自主グループが地域での介護予防活動に取り組んでいる。 地域密着型サービス等の整備を促進するため、計画に基づき整備事業者を公募し選定した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 地域での自主的な支え合い活動が広がるよう、住民に対する意識啓発や活動のための環境整備が必要である。 介護が必要になっても、住み慣れた地域で必要な介護サービスが受けられるよう、サービス提供体制の確保、充実に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の元気な高齢者も積極的に参加する自主的な支え合い活動を広げることで高齢者のみならずあらゆる年齢の人の健康的な生活と福祉の推進につなげる必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に沿った自主的な支え合い活動の仕組みを構築する。 必要な介護サービス提供体制が確保できるよう、地域密着型サービス等の整備を進めるとともに、介護サービス事業所の人材の確保、育成のため、職場環境の改善及び職員の資質向上に関するセミナー等を開催する。 	

1 施策の概要

施策番号	2-3-1		
分野	保健・福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	担当課	障害福祉課
施策	障害者（児）福祉の充実		
施策の目指す状態	障害の有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らしている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○		○	○						○		○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	障害のある人が安心して暮らせるサービスや環境が整っている	%	(H28) 26.7	23.4	22.4	21.9	25.9	22.8	23.3	↗
R3年度実績値の理由	肯定的な意見では、障害者との関わりや日頃目にする活動等が挙げられているが、否定的な意見はハードのバリアフリー化への指摘にやや偏っており、障害者との関わりや関心が少ないことが表れている。									
回答者自身の実践状況①	障害のある人を見かけた時に、手助けが必要か気にかけるようにしている	%	(H28) 65.2	67.9	63.3	64.3	64.8	64.5	65.0	↗
R3年度実績値の理由	実績値は近年横這い傾向にあるが、肯定的意見の割合は全アンケート項目中でも常に上位に位置しており、障害のある人を支えるという風土が醸成されてきている。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
一般企業の障害者雇用率（年）	企業が雇用する常用労働者数に占める障害者の割合	%	(H27) 2.06	2.11	2.21	2.22	2.28	2.36		備考
R3年度実績値の理由	障害福祉課	障害者雇用に対する社会的認知が広がっているため。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 市内北部地域4か所の相談支援センターを統合し、北部障害者相談支援センターを開設した。また、市内南部地域を管轄していた発達相談支援センターを、令和元年に先行開設した南部障害者相談支援センターに集約し、相談体制を強化した。 障害者に対する理解を深めるため、長野市障害者権利擁護サポートセンターでは、市民を対象とした障害者差別解消研修を年8回実施し、延べ191名の参加があった。また、本市が設置している長野市障害ふくしネットにおいて、12月の障害者週間に先立ち、10月27日に「ふくしネットフェスタ」を開催し、障害者理解のための映画上映や障害のある方が制作したアート作品の展示、福祉事業所による食品類の販売などの啓発活動を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所や地域活動支援センター等の地域資源が偏在し、居住地区により障害福祉サービスにつながりにくい状況がある。 障害者と市民との交流が少ないため、障害者への理解を深める機会が十分でない。 	「誰一人取り残さない」社会の実現という理念に鑑みて、より高い満足度の水準が求められている。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 相談支援専門員の集約配置により体制を強化した北部・南部の相談支援センターにおいて、集約効果を検証するとともに、一部未集約の機能（北部の障害児発達相談）があるため、基幹相談支援センターの設置を含めて集約を検討する。 障害者週間や各種研修、講演会の開催による啓発活動に加え、「長野市障害者にやさしいお店」登録店を増やすことや農福連携による就労機会の提供などの新たな取り組みを通じ、障害者への理解や障害者による社会参加の促進を図る。 	

2-3-2

1 施策の概要

施策番号	2-3-2		
分野	保健・福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	担当課	福祉政策課
施策	認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現		
施策の目指す状態	市民一人ひとりが、地域の中で互いに認め合い、支え合い、活かし合いながら、いきいきと暮らしている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○				○								○		○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	ご近所において、支え合い、助け合える人間関係が築かれている	%	(H28) 49.7	45.0	46.0	42.6	47.0	42.8	44.7	↗
R3年度実績値の理由	近所付き合いの希薄化が進行している中で、令和元年東日本台風災害を契機に地域コミュニティの重要性が再認識されたが、コロナ禍が長引き活動が制限されたことが影響していると考えられる。									
回答者自身の実践状況①	ご近所同士で交流をし、困った時お互いに助け合える関係を築こうとしている	%	(H28) 55.6	61.3	57.9	59.1	61.4	57.6	59.5	↗
R3年度実績値の理由	令和元年東日本台風災害を契機に、困り事に対する助け合いの関係づくりを築こうとする意識が高まったと考えられるが、長らくコロナ禍により近隣住民同士の交流も困難となり、具体的な行動が取れなかったことが影響していると考えられる。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
地区地域福祉活動計画の評価に取り組んでいる地区数(再掲: 1-1-2)	地区地域福祉活動計画の進捗状況の把握や計画の検証・見直しに取り組んでいる地区数	地区	(H27) 17	24	27	28	32	32		32
R3年度実績値の理由	福祉政策課	各地区において地区地域福祉活動計画等の評価に取り組んでいる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<p>【地域たすけあい事業】担当：地域包括ケア推進課 地域住民による有償の助け合い活動である「地域たすけあい事業」について、安定的に事業が継続できるよう介護保険の地域支援事業への移行を開始し、4地区では地域の実情に応じた自家用車を活用した支援内容を追加するなど、再編を実施した。</p> <p>【地域福祉推進事業補助金】担当：福祉政策課・地域包括ケア推進課 各地区において地域福祉推進の中心的役割を担う地域福祉ワーカーの活動を後押しするため、ワーカー同士の情報交換の場である連絡調整会議の重要性に鑑み、コロナ禍においてもZOOMを取り入れ会議開催を継続させた。また、ワーカーが求めている内容等を今後の会議に反映できるよう、意向の聞き取り等も行った。</p>
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の実情に即したサービス内容での「地域たすけあい事業」の展開と担い手の確保 ○福祉・保健に関する取組への地域団体等の負担軽減 ○地区役員を含め、地域福祉活動の担い手の確保等 	<p>少子高齢化の進行や単独世帯の増加により、家族関係や地域住民相互のつながりが希薄化する中で、社会的孤立などの福祉課題が顕在化してきている。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<p>【地域たすけあい事業】タクシー等の活用や移動販売車との連携、サロン活動・体操など通いの場の創出に合わせた移送ニーズの見込み、支援者が対応可能な支援の量や内容などを考慮した地域たすけあい事業の構築について検討する。</p> <p>【地域福祉推進事業補助金】第四次地域福祉計画策定に合わせて、住民自治協議会が雇用している地域福祉ワーカーの在り方を含め、住民自治協議会の負担軽減、市・市社会福祉協議会等との適切な役割分担などについて検討する。</p>	

2-3-3

1 施策の概要

施策番号	2-3-3		
分野	保健・福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	担当課	生活支援課
施策	生活の安定と自立への支援		
施策の 目指す状態	だれもが幾重にもはりめぐらされたセーフティネットに守られ、その状況に応じて可能な限り自立し、 困窮することなく安定した生活を送っている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
○						○	○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	生活に困った時に相談できる体制が整っている	%	(H28) 27.3	23.5	21.7	22.4	25.4	24.7	23.5	↗
R3年度実績値の理由	広報ながの等で、生活困窮者支援の窓口である長野市生活就労支援センター（まいさぼ長野市）の周知に努めているが、コロナ禍においても、認知度が高まらない状況が続いている。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
「まいさぼ長野市」の支援により就労した人の割合	「まいさぼ長野市」の利用者における、就労支援を必要とする人のうち、支援により実際に就労した人の割合	%	(H27) 38.6	55.9	51.9	54.1	67.0	78.5		45.0
R3年度実績値の理由	生活支援課	生活困窮の早期の段階で相談に結びつけることで、自立就労できた人の割合が増加している。（就労支援対象者数232人、就労者数182人）								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<p>複雑かつ複合的な課題を抱えた生活困窮世帯が増加していることから、その相談内容に応じた、自立の助長に向けた就労支援が求められている。</p> <p>そのため、ハローワーク長野「福祉・就労支援コーナー」（ジョブ縁ながの）、長野市福祉事務所のケースワーカー及び就労支援員による連携会議を通じ、三者の連携強化に努めた。</p> <p>合わせて、就労支援に関わる職員のスキルアップを図るため、「ジョブ縁ながの」、「まいさぼ長野市」などの関係機関が行う就労支援事業に関する研修を行った。</p>
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 生活に困ったときの相談窓口である「まいさぼ長野市」の認知度を高めるため、関係各課、民生委員などとの連携を深めるとともに、「まいさぼ長野市」の事業内容についても、広く周知する必要がある。 複雑かつ複合的な課題を抱えた生活困窮世帯を支援するための体制の整備等に取り組んでいく必要がある。 	<p>貧困対策の生活の安定と自立への支援には、セーフティネットである支援に確実につなげていくことと、就労支援などの自立の助長が重要である。</p> <p>また、貧困の連鎖を断つためには、教育も合わせて取り組む必要がある。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な世帯に支援がつながるよう、「まいさぼ長野市」を含め関係各課の連携を更に深めるとともに、アウトリーチも含めた積極的な周知方法について、検討を行う。 各自に応じた就労支援のプログラムとなるよう、職員等のスキルアップを行うとともに、関係する課、機関の間の連携が円滑かつ的確に行える体制の整備等に取り組む。 	

1 施策の概要

施策番号	2-4-1	
分野	保健・福祉分野	担当部局 保健福祉部
政策	安心して暮らせる健康づくりの推進	担当課 健康課
施策	健康の保持・増進の支援	
施策の目指す状態	市民一人ひとりが健康の大切さを認識し、生涯を通じて主体的に健康づくりに取り組み、自分らしく生きがいをもって生活している。	

※ SDGsとの関連

	社会				環境				経済				全体					
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
主要な目的に該当するゴール			○				○											○

2 指標の推移等

	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	%	(H28) 49.5	43.9	43.3	42.7	45.3	43.7	43.8	↑
	R3年度実績値の理由	度重なる新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う感染不安から外出自粛ムードや事業の中止・変更などが生じたため、回答結果に影響されたと考える。									
	回答者自身の実践状況①	健康づくりに継続的に取り組んでいる	%	(H28) 56.8	62.8	60.1	58.9	63.3	62.9	61.6	↑
	R3年度実績値の理由	コロナ禍、感染防止を含む新たな生活様式に関して、個人の健康維持・増進への関心が高まったが、その反面、受診控えや外出自粛傾向が考えられ、継続的な取組が低下したと考える。									
統計指標	健康寿命 (年)	介護保険の要介護認定者数等を用いて算定した、日常生活動作が自立している期間の平均	年	(H27) 男80.81 女84.97	男80.94 女85.16	男82.06 女86.96	男80.9 女85.1	男81.1 女84.8	R5.7以降 算定予定		平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
	R3年度実績値の理由	健康課	R元年度から国保データベースシステムによる各市町村の平均自立期間について公表されるようになったため、翌々年度の7月以降に算出予定。								
	75歳未満のがん死亡率 (年)	75歳未満における、人口10万人当たりのがんの年齢調整死亡率	—	(H26) 57.1	64.6	66.2	59.9	60.0	R5.6以降 算定予定		45.7以下
	R3年度実績値の理由	健康課	当該年度数値は、翌々年度の6月頃算定する予定。								
	糖尿病予備群・糖尿病が強く疑われる市民の割合	HbA1c値5.6%以上である市民の割合	%	(H26) 男64.9 女68.3	男53.8 女57.4	男57.1 女60.5	男53.8 女56.0	男51.1 女49.5	R4.12以降 算定予定		男55.2 女58.1
	R3年度実績値の理由	健康課	当該年度の国保特定健診受診者のうち40歳から64歳までの指標項目該当者の割合。翌年11月に法定報告の受診者数が確定するため、それ以降に算出予定。								
メタボリックシンドローム予備群・該当者の割合	40～74歳におけるメタボリックシンドローム予備群または該当者であると診断された市民の割合	%	(H26) 男38.7 女12.1	男47.0 女15.9	男47.5 女15.6	男47.1 女15.8	男50.1 女17.5	R4.12以降 算定予定		男29.1 女9.1	
R3年度実績値の理由	健康課	当該年度の国保特定健診受診者（40歳～74歳）の指標項目の該当者の割合。翌年11月に法定報告の受診者数が確定するため、それ以降に算出予定。									

3 目標達成に向けた取組内容と実績

<p>R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容</p> <p>(改善を行った内容を中心に記載)</p>	<p>健康寿命延伸に向け、国保データベースシステムを活用し個人・地域の特性に合わせた生活習慣病予防及びフレイル予防を部局横断的に推進した。</p> <p>①「ながのベジライフ宣言」と「フレイル予防チェック&ガイド」による健診・相談・健康教育を通じた生活習慣病の重症化予防とフレイル予防啓発。</p> <p>②国保特定健診後の個別保健指導・栄養指導に加え、長野県後期高齢者医療広域連合からの委託を受け、健診結果から低栄養防止・生活習慣病重症化予防を目的に個別保健指導を実施</p> <p>③体力・健康チェックキャラバン（2回）や生活習慣病予防のための運動講座等を通じて、生活習慣病予防・フレイル予防のための運動習慣定着の動機付けを図った。</p> <p>④糖尿病性腎症等重症化予防対策検討会や専門医との事例等学習会を通じ医療との連携を強化した。（年4回）</p> <p>がん検診の受診者の利便性向上により、受診促進を図った。</p> <p>①休日女性がん検診の実施</p> <p>②休日当番医における子宮頸がん検診の実施</p> <p>③新型コロナウイルスの影響により6月末まで検診が中止となったことから、胃・肺がん等の集団検診について2か月間実施期間を延長し振替実施を行った。</p>
--	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<p>○自分の健康状態や変化に早期に気づき、重症化予防の具体的取組ができるよう、健診受診や生活習慣改善の必要性を普及啓発する必要がある。</p> <p>○子育て世代や働き盛り世代が職場や家庭など日常生活の中で、予防・健康づくりの取組が継続でき、年齢等で支援が途切れないサポート体制が必要。</p> <p>○がんによる死亡を減らすため、受診率向上を図るとともに、より効果的に検診を実施する必要がある。</p>	<p>健康を損ねる要因を理解し、健康的に過ごすための取組を市民自らコントロールできるように、すべての健康増進事業者が支援することが重要である。</p>
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<p>○介護要因となるフレイルや生活習慣病の重症化を防ぐため、75歳の年齢で途切れることなく、国保データベースシステムの活用により重症化予防対象者全員へ介入し、医療と効果的に連携し重症化予防保健指導を行う。また健やかな生活習慣の形成や維持できるよう、関係者が協力し支援する。</p> <p>○国において死亡率減少効果が高いものとして認められた検診を適切に実施するとともに、早期発見・治療につながるよう、受診効果の高い世代に対する直接の受診勧奨や精密検査受診勧奨等を行う。</p>	

2-4-2

1 施策の概要

施策番号	2-4-2		
分野	保健・福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	安心して暮らせる健康づくりの推進	担当課	健康課
施策	保健衛生の充実		
施策の目指す状態	地域に密着した質の高い、また専門性の高い保健衛生事業が提供され、だれもが健やかに安心して暮らしている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○				○	○									○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	不安やストレスを感じた時に相談できる体制が整っている	%	(H28) 21.7	17.8	17.4	16.7	20.8	18.4	18.2	↗
R3年度実績値の理由	全国的に自殺者が増加したことに伴い「いのちの支援相談窓口リーフレット」を5000枚弱配布し周知した。本市で実施していないSNS相談については、国が委託している窓口を周知している。									
回答者自身の実践状況①	不安やストレスを一人で抱え込まないようにしている	%	(H28) 64.8	69.2	69.0	66.4	68.4	68.4	68.3	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染症や芸能人の自殺報道により新聞やTV等で「心の相談窓口」を周知し、相談を呼びかける機会が増えた。毎年更新している「いのちの支援相談窓口」のリーフレットの活用についても定着してきている。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
自殺率 (年)	人口10万人当たりの自殺率	以下	(H27) 18.5	14.9	17.1	15.9	15.2	13.9		15.5以下
R3年度実績値の理由	健康課	40代、80歳以上の自殺者が減少 (40代：5人減、80歳以上：6人減) したため								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ●悩みを受け止められる人材の育成 (ゲートキーパー養成講座の実施) <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け：新型コロナウイルス感染拡大のため中止・事業所向け：延べ52人・若者向け：長野県立大学・信州大学教育学部学生・長野保健医療大学：延べ44人 ●ネットワークとしての自殺対策の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策推進ネットワーク会議の開催 (書面開催) ・相談支援者対象研修会の開催：3回 (うち1回は新型コロナウイルス感染拡大のため中止) ・いのちの支援相談窓口リーフレットの配布：4,614枚 ・総合相談会の実施：3回 (近隣2市との連携により、他市の相談会にも参加できる体制とした) ●世代に応じた自殺対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 【若者】・SOSの出し方に関する教育の実施：市内中学校30校中28校実施 ・若者向けリーフレット配布：691枚 ・成人式でリーフレット配布：1,448枚 【成人・高齢者】・職場、地域出前講座の実施：22回 (714人) ・高齢者向けリーフレット配布：11,658枚
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自殺死亡率が全国より高い世代 (20歳未満女性・20代男女=若者世代、30、40代男性=働き盛り世代男性、60代女性=シニア世代女性) への自殺対策の強化 ・悩みを受け止められる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染への不安、自粛生活によるストレス、経済悪化による生活困窮等、自殺のリスク要因が多い社会環境になっている。

上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）

- ・「SOSの出し方に関する教育」を教育委員会と連携し市内の全中学校で実施する。
- ・若者向けゲートキーパー講座を市内全大学の学生を対象に実施する。
- ・事業所向けゲートキーパー講座の内容の充実を図り実施する。
- ・高齢者へ心の悩みを相談できる場所を周知する。（リーフレットの作成、配布）
- ・あらゆる年代の多様な相談をワンストップで受ける「総合相談会」を継続し実施する。
- ・自殺対策に関わる支援者の相談技術の向上及び連携を強化するための研修会・連絡会を開催する。

2-4-3

1 施策の概要

施策番号	2-4-3		
分野	保健・福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	安心して暮らせる健康づくりの推進	担当課	医療連携推進課
施策	地域医療体制の充実		
施策の目指す状態	必要な人が必要な時に必要とする医療サービスを安心して受けられる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○				○										○

2 指標の推移等

アンケータ指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	必要な医療サービスを受けられる体制が整っている	%	(H28) 62.9	58.4	60.3	58.2	62.8	61.3	60.2	↗
R3年度実績値の理由	市街地及びその周辺地域が比較的高いのに対して、医療機関が少ない中山間地域では低い傾向にある。									
回答者自身の実践状況①	かかりつけ医がいる	%	(H28) 75.4	73.7	74.3	74.7	74.7	73.9	74.3	→
R3年度実績値の理由	10歳代を除き年代が高くなるにつれて、かかりつけ医がいる割合が高くなる傾向がある。									

統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
健康寿命 (年) (再掲：2-4-1)	介護保険の要介護認定者数等を用いて算定した、日常生活動作が自立している期間の平均	年	(H27) 男80.81 女84.97	男80.94 女85.16	男82.06 女86.96	男80.9 女85.1	男81.1 女84.8	R5.7以降算定予定		平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
R3年度実績値の理由	健康課	R元年度から国保データベースシステムによる各市町村の平均自立期間について公表されるようになったため、翌々年度の7月以降に算出予定。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 初期救急患者への対応として、夜間については、医師会及び公的病院と連携し市内3か所に設置した急病センターで診療を行い、休日については、医師会と連携し在宅当番医が診療を行った。 入院治療を必要とする重症救急患者への対応として、24時間患者を受け入れることが可能な病院群輪番制病院に対して運営補助を行った。 中山間地域における医療提供体制を維持するため、国保直営診療所8施設（歯科2施設を含む）を運営した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 市域における24時間365日の診療体制が確保されており、今後もこの体制を維持する必要がある。 超高齢社会の到来により、医療需要は、2040年頃をピークに増加していく見込みであるが、診療所医師の高齢化や勤務医の働き方改革等により、医療提供体制の維持が難しくなることが懸念される。 	持続可能な医療提供体制を維持するには、医療需要や医師の状況をしっかり把握する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 将来の医療需要や医療環境の変化を見据えながら、地域における医療・介護施設の更なる機能分担や連携を推進するとともに、県、医師会等と協調しながら必要な対応を検討していく。 人口減少の著しい中山間地域において、国保直営診療所のあり方及び運営方法について、医療スタッフの確保や患者数の減少などを踏まえ検討していく。 	

1 施策の概要

施策番号	2-5-1	
分野	保健・福祉分野	担当部局
政策	人権を尊ぶ明るい社会の形成	担当課
施策	人権尊重社会の実現	
施策の目指す状態	市民一人ひとりが、生涯にわたり自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権を尊重している。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	○			○	○	○	○						○		○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	%	(H28) 40.7	34.5	34.2	33.1	35.9	34.7	34.5	↗
R3年度実績値の理由		互いの個性や立場を尊重し合える地域であると感じているとする肯定的な意見が1.2ポイント減っている。年代別では30歳から69歳までの世代で否定的評価が肯定的評価を上回っている。否定的意見として「同調圧力や前例踏襲、異分子を排除しようとする雰囲気を感じる」「自分が優位に立ちたいと思う人が多い」があり、地域の中で活動している世代の多くが否定的に感じていると思われる。							
回答者自身の実践状況①		(H28) 52.4	55.9	54.1	52.3	56.5	58.3	55.4	↗
R3年度実績値の理由	人権問題について理解を深めるために、地域での研修会開催や、人権啓発活動が、「LGBT、ハンセン病、発達障害なども知識を深め考えるようにしている」「コロナ禍では余計にそのように考える」といった肯定的な意見が増えることになった理由と思われる。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	備考	
人権教育・啓発研修会参加者の満足度	%	(H28) 89.8	90.0	86.3	83.3	-	84.8		92.0
R3年度実績値の理由		人権・男女共同参画課	新型コロナウイルス感染症防止のため、研修会の開催回数は減少したが、研修内容について満足した参加者が令和元年度と比較して増加した。(令和2年度は開催時間短縮のためアンケート実施せず)						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における人権教育推進のため、各住民自治協議会、区、地域公民館等で開催する研修会及び住民集會に際し、活動の中心となる人権教育指導員の養成、講師の派遣、情報や資料の提供等の支援を行った。 ・広く市民に周知を図るため、テレビ・ラジオ放送等メディアを活用した啓発を実施した。また、啓発標語・ポスターの募集、啓発ビデオ・DVDの貸出しや啓発資料の配布など人権尊重意識の普及啓発を行った。 ・企業における人権教育推進のため、長野市企業人権教育推進協議会の事務局を務め、講演会、人権教育担当者研修会、研修講座、企業経営者研修会を開催し、人権課題について理解を深めるとともに啓発事業や情報提供を行った。 ・心配ごと悩みごと相談室を開設し、相談者が自ら問題を解決することができるよう情報提供や助言を行った。 ・研修会等の開催にあたり、新型コロナウイルス感染症防止のため、インターネットの活用や、分散開催などの対策を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域、学校、企業・職場などのあらゆる機会を捉えて人権教育を推進する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症防止のため、地区毎の「人権啓発研修」の開催が困難だった。 ・多様化する人権相談にも適切に対応できる相談体制の充実が必要である。 	<p>SDG s の内容はどれも「人が生きること」と関連し、人権がベースにあるので、人権を尊ぶ明るい社会の形成を基礎として取り組む必要がある。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における人権教育研修会の核となる人権教育指導員（各地区住民自治協議会に設置）について、初任者へは研修会の開催方法を分かりやすく伝え、経験者へはスキルアップを図る等、研修会を工夫し実施する。また、人権教育指導員等が他地区の実施状況を知ることにより情報交換等ができるよう研修会等の充実を図る。 ・研修会等に参加する市民の満足度を高めるため、内容や講義方法等を工夫していくことが必要である。 ・LGBTをはじめとする様々な相談にも対応できるよう、相談員の資質の向上を図る。 	

1 施策の概要

施策番号	2-5-2	
分野	保健・福祉分野	担当部局 地域・市民生活部
政策	人権を尊ぶ明るい社会の形成	担当課 人権・男女共同参画課
施策	男女共同参画社会の実現	
施策の目指す状態	男女が社会の対等な構成員として個性と能力を十分に発揮し、自らの意思により社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されている。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
○				○	○	○	○						○				○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	性別にかかわらず、個性や能力を十分に活かすことができる地域である	%	(H28) 29.0	25.5	24.1	23.1	27.0	23.5	24.6	↗
R3年度実績値の理由	20歳未満の若年層は肯定的評価が約半数を占めているが、徐々に否定的割合が高くなり、50歳代でピーク(56.1%)になる。学校教育の場においては、男女共同参画への意識の醸成が図られているものの、年齢を重ねるにつれて、地域社会、職場、慣習・しきたり等に触れる機会が増えることにより否定的な割合も増加することから、ジェンダーバイアスが社会に根強く残っている。									
回答者自身の実践状況①	男女共同参画について理解を深めようとしている	%	(H28) 47.3	50.3	48.6	49.6	51.2	56.7	51.3	↗
R3年度実績値の理由	男女共同参画や女性活躍の推進、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた様々なセミナー等への参加、国際社会の動向やグローバル化の推進・ジェンダー平等に係る報道等の影響から、男女共同参画について理解を深めようとしている肯定的意見が増加している。また、否定的意見の中には、男女共同参画は意識、理解することではなく、当然の事であるとの意見も散見される。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
地域の方針決定の場への女性の参画度	%	(H27) 16.4	H29 16.5	H30 16.0	R1 17.9	R2 17.5	R3 16.8	備考		
R3年度実績値の理由	人権・男女共同参画課	地区役員には男性が就くといった風潮が根強く残っていることに加え、地域において意欲ある女性はいるものの少数であり、単独での地域活動への参画に躊躇してしまうことから役職への就任に結びつかないと考えられる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の政策方針決定過程や審議会等への女性参画率を安定的に確保するため、各課で所管する「審議会等における女性の参画状況調査」の際に、未達成理由の報告に併せ、今後において、女性の参画については是正を図るよう周知した。 ・地域社会における女性の参画意識の醸成を図るため、各住民自治協議会から推薦された女性を対象に「女性リーダーフォローアップ講座」を開催した。さらに、地域における男女共同参画に対する意識を促進するため、女性リーダーに加えて住民自治協議会の役員等を対象とした講座を開催した。 ・女性のエンパワーメントやスキルアップのための講座に加えて、地域特性を考慮した「地区別講座」を開催し、各地域で活動する女性リーダー同士の連携を深める「仲間づくり」を進めるとともに、地域における「語らいの場」開催の実現に向けて取り組んだ。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な学識経験を有する分野に女性が少ない場合や極端に参画率の低い審議会もあり、女性の参画率の安定的な確保に支障がある。 ・地域における方針決定の場へ女性の参画促進のため、女性リーダーの養成が急務である。 ・働く場における男女間の不平等を解消し、均等な機会と待遇の確保に向けた企業への働きかけが必要である。 ・育児・介護等により一時離職した女性が多様な働き方を選択し、その能力を十分に発揮することができる支援が必要である。 	<p>ゴール5：ジェンダー平等</p> <p>男女が互いに尊重し、その個性と能力が十分発揮できる持続可能な国際社会に調和する様々な環境整備に取り組むことにより、地域や職場等における女性の意思決定過程への参画を促進し、持続可能なまちづくりと地域経済の活性化を図る必要がある。</p>

- ・女性の参画率の低い審議会の所管課には、当該審議会を組織する関係団体への女性の推薦依頼を行うよう直接働きかけを行い、意思決定機関への女性の参画を推進する。
- ・地域における女性リーダーの育成や女性活躍推進に重点をおいた講座等を開催し、男女共同参画に関する理解を深める。
- ・男女共同参画へ先進的な取組を行っている市内企業へのインセンティブ付与の手法を検討し、制度設計を図る。
- ・起業を目指す女性へ先輩起業家などロールモデルとなる情報提供や、離職した女性へのリカレント教育の推進など、それぞれのライフステージやライフスタイルにおいて、女性の能力を活かすための支援を図る。

分野3 人と自然が共生するまち「ながの」(環境分野)

政策1 環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成

施策1 低炭素社会の実現

施策2 循環型社会の実現

政策2 自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進

施策1 豊かな自然環境の保全

施策2 良好な生活環境の保全

1 施策の概要

施策番号	3-1-1		
分野	環境分野	担当部局	環境部
政策	環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成	担当課	環境保全温暖化対策課
施策	低炭素社会の実現		
施策の目指す状態	温室効果ガスの排出削減を意識した日常生活や事業活動が営まれ、排出量が年々減少している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○		○	○		○	○	○	○	○	○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	身のまわりにおいて、太陽光発電や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	%	(H28) 27.4	37.0	27.4	24.3	24.8	22.9	27.3	↑
R3年度実績値の理由	太陽光発電の普及、節電対策などへの取組が一定程度進んでいるが、特に交通関連の取組を不十分と感じる方が多く、全体として肯定的評価をする割合が少ないものと思われる。									
回答者自身の実践状況①	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	%	(H28) 43.3	44.0	40.9	38.0	40.4	40.2	40.7	↑
R3年度実績値の理由	太陽光発電の普及、節電対策などへの取組を通じて、温室効果ガス排出量削減への市民意識は一定程度向上していると思われるが、交通関連の取組が不十分と感じる方が多く、全体として肯定的評価をする割合が少ないものと思われる。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
	温室効果ガス排出量	kg-CO2以下	(H24) 14.55	16.22	15.00	R5.2 算定予定	R6.2 算定予定	R7.2 算定予定		14.08
	R3年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	温室効果ガス排出量（使用統計の公表時期により概ね3年前のものを算定）は電力の排出係数変動の影響が大きく、年々係数は低めに推移しているものの、基準値（H24）と比べるとまだ係数は高く、H30年度は15.00kg-co2となった。							
	再生可能エネルギーによる電力自給率（発電設備容量）	%	(H26) 39.1	49.5	51.8	54.7	56.4	R4.11 算定予定		60.0
	R3年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	バイオマス発電施設の稼働や太陽光発電設備等の増加により、自給率が上昇している。							
木質バイオマス燃料需要量（灯油換算）	ℓ	(H27) 180,120	245,420	292,795	278,424	254,305	237,993		330,000	
R3年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	コロナ感染症に伴い、市有施設における薪の使用量が減り需要量が減少している。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 「長野市地球温暖化対策地域推進計画」及び「長野市役所温暖化防止実行計画」に基づく施策の推進を図った。 「長野市地球温暖化対策地域推進計画」及び「長野市役所温暖化防止実行計画」の改定作業を実施した。（地域推進計画は第三次長野市環境基本計画に統合） 国、県が目指す2050ゼロカーボンに向けて、本市としても令和3年度をゼロカーボンに向けて大きく舵を切る起点とし、ゼロカーボン推進事業を実施した。 「長野市太陽光発電設備の設置と地域環境との調和に関する条例」を令和3年4月に施行し、適正な運用を図った。 事業所向け温暖化対策支援サイト「エコステップながの」により事業者の取組を促す情報提供を行った。 令和3年6月に策定した「長野市バイオマス産業都市構想」をもって、令和4年2月に国からバイオマス産業都市の認定を受けた。 令和4年2月に長野連携中枢都市圏9市町村共同による「2050年ゼロカーボン宣言」を発出した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<p>長野地域連携中枢都市圏共同で2050ゼロカーボン宣言を行った本市として、脱炭素社会の実現に向けた取組の強化が求められている。アンケート指標では、温室効果ガスの発生を抑える取組など低炭素行動に対し一定の認識はあるものの目標値を下回っているため、更なる対策を検討し啓発活動などを実施する必要がある。</p>	<p>脱炭素社会の実現に向け、家庭や事業所などのエネルギー消費の効率化、再生可能エネルギーの普及拡大など、地球温暖化に対する緩和策の他、気候変動に伴う影響軽減、早期警戒に関する教育や啓発といった適応策の実施など、更なる温室効果ガスの抑制に向けた対策が求められている。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<p>2050ゼロカーボンに向けて、令和4年4月策定の「第三次長野市環境基本計画」に基づく再生可能エネルギーやバイオマス資源の利活用、省エネルギーの推進などの各施策を推進し、市有施設への再生可能エネルギー設備の率先導入を図るとともに、市民向けに経済的かつ温室効果ガスの排出量抑制に繋がる事業を実施する。</p>	

3-1-2

1 施策の概要

施策番号	3-1-2		
分野	環境分野	担当部局	環境部
政策	環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成	担当課	生活環境課
施策	循環型社会の実現		
施策の目指す状態	市民や事業者がごみの発生抑制に積極的に取り組み、排出量が年々減少している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○	○			○			○	○	○	○

2 指標の推移等

	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	%	(H28) 50.0	58.6	47.3	44.4	45.4	44.1	48.0	↗
	R3年度実績値の理由	身の回りにおいて、食品ロスを削減する取組や分別を徹底する取組が行われている一方、コロナ禍による巣ごもりの影響でプラスチックごみが増えている状況も見られる。全体的には、日常生活におけるごみの削減やリサイクルへの意識が向上し、行動している状況がうかがえる。									
	回答者自身の実践状況①	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している	%	(H28) 81.7	81.0	82.9	81.7	84.4	85.2	83.0	→
	R3年度実績値の理由	食品ロスやごみを減らす取組が全世代において行われており、高い水準を維持できている。									
	回答者自身の実践状況②	使わないものを譲り合ったり、壊れたものを修理して使うなど、再利用に取り組んでいる	%	(H28) 62.6	60.8	63.4	62.8	65.1	65.1	63.4	↗
	R3年度実績値の理由	SNSやフリマアプリの浸透もあり、不用品もなるべく捨てないように再利用に取り組むようになってきていると思われる。									
統計指標	回答者自身の実践状況③	ごみの分別を徹底している	%	(H28) 93.3	91.5	92.5	92.2	93.7	93.7	92.7	→
	R3年度実績値の理由	ごみを分別することは当たり前、市民の義務、社会人の基本的マナー等と捉えている者が多く、高い水準を維持している。									
	事業所からのごみ排出量	事業所からのごみ排出量 (産業廃棄物を除く)	t	(H27) 41,662	41,295	40,897	41,950	37,507	38,079		41,538以下
	R3年度実績値の理由	生活環境課	新型コロナウイルスの影響による事業活動の縮小などから事業所からのごみが著しく減少したものと推測する。								
	ごみ総排出量	市民一人一日当たりのごみ排出量	g	(H27) 961	939	926	928	910	892		935以下
	R3年度実績値の理由	生活環境課	家庭では分別の徹底や食費ロスを減らす取組が浸透し、また、事業所では新型コロナウイルスの影響による事業活動の縮小によりごみが減少した結果、目標値を達成した。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に対しては、ごみの出し方保存版の発行、ごみ収集カレンダー及びびねこ通信の配布、ごみ分別強調月間におけるごみ集積所巡回指導、及び出前講座の実施などにより、ごみの減量・分別の徹底についてに努めた。 ・事業所に対しては、事業ごみの処理ガイドを活用し、排出事業者責任を自覚させるとともに、ながの環境エネルギーセンターでの定期的な展開検査を実施し、ごみの分別・減量の徹底を図った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<p>市民・事業者に対し、より一層のごみの発生抑制及びごみの分別の徹底を啓発し、更なるごみの減量化と再資源化を目指す。</p>	<p>つくる責任、つかう責任を自覚し、「必要なモノ・サービスを必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」社会を構築し、ライフサイクル全体で徹底的な資源循環を行う必要がある。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<p>「必要なモノ・サービスを必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」ためにライフサイクル全体で徹底的な資源循環に取り組むために4Rの取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの3R（リデュース、リユース、リサイクル）に、使い捨てプラスチック製品から植物由来の環境に優しい素材・製品などへの「転換（リプレイス）」を加えた4Rの取組を推進する。 ・家庭ごみについては市民ひとり一人がごみの減量・分別を実践するよう取り組む。ごみ処理に関する理解を深めるため、ごみの出し方保存版の発行、ごみ収集カレンダー及びびねこね通信の配布、ごみ分別強調月間におけるごみ集積所巡回指導、及び出前講座の実施などを行い、環境教育・環境学習を充実していく。 また、家庭ごみ処理手数料を財源として、生ごみ自家処理機器購入補助金の交付をはじめ、資源回収報奨金の交付、食品ロス及びプラスチック廃棄物対策を推進していく。 ・事業ごみについては、排出事業者の責任を自覚させ、ごみの発生段階で徹底的に分別し、事業系一般廃棄物を減量するよう取り組む。従業員ひとり一人がごみの減量に取り組むこととし、事業ごみの処理ガイドなどを使い啓発していく。 また、環境保全に配慮した取組を行っている事業者を「ながのエコ・サークル」に認定し、優良事例として採り上げ、自主的な取組を促す。 	

3-2-1

1 施策の概要

施策番号	3-2-1		
分野	環境分野	担当部局	環境部
政策	自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進	担当課	環境保全温暖化対策課
施策	豊かな自然環境の保全		
施策の 目指す状態	豊かな自然環境が保たれ、自然と触れ合うことができる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○			○	○			○	○			○	○	○

2 指標の推移等

アンケータ指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	豊かな自然環境が保たれている	%	H28 73.6	71.6	69.1	69.1	72.5	70.4	70.5	→
R3年度実績値の理由	僅かに減少し、基準値を下回った。特に若年層において、肯定的な評価が強い傾向が見られる。									
回答者自身の実践状況①	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている	%	H28 50.2	46.9	49.5	49.6	53.3	51.7	50.2	↗
R3年度実績値の理由	昨年度からは僅かに減少したが、基準値を上回った。多くの年代において、家庭や身近な場所で自然と触れ合う機会があることが伺える。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
環境保全活動参加者数	ながの環境パートナーシップ会議の活動への参加者数	人	(H27) 3,766	4,629	4,842	4,588	1,814	1,805		4,700
R3年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	新型コロナウイルスの影響により、学習会やイベントの開催が制限され、前年度に引き続き基準値を大きく下回っている。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷地湿原の現状を調査し、保全を図るため、地元学術機関との連携事業を活用し、長野工業高等専門学校に委託して、ドローン空撮による植生分布および湛水域データの収集解析、水位観測システムによる水文調査、ポータブルコーンによる土質調査等を行った。 ・新型コロナウイルスの影響でイベント等の開催が制限される中で、感染予防対策をとりながら学習会を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・大谷地湿原の適切な保全方法について、より高度な専門家の検証や指導が必要 ・希少動植物の保護や特定外来生物の駆除など生物多様性の確保については、効果の検証が難しい。 ・環境学習の機会の増加と、多様な担い手の育成 	山地生態系（飯綱、大岡、戸隠）を保持することを含め、自然環境の保全や生物多様性の確保に関する取組を多様な担い手により行い、持続可能な社会へとつなげていく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・大谷地湿原保全復元事業において、高度な専門知識や技術を有する大学や高校との連携を進め、新たな視点の取り込みや若者の参画を図る。 ・特定外来生物への対応について情報収集及び周知、啓発を行う。 ・学習会の内容や時期について市民のニーズを捉え、参加者の増加につながる工夫を行う。 ・環境パートナーシップについて、協働による取組を更に推進するとともに、若者や事業者を含む新規会員の勧誘を推進する。 	

3-2-2

1 施策の概要

施策番号	3-2-2		
分野	環境分野	担当部局	環境部
政策	自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進	担当課	生活環境課
施策	良好な生活環境の保全		
施策の目指す状態	良好な生活環境が美しく保たれている		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
			○				○	○			○				○	○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
アンケート指標 環境・体制に関する評価①	%	(H28) 74.1	71.6	71.0	71.0	74.1	71.8	71.9	→
R3年度実績値の理由	平成30年に施行した「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる条例」などを通じて、市の良好な生活環境への取組が評価されていると思われる。								
回答者自身の実践状況①	%	(H28) 48.8	50.6	45.2	46.7	46.7	47.5	47.3	↗
R3年度実績値の理由	市民の意識の向上により、地域の良好な環境のための環境美化活動への参加について、指標のポイントが微増した。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
統計指標 ポイ捨て等ごみ回収量	k g	(H27) 25,719	16,171	16,576	16,263	11,837	9,245		21,500以下
R3年度実績値の理由	生活環境課	新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動自粛などにより、ごみ回収量が減少したものと考える。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	地域での環境美化説明会等を通じて不法投棄に関する情報提供や市が設置する防止看板の設置場所の選定など不法投棄防止対策について周知を行った。 不法投棄防止の発見、対応のため、職員による週2回のパトロール・回収のほか公益法人長野シルバー人材センターへの委託によりパトロール、回収業務を実施した。(年20回) 不法投棄されにくい環境を整えるため、監視カメラ、不法投棄防止看板及び防止ネットの設置を行った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
不法投棄されにくい環境にするため、監視カメラ、不法投棄防止看板及び防止ネットの設置や土地所有者(管理者)への啓発を進める必要がある。また、不法投棄の8割が家庭ごみであることから、適正なごみ出しの一層の啓発が必要である。	廃棄物の分別収集の推進及び一般廃棄物の再生利用により、廃棄物の循環的利用に努め、処分しなければならない一般廃棄物について、適正な中間処理及び最終処分により良好な生活環境となるよう継続的に取り組む必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
不法投棄多発箇所には、啓発看板・投棄防止ネット監視カメラなどを設置し、不法投棄されにくい環境づくりを行なうとともに、投棄物の早期回収を行う。また、市民及び地区役員の通報体制や関係機関との連携により、監視体制を強化する。発見した不法投棄に対しては警察などの関係機関と連携しながら、厳正な対応を行う。 全戸配布される家庭用資源物・ごみカレンダーの配布や、環境美化説明会等を通じて広く住民に対し適正なごみ出しについて周知を図る。	

分野4 安全で安心して暮らせるまち「ながの」(防災・安全分野)

政策1 災害に強いまちづくりの推進

施策1 防災・減災対策の推進

施策2 消防力の充実・強化及び火災予防

政策2 安心して暮らせる安全社会の構築

施策1 交通安全対策の推進

施策2 防犯対策の推進

施策3 安全な消費生活の確保

1 施策の概要

施策番号	4-1-1		
分野	防災・安全分野	担当部局	総務部
政策	災害に強いまちづくりの推進	担当課	危機管理防災課
施策	防災・減災対策の推進		
施策の目指す状態	災害発生に備え、被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○			○					○		○

2 指標の推移等

	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	%	(H28) 35.5	35.7	34.0	32.9	32.3	34.2	33.8	↗
	R3年度実績値の理由	令和元年第19号台風災害の際の対応を評価する声や、防災訓練に力を入れて取り組んでいるという意見がある反面、否定的な意見では、水害が同じ場所で繰り返し起きている、防災行政無線が聞こえにくいといった意見があることから、ハード面での体制が整っていないと感じる住民が多いものと思われる。								
	回答者自身の実践状況①	%	(H28) 41.1	37.2	36.5	42.3	51.2	49.6	43.4	↗
	R3年度実績値の理由	前年度に比べ減少しているものの、「令和元年第19号台風災害で学んだ」といった意見がモニターから寄せられているように、近年の大災害を通じて、家庭での防災意識が高まっているものと思われる。								
統計指標	地域防災マップ作成率	%	(H27) 65.8	74.4	76.4	77.2	77.8	78.0		85.1
	R3年度実績値の理由	危機管理防災課	地域防災マップ作成については、消防局と連携し、自主防災組織や住民自治協議会に向けて作成を促しているが、新型コロナウイルス感染症の影響等で啓発が十分に行えなかったことから、進捗率は停滞している。							
	防災訓練実施率	%	(H27) 87.1	85.1	82.1	68.9	55.0	60.4		100
	R3年度実績値の理由	警防課	自主防災訓練実施率については、全ての自主防災組織が実施することを目標にしているが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、防火防災訓練を計画できない組織が多く、実施率の大幅な改善はなかった。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から実施した同報系防災行政無線デジタル化整備を令和3年度末に完了した。 指定避難所における新型コロナウイルス感染症への対応等を含む、避難所開設マニュアル及び運営マニュアルを策定した。 避難所運営に必要な緊急資機材・食料などの備蓄を計画的に進めるとともに、備蓄倉庫を増設した。 災害に対する脆弱性を克服し、防災・減災その他迅速な復旧等に資する施策を総合的に実施するため、国土強靱化地域計画を策定した。 市民の防災対策に対する支援については、住宅耐震対策として木造住宅の無料耐震診断・耐震改修工事補助、特定既存耐震不適格建築物等耐震診断補助を実施するとともに、ブロック塀除却補助及び自主防災組織強化事業補助の実施に加え、「地域防災力向上研修」を実施することで訓練の意義や方法について指導し、「自助」「互助・共助」「公助」による防災体制の強化を図った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<p>アンケート指標の「災害時に被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている」の肯定的な回答割合が低水準であることを踏まえ、令和元年東日本台風災害の検証を踏まえた自助・互助・共助・公助の理念のもと、市民・地域・事業者・関係機関・行政が一体となった防災対策を更に推進する必要がある。</p>	<p>気候変動により、自然災害が広域化、激甚化していることから、気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応力を強化し、災害による死者や被災者数を最小限に減らし、経済損失を削減する取り組みが必要となる。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<p>災害時に被害を最小限に抑制できる体制として、防災行政無線（同報系）の増設等を進め情報伝達機能の強化を図る。 災害時に被害を最小限に抑制できる準備として、各種ハザードマップ等を作成・周知するとともに、防災備蓄倉庫を設置するとともに、避難所運営に必要な緊急資機材・食料などの備蓄を計画的に進める。 市政出前講座や防災イベント等で、家庭内備蓄やマイタイムラインの作成など、日頃からの備えに取り組んでいただくよう啓発していく。</p>	

4-1-2

1 施策の概要

施策番号	4-1-2	
分野	防災・安全分野	担当部局
政策	災害に強いまちづくりの推進	担当課
施策	消防力の充実・強化及び火災予防	
施策の目指す状態	市民の防火意識が高く、消防・救急・救助体制の充実により市民の生命・財産が守られている。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	消防や救急体制が十分に整っている	%	(H28) 62.7	61.8	61.3	61.5	61.7	60.4	61.3	↗
R3年度実績値の理由	消防署所及び救急車の配置に対する肯定的意見が多い。否定的意見として、市街地と中山間地域の比較、受入れ先病院について、大規模災害時の対応不安に関して、一定数の意見があるため。									
回答者自身の実践状況①	応急手当の仕方を講習会などにより勉強している	%	(H28) 37.6	34.5	33.6	34.8	34.0	33.3	34.0	↗
R3年度実績値の理由	64歳以下の5区分で「機会がない」との否定的意見がある。新型コロナウイルス感染症の影響により受講人数の制限等をした結果、令和元年度比較で、開催率が約70%、受講者数が約55%であったためと分析。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
出火率 (年)	人口1万人当たりの出火件数	件	(H27) 3.3	2.8	3.9	3.4	2.5	2.5		3.0以下
R3年度実績値の理由	予防課	昨年と同数で、目標値を下回ることができた。これは、たき火や放火などによる火災の件数を抑えることができたためと考える。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 災害復興計画に基づき、長野市東北部の消防力強化のため、鶴賀消防署豊野分署を設置した。 WEB救急講習を活用し、効率化した受講環境を提供することで受講者数の増員を図った。 新型コロナウイルス対策としてN95マスクと感染防止用ゴーグル等の増強を図った。 消防団の年額報酬及び出動報酬を国の標準額に増額し、処遇改善を図った。 消防団員の個人装備品の配備及び消防団車両等の更新について計画どおり配備した。(令和3年度実績：雨衣280着(配備合計3,430着 100%)、小型動力ポンプ(更新)3台、)【事務事業評価シート整理No.212】 火災予防としての統計指標である出火率は目標を達成した。出火原因の上位である「たき火・放火」の減少を図るため消防車両による予防広報、ホームページ・SNSを活用した広報活動を行った。【事務事業評価シート整理No.207】
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
高齢化の進行に伴う、高齢者の救急需要の増加が見込まれるため、質の高い救急サービスの提供とともに、市民に対する応急手当の普及啓発を行う必要がある。近年、頻発激甚化する災害により市民の防災意識が高まる中、地域防災力の向上を目指す必要がある。	計画に基づく消防庁舎の長寿命化工事を推進しながらも、将来の人口等の変化に適応した持続可能な消防体制に着眼し、支所等との一体化した消防施設の在り方について検討をしていく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
市民に対する応急手当の普及啓発として、WEB救急講習を活用し、効率化した受講環境かつ多くの受講機会を提供することで、受講者数を増員するとともに、家庭などでの事故やケガを防ぐよう予防救急の推進を行っていく。 地域防災力の向上について、自主防災組織と地域防災の中核である消防団が連携した活動ができるよう体制を構築する。また、持続可能な消防団組織の構築として、消防団が主体的に分団統合等について検討を進めているため、消防局としても支援を行っていく。	

4-2-1

1 施策の概要

施策番号	4-2-1	
分野	防災・安全分野	担当部局 地域・市民生活部
政策	安心して暮らせる安全社会の構築	担当課 地域活動支援課
施策	交通安全対策の推進	
施策の目指す状態	市民が交通事故の被害者・加害者になることなく、安全に安心して生活している。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○				○										○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	交通マナーが良い地域である	%	(H28) 44.1	46.2	45.5	43.7	54.9	56.4	49.3	↗
R3年度実績値の理由	横断歩道ルール・マナーアップ運動等の広報啓発活動により、交通ルールの遵守や正しい交通マナーの実践が市民に浸透してきたため。									
回答者自身の実践状況①	自動車や自転車の交通マナーを意識して生活している	%	(H28) 90.4	86.7	87.8	88.1	90.0	89.7	88.5	→
R3年度実績値の理由	継続的な交通安全教育や広報啓発活動により、市民の交通安全意識が維持されているため。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
交通事故件数(年)	交通事故件数	件	(H27) 1,701	1,471	1,306	1,114	992	1,033		1,250以下
R3年度実績値の理由	地域活動支援課	目標値は達成しているが、前年度と比較して件数が増加しているのは、世代に応じた交通安全教育や関係機関・団体と連携した啓発活動を実施しているものの、コロナ禍において緊急事態宣言等が発出された前年度と比べ行動制限が緩和され、外出が増えたことが一つの要因と考えられる。								
高齢者の交通事故件数(年)	高齢者(65歳以上)の交通事故件数	件	(H27) 580	502	481	393	360	406		375以下
R3年度実績値の理由	地域活動支援課	高齢者人口が増加する中、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特に高齢者向けの交通安全教育の機会が減っていることに加え、コロナ禍において緊急事態宣言等が発出された前年度と比べ、行動制限が緩和されたことが一因と考えられる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容(改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 交通弱者(園児と小学生、高齢者)に重点を置いた交通安全教育を実施した。令和3年度実績(派遣回数:85回、受講者数:のべ6,080人、うち園児・小中学生・高齢者対象:約90%) 警察や交通安全関係団体及び地域と連携し街頭啓発活動を実施し、市民の交通安全意識の高揚を図った。 学校・警察・道路管理者・地域等と連携した通学路等における危険箇所の確認と関係機関への道路環境の改善及び交通規制の要望を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
交通死亡事故全体に占める高齢者死亡事故の割合は約60%とここ数年横ばいで推移しているが、高齢者人口の増加に伴い、事故件数自体も増加していることから、高齢者向けの交通安全教育や、サボカー、免許返納について周知が必要である。	交通事故の約4割を交通弱者が占めており、安全な社会の構築に寄与するために、継続的な啓発活動や交通安全教育が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
高齢者事故を減少させるため①交通安全教育の場をより多く提供する②高齢者自身に対して参加・体験・実践型教育を実施③運転に不安を感じた場合の免許返納の促進④安全運転サポート車について周知を実施していく。	

4-2-2

1 施策の概要

施策番号	4-2-2		
分野	防災・安全分野	担当部局	地域・市民生活部
政策	安心して暮らせる安全社会の構築	担当課	地域活動支援課
施策	防犯対策の推進		
施策の目指す状態	市民の防犯意識が高く犯罪被害に遭うことなく、安全に安心して生活している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
							○											○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	地域で防犯に向けた取組が行われている	%	(H28) 41.8	44.5	42.1	38.7	42.2	41.0	41.7	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、地区防犯協会等による自主防犯パトロールの実施機会が限られたことによる。									
回答者自身の実践状況①	犯罪防止のため、声かけや見守り活動に参加している	%	(H28) 27.6	25.9	24.5	23.8	23.7	22.2	24.0	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、防犯ボランティア活動など地域内における見守り活動に参加する機会が減少したことによる。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
刑法犯発生件数(年)	刑法犯発生件数	件	(H27) 2,324	1,934	1,843	1,877	1,282	1,190		2,000未満
R3年度実績値の理由	地域活動支援課	防犯ボランティア等による自主防犯活動の実施や防犯灯の整備により、犯罪が起きにくい環境が徐々に進んでいるため。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 防犯灯の設置及び維持管理 夜間における歩行者の安全を確保するために、行政連絡区がLED防犯灯を設置及び維持管理する場合に係る経費の一部を助成した。 自主防犯活動への支援 子どもや女性、高齢者の犯罪被害防止を含め、地域の防犯活動を担っている防犯ボランティアによる自主防犯活動への財政的支援を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 継続した防犯灯の維持管理に向けた、安定的な予算の確保と管理体制の確立。 新型コロナウイルス感染拡大により低調となっている、市民の防犯意識の向上に資する防犯活動の活性化。 	防犯灯について、一定の周期で灯具の大量更新が必要なことや、人口が減少していく中で、行政連絡区の維持管理負担が過度にならないようにする。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 防犯灯具の経年劣化による大量更新時期が到来することから、明確な防犯灯更新年次計画を作成し、計画的な予算の確保と安定した管理体制の確立を図る。 多くの市民に自主防犯活動に関心をもってもらうため、犯罪に関する情報提供などを行い、市民1人1人の防犯意識の向上を目指す。 	

4-2-3

1 施策の概要

施策番号	4-2-3		担当部局	地域・市民生活部
分野	防災・安全分野		担当課	市民窓口課
政策	安心して暮らせる安全社会の構築			
施策	安全な消費生活の確保			
施策の目指す状態	市民の消費生活における健全な環境が確保され、安全で安心な暮らしを送っている。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会					環境					経済			全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
						○									○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値					目標値 (R3)		
			H29	H30	R1	R2	R3			
環境・体制に関する評価①	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整っている	%	(H28) 31.0	32.8	32.0	27.5	30.6	31.3	30.8	↗
R3年度実績値の理由	複雑・多様化する消費生活相談に対応するため、専門的な知識を有する相談員の4名体制を維持し、相談の充実を図っている。(R1=2,203件、R2=2,215件、R3=1,778件)									
回答者自身の実践状況①	家族や友人と特殊詐欺の対策を話し合うなど、日頃から気をつけている	%	(H28) 60.9	55.7	54.5	58.9	57.7	57.2	56.8	↗
R3年度実績値の理由	特殊詐欺などの消費生活に関する相談体制が整い、啓発活動も強化していることから。市民の関心度に大きな変化はない。(意識調査：R2:38位 R3:39位)									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値					備考	目標値 (R3)	
通信販売(インターネット等)に関する被害認知件数(年度)	消費生活センターで把握する通信販売(インターネット等)の被害認知件数	件	(H27) 99	90	63	59	59	30		50以下
R3年度実績値の理由	市民窓口課	通信販売による詐欺が市民に広く周知されてきたこともあり、被害認知件数は減少した。(通信販売相談：R2:779件、R3:643件)								
特殊詐欺認知件数(年)	特殊詐欺の認知件数	件	(H27) 54	49	38	27	29	43		25以下
R3年度実績値の理由	市民窓口課	金融機関やコンビニ等関係機関の「消費者への声掛け」の強化により減少傾向にあったが、令和3年度は、高齢者を中心に被害が発生し、前年を大幅に上回った。(県全体の認知件数：R2:125件、R3:155件)								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 悪質商法や特殊詐欺の被害を防止するため、「高齢者等見守りネットワーク」を活用し、高齢者等と日常的に関わる民生委員やケアマネジャー等との情報共有・周知を図り、各地域内での未然防止活動を協働で進めている。(民生委員やケアマネが関わった事案 R2:9件、R3=5件) 広報ながのや市ホームページ、市民新聞、ラジオ、有線放送等の広報媒体の活用及び出前講座を行い、被害防止のための啓発を行っている。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
悪質商法や特殊詐欺は、常に新たな手口が発生し巧妙化しており、依然として騙される被害者が後を絶たない。	未然に防ぐためには、地域との連携した取組や、当センターによる情報発信、相談員の充実・スキルアップ等が必要であると思われる。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
<p>広報ながのや市ホームページ、市民新聞、ラジオ、有線放送等の広報媒体を有効に活用し、悪質商法や特殊詐欺の手口を幅広く周知するとともに、関係団体とのネットワーク強化を図る。また、各地区の住民自治協議会や公民館等での出前講座を積極的にを行い、地域住民の口コミ等により、地道な啓発活動が求められている。</p>	

分野5 豊かな心を育み人と文化が輝くまち「ながの」(教育・文化分野)

政策1 未来を切り拓く人材の育成と環境の整備

施策1 乳幼児期から高等教育までの教育の充実

施策2 子どもに応じた支援の充実

施策3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上

政策2 豊かな人生を送るための学習機会の提供

施策1 生涯学習環境の充実

施策2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進

政策3 魅力あふれる文化の創造と継承

施策1 多彩な文化芸術の創造と活動支援

施策2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進

政策4 スポーツを軸としたまちづくりの推進

施策1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進

施策2 スポーツを通じた交流拡大の推進

政策5 国際交流・多文化共生の推進

施策1 国際交流活動の推進

施策2 多文化共生の推進

1 施策の概要

施策番号	5-1-1		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備	担当課	学校教育課
施策	乳幼児期から高等教育までの教育の充実		
施策の目指す状態	子どもが社会でたくましく生きていくために必要な学力・体力を身に付け、人間性豊かに成長している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○			○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)			
				H29	H30	R1	R2	R3	平均				
環境・体制に関する評価①	子どもがたくましく生きていくために必要な学力・体力を身につける教育が行われている	%	(H28) 41.2	40.1	38.8	46.3	47.6	43.4	43.2	↗			
R3年度実績値の理由	地域の子どもたちが生き生きと学習や体育活動に臨む姿を肯定的に捉える一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による活動の制限など、学力や体力を身につけるための活動が不十分であることへの意見が増えたためと思われる。												
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-			
R3年度実績値の理由													
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)			
				H29	H30	R1	R2	R3	備考				
全国学力・学習状況調査における国語、算数、数学の平均正答率	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生（国語、算数） ・中学校3年生（国語、数学） について、それぞれ ・A問題（主に知識・技能） ・B問題（主に活用、思考力・判断力・表現力） の平均正答率（全国を100とした指数） ・令和元年度からA問題、B問題の区分がなくなり、一体化された調査問題に変更されたため、小学校6年生（国語、算数）中学校3年生（国語、数学）について、それぞれの平均正答率（全国を100とした指数）	-	(H27) 小学生 国語A 101.0 国語B 101.2 算数A 100.1 算数B 103.6 中学生 国語A 99.2 国語B 97.4 数学A 97.2 数学B 95.7	小学生 国語A 102.0 国語B 101.6 算数A 101.7 算数B 102.0 中学生 国語A 100.9 国語B 98.5 数学A 97.4 数学B 97.3	小学生 国語A 103.2 国語B 101.1 算数A 99.7 算数B 100.6	小学生 国語 103.4 算数 100.6	中学生 国語A 101.6 国語B 99.9 数学 100.3	小学生 国語 98.9 算数 99.7	中学生 国語 100.6 数学 99.7	小学生 国語 100以上 算数 100以上 中学生 国語 100以上 数学 100以上			
				R3年度実績値の理由	学校教育課	コロナ禍において、話し合う活動などに制限があったものの、分析結果を生かした指導改善サイクルが定着してきたことで、全国平均と同程度の正答率を維持できている。							
				全国体力・運動能力、運動習慣等調査において全国平均値を上回った種目数	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生（8種目） ・中学校2年生（9種目） について、全国平均値を上回った種目数	種目	(H27) 小学生 男子 5 女子 5 中学生 男子 3 女子 4	小学生 男子 5 女子 4 中学生 男子 7 女子 4	小学生 男子 6 女子 2 中学生 男子 7 女子 4	小学生 男子 6 女子 5 中学生 男子 6 女子 4	小学生 男子 6 女子 5 中学生 男子 6 女子 4	小学生 男子 6 女子 6 中学生 男子 4 女子 5	
R3年度実績値の理由	学校教育課	コロナ禍の活動制限等により運動時間は低下傾向にあるものの、学校や家庭において運動機会の確保に向けた取組を工夫することができたため、体力を維持することができている。											

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容（改善を行った内容を中心に記載）	<p>「第二期しなのきプラン（平成30年4月策定）」に基づき、「教職員の力量向上」「確かな学力の育成」「基礎的な体力の育成」等を重点として学力、体力の向上を図った。</p> <p>学力の向上については、分析結果の活用、指導主事による学校訪問（18校）、児童生徒の自学自習の資質能力を育むための授業づくりなど、各校の指導改善サイクルがより効果的なものとなるよう支援を行った。</p> <p>体力の向上については、運動意欲の向上や運動習慣の形成を図るための「長野市版運動サーキット普及事業（重点校6校、普及推進校25校）」を実施した。また、小・中学校の体育授業等の改善・充実に向け、教職員を対象に「体育授業しなのきモデル」普及のための出前講座を11校で実施した。さらに、体力育成事業「体力向上グッと！プラン（4プログラム）」を17校で実施した。</p>
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<p>学力の向上については、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを推進し、第三期しなのきプランで示している子どもたちの自学自習の資質能力を育んでいく。</p> <p>体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、全国平均を上回る種目は増加傾向にあるものの、コロナ禍の活動制限の影響を受け、運動時間が減少傾向にあるため、運動習慣の定着に向けて、小学校低学年から運動に親しむことができる環境の充実を図っていく。また、女子の体力については更なる向上を図りたい。</p>	<p>学力の向上については、すべての児童生徒が、適切かつ効果的な学習成果を得られるよう、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、授業や家庭学習において、ICTを効果的に活用していく必要がある。</p> <p>体力の向上については、児童生徒が日常的に運動できるよう、自ら運動に親しむ運動機会を提供する必要がある。</p>
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<p>「学力」については、子どもたちの自学自習の資質能力を育むため、全国学力・学習状況調査等の分析をもとに指導改善に向けた具体的なアクションを起こせるよう、各校の研究主任を対象に研修会を開催する。また各校において学力向上に向けたPDCAサイクルがまわせるよう、指導主事による学校訪問支援を行う。</p> <p>「体力」については、男女ともに「運動好き」や「運動時間」が増加傾向にあることから、「わくわく運動遊び」や、「体育授業しなのきモデル普及のための学校訪問支援」、「体力向上グッと！プラン（5プログラム）」の拡充を図り、児童生徒が自発的に運動に親しむ力を育み、生涯スポーツにつながる取組の充実を支援していく。</p>	

1 施策の概要

施策番号	5-1-2		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備	担当課	学校教育課
施策	子どもに応じた支援の充実		
施策の目指す状態	不登校やいじめに悩む子ども、障害のある子ども、社会的援助を必要とする子どもなど、子どもに応じた適切な支援の下、安心して学習に取り組んでいる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17	
○			○			○	○											○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている	%	(H28) 41.0	40.9	40.2	42.5	47.4	42.7	42.7	↗
R3年度実績値の理由	前年より4.7ポイント減少した。40歳代や50歳代の年代から「学校の体制を見てみると、十分とは言えない」「コロナで混乱している」等の否定的意見が寄せられ、否定的評価割合が高くなったためと考えられる。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										

統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
不登校児童・生徒の学校復帰率	不登校児童・生徒（年間の欠席30日以上）への指導の結果、登校するまたはできるようになった児童・生徒の割合	%	(H27) 小学生 47.4 中学生 35.3	小学生 46.7 中学生 39.6	小学生 48.2 中学生 38.1	小学生 38.1 中学生 38.6	小学生 46.8 中学生 43.1	小学生 52.2 中学生 48.7		毎年度、国の不登校児童・生徒の学校復帰率の数値を上回る
R3年度実績値の理由	学校教育課	小・中学校ともにR3年度の国の復帰率（小：27.1%、中：28.1%）を上回った。スクリーニング会議により早期発見・早期対応を行い、SSWの派遣による家庭支援や、「学校へ登校する」という結果のみを目標とせず、児童生徒の社会的自立へ向けた支援の充実を図ったりした結果と考える。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<p>各校に担当指導主事を「さっと学援隊」として派遣し、不登校やいじめなどの学校諸問題に対し未然防止・早期対応を行ってきた。</p> <p>登校支援については、状況に応じてスクールソーシャルワーカーを派遣し、保護者・教職員等に対する支援を実施するとともに、教育機会確保法に基づいた多様な居場所支援として、民間施設等とのネットワーク構築を行った。</p> <p>いじめについては、市立全小・中学校において、各校の「いじめ防止等のための基本的な方針」などに基づき、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行った。いじめ問題が起きた学校へ、弁護士や心理等の専門家である「長野市いじめ問題等調査員」を派遣し、早期解決に向けた支援を行うように指導した。</p> <p>教育支援委員会では415件を審議し、一人一人の教育的ニーズを踏まえた総合的な観点から就学判断を行い、それをもとに保護者と合意形成の上、就学先を決定した。また、窓口相談員による来所および電話相談を行い、安心して学習に取り組めるための相談体制を整えた。</p> <p>特別支援教育支援員については、看護師資格を有する51名を含めた計185名を配置し、発達特性や医療的ケアのある児童生徒等への支援を継続的に行った。</p>
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<p>不登校児童生徒について、専門家を交えた支援により未然防止を図る必要があるとともに、個々のニーズに合わせた適切な支援をしていくことが重要である。</p> <p>いじめに対する教職員の意識向上により、本市におけるいじめの認知件数は増加している。事案に対し、教師による抱え込み防止や組織的な早期対応がより一層重要である。</p> <p>障害者差別解消法の施行やインクルーシブ教育の推進の流れの中で、医療的ケアも含め、様々な特性を持った児童生徒の市立小・中学校への就学が増えており、基礎的環境整備の充実が一層必要となっている。</p>	<p>SDGsの理念である「誰一人取り残さない」という視点を持ち、不登校やいじめに悩む子ども、障害のある子ども、社会的援助を必要とする子どもなど、一人一人の子どもに応じて、適切な支援にあたっていくことが一層必要となっている。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<p>学校で起こる様々な問題について、引き続き「さっと学援隊」を派遣し、解決に向けた支援を行う。</p> <p>不登校の未然防止・早期発見と不登校児童生徒への適切な支援を行うため、専門家が同席したスクリーニング会議や支援会議の実施を広げていく。また、学校復帰のみを主目的とせず、児童生徒の社会的自立を視点にした指標へ移行していく。</p> <p>いじめ問題については、引き続き、「いじめ防止対策推進法」に基づく組織的な対応を、校長会や研修等を通して教職員へ周知するとともに、いじめ事案が発生した学校には、必要に応じて弁護士や心理などの専門家である「いじめ問題等調査員」を派遣し、早期解決に向けた支援を行う。また、「SOSの出し方に関する教育」や年4回「いじめアンケート」を実施する等、いじめ等に起因する児童生徒の自殺防止を図っていく。</p> <p>特別支援教育支援員を、各校の状況を考慮しながら効果的に配置するとともに、巡回相談員を派遣し、学校全体での指導・支援のあり方についての助言を行う。また、就学相談においては、望ましい就学先を判断するために教育支援委員会での審議を適切に行い、判断後のフォローアップ支援も積極的に進めていくとともに、窓口相談員による来所及び電話相談を引き続き行う。</p>	

1 施策の概要

施策番号	5-1-3		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備	担当課	家庭・地域学びの課
施策	家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上		
施策の目指す状態	家庭・地域・学校が相互連携により教育力を向上し、子どもの学びや育ちを支えている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○			○								○		○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている	%	(H28) 49.7	51.4	49.4	53.4	55.9	51.0	52.2	↗
R3年度実績値の理由	数値の低下がみられたが、小・中学校PTAを対象とした「家庭教育研修会」の実施や少年育成センターの巡回活動により、家庭教育の重要性や家庭・学校・地域が連携して子どもを見守り、育てる意識が醸成され、基準値を上回ることができたと思われる。									
回答者自身の実践状況①	地域の子どもにあいさつや声かけをしている	%	(H28) 71.2	66.2	64.7	64.0	64.1	62.3	64.3	↗
R3年度実績値の理由	少年育成センターの巡回活動を継続して実施しており、おおむね横ばいの実績を維持していると思われる。									

統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
家の人と学校での出来事について話している児童・生徒の割合	全国学力・学習状況調査結果 (全国を100とした指数)	-	(H27) 小学生 100.5 中学生 99.2	小学生 98.6 中学生 101.1	小学生 100.9 中学生 100.0	小学生 99.9 中学生 101.3	未実施	未実施	小学生 101.2 中学生 100.6	
R3年度実績値の理由	学校教育課	全国学力・学習状況調査の調査項目でなくなったため、実績なし。								
住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合	全国学力・学習状況調査結果 (全国を100とした指数)	-	(H27) 小学生 129.4 中学生 118.8	小学生 135.6 中学生 120.9	小学生 159.8 中学生 114.3	小学生 128.1 中学生 120.0	未実施	小学生 140.0 中学生 126.9	小学生 131.7 中学生 120.6	
R3年度実績値の理由	学校教育課	新型コロナウイルスの影響により、身近な場所での行事等への参加が増えたためと思われる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 全公民館の必須事業として、親子を対象に「親子学級」を実施し、保護者、地域の交流を図りながら、子どもの成長に関係のある内容の講座を実施した。 親の学びの機会として、全保健センターでの「7~8か月児健康教室」に併せて「家庭の学び講座」を実施した。 少年育成センター職員が住民自治協議会を訪問し、あいさつ運動を含め、地域で子どもを見守ること・育てることの重要性を伝える巡回活動を行った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<p>子どもと地域の関わりの希薄化が進んでいる。子育てに関する研修会・講座の開催を継続し、家庭、地域、学校が一体となって、子どもの学びや育ちを支えていく必要がある。</p>	<p>子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、家庭・地域・学校が連携を図りながら、一体となって子どもの成長を支え合う取組とする必要がある。</p>
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を支えるためには地域の関わりが重要であり、住民自治協議会への巡回活動を通じて地区に協力依頼をしていく。 ・小・中学校PTA組織の会合において、「家庭教育力向上研修会」の開催を促進するとともに、住民自治協議会、公民館・交流センターを通して地域と連携した家庭教育の啓発を図る。 ・家族の絆を深めるとともに家庭での教育の重要性を認識し、実践されるよう、「家庭の学び講座」、「親子学級」を継続して実施していく。 	

1 施策の概要

施策番号	5-2-1		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	豊かな人生を送るための学習機会の提供	担当課	家庭・地域学びの課
施策	生涯学習環境の充実		
施策の目指す状態	ライフステージに応じた学びの機会が提供され、多くの市民が学びを実践している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
				○			○											○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	公民館などで、学びの機会が提供されている	%	(H28) 52.0	51.3	52.4	48.7	44.9	43.6	48.2	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染症により、休館や利用制限、実施する講座が減少したほか、開催する講座の情報が住民に広く伝わらなかったと思われる。									
回答者自身の実践状況①	公民館などで提供されている学びの場に参加している	%	(H28) 26.8	25.7	25.2	23.6	23.4	22.0	24.0	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染症による影響のほか、女性や定年後も就業する人が増加しており、講座に参加する時間が取れない人が増加していると思われる。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
若い世代を中心に構成される団体が市立公民館を利用した割合	市立公民館を利用する全団体のうち、20歳代～40歳代中心で構成されている団体が市立公民館を利用した割合	%	(H28) 9.9	10.5	9.5	9.8	7.8	7.5		11.0
R3年度実績値の理由	家庭・地域学びの課	令和3年度は0.3%の低下となったが、コロナ禍により若い世代の団体が活動を自粛したことなどによるものと思われる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センター、市立公民館及び交流センターで実施する講座等の事業について、「生涯学習推進員会議」を設置し、事業の充実を図るための調整・協議を行った。 図書館、少年科学センター等関係機関の協力による「親子わくわくフェスタ」を開催し、親子の学びを通して親子のふれあいの機会を提供し、若い世代の参加を促した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<p>市民一人一人が生涯のあらゆる場面で学習を深めることで豊かな生活につながるよう、社会情勢の変化等に対応した講座を開催するとともに、多くの市民が参加できるよう周知方法の工夫を行っていく必要がある。</p> <p>また、コロナ禍にあっても安心して講座等を受講できる環境を確保していく必要がある。</p>	<p>少子・高齢化や高度情報化など社会の変化が激しい中で、講座等で学んだものが自己を高めるとともに、地域づくりにつながるよう生涯にわたり学びの機会を提供する必要がある。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 講座修了後に行うアンケート結果等を基にニーズの把握に努め、現在の社会情勢から市民が求めている講座を企画・実施する。 生涯学習センターや市立公民館、交流センターで開催する講座等に関する情報を広く、わかりやすく提供し、新規参加者の増加を図る。 市民が安心して講座等を受講できるよう、感染防止策を引き続き徹底していく必要がある。 	

5-2-2

1 施策の概要

施策番号	5-2-2		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	豊かな人生を送るための学習機会の提供	担当課	家庭・地域学びの課
施策	学習成果を活かした地域づくりへの参加促進		
施策の目指す状態	市民が市立公民館などでの学びの成果を、地域づくりに活かしている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
							○										○	○

2 指標の推移等

	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている	%	(H28) 50.8	52.0	52.1	48.9	45.6	43.8	48.5	↗
	R3年度実績値の理由	「地域づくり」が講座の目的の一つであることを知らない人の増加と、新型コロナウイルスにより講座実施回数が減少したことが理由と思われる。									
	回答者自身の実践状況①	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている	%	(H28) 19.2	18.1	15.6	14.6	13.1	13.1	14.9	↗
	R3年度実績値の理由	公民館等の講座受講者は年齢層が高い人が多いが、学びの成果を自己の教養や知識の向上までとどめている人が増加していると思われる。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
				H29	H30	R1	R2	R3	備考		
	市立公民館の講座における地域住民が講師を務めた講座の割合	%	(H28) 37.2	31.5	30.6	34.9	28.6	27.7		38.5	
	R3年度実績値の理由	家庭・地域学びの課	新型コロナウイルスにより講座全体数が落ち込む中、地域の住民が講師を務める講座が減少したことによるものと思われる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに生かせる講座の一つとして、受講者が地域の歴史や文化を学んだり、地域の実状や課題を知ることを目的とした「地域の学び講座」を企画し、全公民館、交流センターで実施した。 ・地域づくりの推進を設置目的の一つとしている交流センターについて、モデル移行した5館のうち、令和元年東日本台風災害で被災した長沼を除く4館（柳原、篠ノ井、小田切、中条）で移行に伴うデータの収集を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
講座等を受講する人が、学んだことを地域づくりに生かそうとする意識が薄くなってきている。	少子・高齢化や高度情報化など社会の変化が激しい中で、講座等で学んだものが自己を高めるとともに、地域づくりにつながるよう生涯にわたり学びの機会を提供する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・講座の目的として地域づくりがあることについて受講者に対して意識付けを行うとともに、学びの成果を地域づくりに生かすことを促していく。 ・地区における課題等を把握し、地域づくりに実践しやすい講座内容を検討する。 	

1 施策の概要

施策番号	5-3-1		
分野	教育・文化分野	担当部局	文化スポーツ振興部
政策	魅力あふれる文化の創造と継承	担当課	文化芸術課
施策	多彩な文化芸術の創造と活動支援		
施策の 目指す状態	だれもが気軽に音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○			○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている	%	(H28) 40.7	39.6	40.6	40.7	39.6	39.5	40.0	↗
R3年度実績値の理由	概ね横ばいである。全ての年代の方が整っていないと回答する傾向にある。									
回答者自身の実践状況①	音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる	%	(H28) 39.4	37.1	35.1	33.0	32.6	31.7	33.9	↗
R3年度実績値の理由	全ての年代で親しんでいないとの回答が多く、興味が無い、時間の余裕がないとの意見が多い。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
市有ホール施設の利用者数	長野市芸術館、東部文化ホール、松代文化ホール、勤労者女性会館しなのき、若里市民文化ホール、中条音楽堂の利用者数	人	(H27) 277,372	402,734	406,206	359,927	149,200	237,929		535,000
R3年度実績値の理由	文化芸術課	全ての施設で新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底を図り管理運営に努めたことにより前年度を上回った。なお、東部文化ホールは令和2年度改修工事のため半年間休館、中条音楽堂は平成30年度をもって廃止。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により文化芸術活動が停滞する中、所管施設においては徹底した感染防止対策を講じ管理運営に努め、年間を通じ休館することなく市民の活動支援に取り組んだ。 長野市芸術館においては、指定管理者の一般財団法人長野市文化芸術財団と連携を図り、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底や営業努力に努め、稼働率及び施設等利用料収入はコロナ禍以前の水準を確保することができた。また、開館5周年を記念し「ともにつくろう」をテーマに子どもから大人まで参加できる音楽、演劇、美術分野でのプログラム企画を開催した。 新型コロナウイルスの影響により開催時期を遅らせたが、徹底した感染症防止対策を講じ街角アート&ミュージックを開催し、文化芸術活動の発表の機会や鑑賞の機会を提供することができた。また、伝統芸能の次世代への継承と世代を超えた交流、地域への愛着とふるさと回帰を目的とした獅子舞フェスティバルも開催時期を変更し、感染防止対策を講じながら開催した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた安全で安心な事業の推進 財団主催事業の来場者を増加させること 芸術館の利用者数を増加させること 市民の日常の中に文化芸術に触れる機会が提供されること 	<ul style="list-style-type: none"> 他分野、他機関との連携や民間事業者などとのタイアップも検討する必要がある
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 芸術館で実施する財団の主催事業について、市民が参加しやすいプログラムの提供に向け、財団と更に連携を図る。 芸術館を発表の場、活動の場として利用環境の向上に努め、利用促進に努める。 表参道芸術音楽祭やアート&ミュージックの充実、野外彫刻の効果的な活用など、市民が文化芸術活動に気軽に親しむ機会の提供に努める。 	

1 施策の概要

施策番号	5-3-2		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	魅力あふれる文化の創造と継承	担当課	文化財課
施策	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進		
施策の目指す状態	指定文化財などが適切に保存・継承・活用され、魅力ある地域づくりにつながっている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
							○										○	○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている	%	(H28) 51.0	51.0	48.8	52.8	54.1	52.2	51.8	↗
R3年度実績値の理由	地域の文化財の保存・活用・継承に関わる人材の不足といった長期的な課題を感じる市民が多かったことにより、減少したと思われる。									
回答者自身の実践状況①	地域の伝統的な行事に参加している	%	(H28) 38.5	34.6	34.0	32.1	34.1	31.3	33.2	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、地域の行事が中止になっていることに加え、地域との関わりを敬遠する傾向が強くなっていることにより、参加する機会が更に減少したと思われる。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
文化財保護活動参加者数	指定文化財の保護に当たっている市民団体の構成員で活動に参加した人数	人	(H27) 5,537	6,149	6,417	6,348	5,255	2,195		5,800
R3年度実績値の理由	文化財課	新型コロナウイルスの影響等により、文化財保護活動ができなかった地域もあるため、昨年度と同様に、減少が続いている。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・松代城跡・大室古墳群などの保存整備事業を行った。また、重要文化財真田信之霊屋の保存整備や、国宝善光寺本堂ほかの保存活用計画策定・防災施設整備等へ支援をした。 ・戸隠伝統的建造物群保存地区において、所有者等が実施する保存事業（1件）に対して支援をした。また、茅刈り体験の開催に協力し、伝統技術の継承を図るとともに、歴史まちづくりに対する理解を深めた。そのほかに、文化財の保存と活用を図りつつ、保存地区に特有の防災上の課題への対策を講じるため、防災計画を策定した。 ・文化財の所有者・管理者研修会を開催し、文化財の保護・管理に関する意識の向上を図るとともに負担軽減のために文化財保護補助金を交付した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
文化財を活用した魅力あるまちづくりのためには、市民等と目標を共有して連携の強化を図ることが不可欠である。	文化の継承による魅力ある地域づくりに際して、社会や環境の側面にも配慮し、文化財の保存・保全・活用に取り組む必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
歴史に育まれた貴重な文化財を有効に活用しながら継承するために、「文化財保存活用地域計画」を作成し、文化財を活かしたまちづくりや、地域活性化の取組を推進していく。そのために、文化財担当部局のみならず、商工観光・まちづくり等の関係部局と連携する体制を整えていく。更には市民と行政が協働し文化財を保存・活用する体制を整えるため、人材育成や人の確保など地域住民と連携していく。	

5-4-1

1 施策の概要

施策番号	5-4-1		
分野	教育・文化分野	担当部局	文化スポーツ振興部
政策	スポーツを軸としたまちづくりの推進	担当課	スポーツ課
施策	だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進		
施策の目指す状態	気軽にスポーツや運動に親しめる環境が整い、市民が自分に合ったスポーツや運動を楽しんでいる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
			○			○	○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	%	(H28) 54.8	52.5	51.8	53.3	53.9	53.5	53.0	↗
R3年度実績値の理由	60～64歳以外は、肯定意見が否定意見を上回っているいて、否定的評価が減少している。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
スポーツ実施率	成人が週1回以上スポーツや運動を実施した割合	%	(H27) 59.1	55.9	56.1	59.9	59.9	62.3		65.0
R3年度実績値の理由	スポーツ課	コロナ禍でスポーツをする環境が制限される中、スポーツ実施率が向上したのは、身近で気軽に実施できる体操やウォーキング等の運動を行ったためと考えられる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命延伸に向けた保健福祉部との連携事業の「NAGANO体力健康チェックキャラバン」について、コロナ禍の中、安全対策を施し、4回予定していたところ3回実施することができ、健康寿命延伸に繋がるスポーツ活動への動機づけが維持できた。 その他、コロナ禍の中、市が主催・共催するスポーツ教室について、安全対策の基、65教室を実施することができ、スポーツ活動を継続することができた。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命延伸を図るため、高齢者の継続的なスポーツ活動の実施 若年～勤労世代の継続的なスポーツの習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障費の抑制等、健康寿命の延伸につながる活動が必要 事業効果を見極める必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 身近で手軽にできる健康スポーツ教室、スポーツフェスティバルなどスポーツイベント等を開催する。 NAGANO体力・健康チェックキャラバンの実施により、中高年の健康に関する認識を促す。 部活の地域移行について、受け皿となりうる総合型地域スポーツクラブや競技団体の運営基盤強化など支援していく。 事業効果を見極め、事業の実施につなげていく。 	

5-4-2

1 施策の概要

施策番号	5-4-2		
分野	教育・文化分野	担当部局	文化スポーツ振興部
政策	スポーツを軸としたまちづくりの推進	担当課	スポーツ課
施策	スポーツを通じた交流拡大の推進		
施策の目指す状態	多くの市民が市内のスポーツ施設で観戦し、スポーツを通じた交流人口が拡大している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○				○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
アンケータ指標 環境・体制に関する評価①	%	(H28) 35.1	36.7	37.7	39.6	33.0	36.1	36.6	↗
R3年度実績値の理由	前年より3ポイント増加したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、プロスポーツのホームゲームや長野マラソン等の中止により、コロナ禍前の水準には戻っていない。								
アンケータ指標 回答者自身の実践状況①	%	(H28) 22.8	19.7	20.8	19.5	20.4	16.8	19.4	↗
R3年度実績値の理由	コロナ禍の中、ネット等のライブ配信利用が進み、施設でのプロスポーツの観戦を控えている事がうかがえる。また、各種競技大会を無観客で開催している事が影響している。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	備考	
統計指標 南長野運動公園総合球技場入場者数	人	(H27) 171,228	154,669	116,948	90,838	62,403	50,174		251,500
R3年度実績値の理由	スポーツ課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、AC長野パルセイロのホームゲームの入場者数が、観戦自粛の影響により著しく減少した。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症の影響 <ul style="list-style-type: none"> ・長野マラソン、長野車いすマラソン、信州松代ロゲイニングの中止 ・NAGANOパラ★スポーツデーの延期 ■実施された大会等 <ul style="list-style-type: none"> ・全国スピードスケート距離別選手権大会 ・全国中学校スケート大会 ・全日本アイスホッケー選手権大会 ・北京オリンピックスピードスケート代表選手選考競技会 ・AC長野パルセイロ、ポアルース長野、信州ブレイブウォリアーズのホームゲーム ・東京2020コミュニティライブサイトの開催、デンマーク競泳チーム、パラ水泳日本チームの事前合宿 ■市とプロチームによるホームタウンNAGANO連携推進ビジョンの策定
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会や全国大会等の継続的誘致・開催 ・プロスポーツチームとの連携によるスポーツ実施率の向上、スポーツによる地域の活性化 ・オリンピック・パラリンピックの開催都市として、ムーブメントを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる交流人口拡大及び地域経済活性化 ・スポーツの大規模大会等開催に伴う経済波及効果とオリンピックムーブメントの効果を検証する必要がある
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会や全国大会等の誘致開催に向け、競技団体や主催団体との情報共有 ・プロスポーツチームとの連携ビジョンに基づく取り組みの実施 ・プロスポーツチームのホームゲームなど、スポーツによる経済波及効果の検証 ・長野オリンピック・パラリンピック開催25周年記念事業の実施及び2030北海道・札幌大会招致への協力 	

1 施策の概要

施策番号	5-5-1		
分野	教育・文化分野	担当部局	商工観光部
政策	国際交流・多文化共生の推進	担当課	観光振興課
施策	国際交流活動の推進		
施策の目指す状態	多くの市民が国際交流に関心を持ち、国際交流事業に参加し、活動に関わっている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
				○			○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	国際交流が盛んに行われている	%	(H28) 12.6	14.3	15.4	17.4	14.9	12.3	14.9	↗
R3年度実績値の理由	姉妹・友好都市については、新型コロナウイルスの影響により、従来の中学生・高校生の相互訪問による交流を実施することができなかった。									
回答者自身の実践状況①	国際交流イベントに参加している	%	(H28) 5.2	4.8	3.9	3.7	3.9	3.2	3.9	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルスの影響により、国際交流団体等によるイベントの開催はなかったが、当課が実施するイベント「ワールドフェスタ」は、規模を縮小して開催し参加者数は横ばいであった。									
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
国際交流事業件数	市の国際交流事業補助金を活用し、市民団体が主催した国際交流イベントや留学生との交流事業などの件数	件	(H27) 7	9	12	10	2	0		13
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルスの影響により、海外との往来が制限されているため、市内の国際交流団体によるイベント等が開催されなかった。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹・友好都市交流については、従来の形式で交流を実施することはできなかったが、オンラインによる交流会議の開催による交流を行うことができた。 ・国際交流コーナーの運営や、国際交流員の派遣などを通じ、市民を対象とした国際交流の場や機会を設け、国際交流活動を実施した。 ・国際交流イベント「ワールドフェスタ」については、屋外の会場で他イベントと共催して実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
市民の国際感覚の醸成や、国際交流の重要性への理解を深めるため、多くの市民が様々な分野で交流事業に関わる機会を増やす必要がある。	次世代を担う青少年の国際的な資質を高めることに大きく貢献していることから、より多くの青少年が国際交流事業に携わることのできる内容で実施する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流団体情報交換会などの機会において、積極的な補助金活用の周知や情報交換を行い、国際交流事業の増進を図る。 ・往来を伴う国際交流ができないため、国際交流事業については実施方法の検討・見直しを行い、可能な形で継続させる。 ・多くの市民に国際交流に関心を持ってもらうため、開催形式や内容の見直しを行い、引き続き「ワールドフェスタ」を開催する。 	

1 施策の概要

施策番号	5-5-2		
分野	教育・文化分野	担当部局	商工観光部
政策	国際交流・多文化共生の推進	担当課	観光振興課
施策	多文化共生の推進		
施策の目指す状態	文化や習慣などが異なる外国人にとっても、暮らしやすい環境が整っている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
○				○		○	○										○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価① (設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
回答者自身の実践状況①	%	(H28) 31.0	32.5	29.3	27.7	30.5	29.4	29.9	↗	
R3年度実績値の理由	国際交流イベントの多くが、新型コロナウイルスの影響により中止及び開催規模を縮小したが、市民の3割程度には異文化理解が定着してきている。									

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	備考	
国際交流コーナーの利用者数	人	(H27) 8,909	9,416	9,783	8,098	5,582	5,681		9,200
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルスの影響によって、窓口での相談件数や日本語教室の利用者数は減少したが、電話・メールでの相談件数が増加したため、利用者総数は増加した。							
SNSのフォロワー数	人	(H27) 449	660	726	796	866	898		800
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルス関連情報や、生活情報、イベント・観光情報を積極的に発信したため、フォロワー数が増加した。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流コーナーにおいて、外国籍等住民に対する案内・相談を積極的に行った。 母語生活相談について、ベトナム国籍の住民数が増加しているため、新たにベトナム語の相談日を設けた。 生活に必要な日本語の学習機会を広く提供するため、周辺市町村と連携し、オンライン日本語教室を開催した。 国際交流コーナーホームページにおいて、新型コロナワクチン接種に関する情報を分かりやすくまとめて掲載するなど、コロナ関連情報を中心に、市からの重要なお知らせやイベント情報について、やさしい日本語・英語・中国語で発信した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
国際交流コーナーについて、外国籍住民等に対する情報提供及び日本語学習支援の窓口としての機能を強化し、多文化共生事業の拠点として運営を継続する。	外国籍住民等が暮らしやすい環境を整えるとともに、地域での安定的な生活に必要な日本語の学習の機会を失わないよう、積極的に支援を行う必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 外国籍住民等が日本語を学ぶ機会を広く提供するため、県及び他市町村と連携して、誰もが参加しやすい形式で日本語教室を開催する。 外国籍住民等の国籍別構成比が変化していることから、現状に合わせた支援体制を検討し、国際交流コーナーでの案内・相談業務等を通じて外国籍住民を支援できる人材を育成する。 市からの通知等に関して、外国籍住民等にとっても理解しやすい方法で情報発信を行う。 地域での住民同士の交流につなげることを目指し、日本人住民と外国籍住民が相互理解を深められる文化交流講座等を開催する。 	

分野6 産業の活力とにぎわいのあふれるまち「ながの」(産業・経済分野)

政策1 魅力を活かした観光の振興

施策1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進

施策2 インバウンドの推進

施策3 コンベンションの誘致推進

政策2 活力ある農林業の振興

施策1 多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進

施策2 地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進

施策3 森林の保全と資源の活用促進

政策3 特色を活かした商工業の振興

施策1 商工業の強化と環境整備の促進

施策2 地域の特性が光る商工業の推進

施策3 新たな活力につながる産業の創出

政策4 安定した就労の促進

施策1 就労の促進と多様な働き方の支援

施策2 勤労者福祉の推進

1 施策の概要

施策番号	6-1-1		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	魅力を活かした観光の振興	担当課	観光振興課
施策	豊富な観光資源等を活かした観光交流促進		
施策の目指す状態	豊富な観光資源を活かし、観光客でにぎわい観光消費額が増加している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○				○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケータ指標 環境・体制に関する評価①	長野市は、魅力的な観光都市である	%	(H28) 66.4	64.7	60.3	63.7	66.7	64.0	63.9	↗
R3年度実績値の理由	関係団体と連携し、WebサイトやSNS等を活用して効果的に観光宣伝を実施した。									
アンケータ指標 回答者自身の実践状況①	知人や友人などに地域の魅力を伝えている	%	(H28) 36.4	35.8	32.3	30.9	32.9	33.1	33.0	↗
R3年度実績値の理由	関係団体と連携し、WebサイトやSNS等を活用して効果的に観光宣伝を実施した。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
統計指標 市内観光宿泊者数(年)	観光庁「宿泊旅行統計調査」に基づく市内宿泊者数の推計	万人泊	(H27年御開帳開催時) 160 (H23~26年御開帳非開催時の平均) 140	161	153	157	103	R4.11 算定予定	176 151	
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルス感染拡大により、市内観光宿泊者数が減少した。令和3年度分は令和4年11月頃集計予定。(令和3年度善光寺御開帳は、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催時期を令和4年度に変更)								
統計指標 観光消費額	一人当たりの観光消費額の推計	円	(H27) 13,017	13,866	10,415	11,693	12,497	11,601	14,300	
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルス感染拡大により、観光消費額が減少した。								
統計指標 観光入込客数	市内の主な観光地(11箇所)への入込客数の総計	万人	(H27年御開帳開催時) 1,701 (H23~26年御開帳非開催時の平均) 1,002	1,101	1,073	1,038	448	528	1,790 1,040	
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルス感染拡大により、観光地利用者数が大幅に減少したため。(令和3年度善光寺御開帳は、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催時期を令和4年度に変更)								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容(改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により、イベント等の中止・縮小や、誘客活動が制限される状況ではあったが、(公財)ながの観光コンベンションビューローや各観光協会と連携し、新たな観光スタイルとして注目されているアウトドア観光や観光DX化の検討、デジタルスタンプラリーといった新たな観光コンテンツの開発を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG sの視点からの課題
コロナ禍においても、多様なニーズを持つ観光客の消費行動を促進させるため、新たな観光スタイルに対応する必要がある。	観光消費額を増加させることで、地域経済の活性化を図り、持続可能な観光都市となるような取り組みを実施していく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
(公財)ながの観光コンベンションビューローや各観光協会と連携することにより、新たな観光コンテンツの開発・推進や、継続的・効果的な観光情報発信を実施する。	

1 施策の概要

施策番号	6-1-2		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	魅力を活かした観光の振興	担当課	観光振興課
施策	インバウンドの推進		
施策の目指す状態	外国人観光客誘客に向けた効果的な情報を発信し、充実した受入環境の下で外国人観光客が快適に滞在している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価① 長野市は、魅力的な観光都市である(再掲:6-1-1)	%	(H28) 66.4	64.7	60.3	63.7	66.7	64.0	63.9	↗
R3年度実績値の理由	本市の魅力を機を逃さず積極的に情報発信し、また、関係団体と連携した観光宣伝を継続的に実施したが、新型コロナウイルスによるインバウンドの減少が影響した。								
回答者自身の実践状況①	%	(H28) 34.2	39.1	33.9	32.8	34.7	33.0	34.7	↗
R3年度実績値の理由	特にシニア世代では、コミュニケーションの点で外国人観光客の手助けに躊躇する人もいる。年により多少の増減はあるが、約3割の市民に、外国人観光客に対する「おもてなし」の意識が浸透している。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
市内外国人宿泊者数(年)	人泊	(H27) 59,206	H29 86,382	H30 107,081	R1 117,334	R2 24,344	R3 R4.11 算定予定	備考	
R3年度実績値の理由	観光振興課	外国人宿泊者数の実績において、継続的な誘客プロモーションの効果により、増加傾向が継続していたが、新型コロナウイルスおよび政府の水際対策の影響により、宿泊者数が大きく減少した。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	令和3年度で4年目となる外国人観光客を積極的に誘客するためのイベント「長野デザインウィーク」を、善光寺表参道エリアで実施した。実施にあたっては、国(内閣府)から地方創生推進交付金の交付を受けている。このほか、金沢市や近隣市町村と連携し、アジアや欧米豪に向けてセールスコール、ファムトリップの実施等のプロモーション活動を実施するとともに、訪問時・滞在時に快適な観光をしていただけるよう、街なかオンラインガイドの制作を行った。Wi-Fi環境については、必要な地点への整備が進んできたことから、令和3年度は新たな地点への整備は見送った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
ウィズコロナ・アフターコロナのインバウンド需要を取り込める魅力的なコンテンツがあり、それらの情報発信がされている。また、外国人観光客が訪れた際に快適に滞在できる環境が整っている状態。外国人宿泊者数の指標達成のためには、新型コロナウイルスの世界的な収束状況や政府の水際対策のレベルに合わせた外国人観光客の誘客に取組む必要がある。	人口減少等が見込まれるなか、ウィズコロナ・アフターコロナのインバウンド需要を取り込むことで交流人口の増加を図り、市内の経済を喚起させる必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
新型コロナウイルスの収束状況を注視しながら、外国人旅行者の興味をひく魅力的な企画の実施、テーマ毎に強みを持つ地域と広域で連携した効果的なプロモーション、受入環境の整備により来訪を促していく。その来訪者に対し、アンケート調査等を実施して長野市固有の課題の抽出を図ることなどにより、PDCAサイクルを確立し、課題抽出と改善を積み重ねる体制とする必要がある。	

6-1-3

1 施策の概要

施策番号	6-1-3		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	魅力を活かした観光の振興	担当課	観光振興課
施策	コンベンションの誘致推進		
施策の目指す状態	多様なコンベンションが開催され、参加者でにぎわっている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○				○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	コンサートやスポーツ大会などのイベントの開催により、にぎわいが生まれている	%	(H28) 52.6	45.2	46.4	47.0	40.9	34.4	42.8	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染拡大により多くのコンベンションの開催が中止となったため、減少したもの									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
コンベンションの参加者数	ながの観光コンベンションビューローが誘致・支援したコンベンションへの参加者数	人	(H27) 115,537	106,513	113,702	108,061	10,220	28,771		120,000
R3年度実績値の理由	観光振興課	新型コロナウイルス感染拡大により多くのコンベンションの開催が中止となったため、減少したもの								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大により、イベント等の中止・縮小や誘客活動が制限される状況ではあったが、市内経済の活性化のために感染予防対策を十分に取っながら、コンベンション等を誘致した。 コンベンションに関する各種ガイドブックや専用サイトの情報を適宜最新なものに更新した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
・(公財)ながの観光コンベンションビューローや各観光協会との連携を更に強化し、多くのコンベンションを誘致することで、参加者が大会前後に長く市内に滞在していただき、地域経済への波及を高める必要がある。	多くのコンベンションを誘致し、賑わいを創出することで、持続可能な地域経済の活性化を図っていく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 市内や外郭団体に対して、コンベンションの開催予定に関する調査を行い、その回答をもとに、(公財)ながの観光コンベンションビューローと連携してコンベンション開催に向けた分野横断型の誘致活動を行う。 観光振興計画に基づき、オリンピック関連施設や美術館等を積極的に活用し、国内外の各種コンベンションやスポーツ大会、イベント等の誘致を推進し、本市への誘客とにぎわいの創出につなげる。 	

1 施策の概要

施策番号	6-2-1	
分野	産業・経済分野	担当部局
政策	活力ある農林業の振興	担当課
施策	多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進	
施策の目指す状態	農地が有効に利用され、専業農家のほか多様な担い手が農業に取り組んでいる。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
		○					○						○	○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケータ指標 環境・体制に関する評価①	野菜や果物づくりをしている人が増えている	%	(H28) 47.5	45.0	40.4	41.8	47.0	44.6	43.8	↗
R3年度実績値の理由	肯定的回答の割合は若年世代になるにつれ下がる傾向にある。評価保留割合が毎年15%近く、特に30歳未満の評価保留割合が高いことから、若い世代の身近に耕作者が少なく実感が得にくいためと思われる。									
アンケータ指標 回答者自身の実践状況①	野菜や果物づくりなどを楽しんでいる	%	(H28) 44.0	47.0	41.7	40.8	43.5	42.4	43.1	↗
R3年度実績値の理由	肯定的回答の割合は、65才以上の2年代区分で目標値を上回るが、年代が若くなるにつれて低下する。主な否定的意見では、土地や時間がないといった意見が目立つ一方、家庭菜園に興味を示す意見もあった。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
統計指標 新規就農者数	給付金等受給者または農家創設数の平成29年度からの5年間の累計（現状値は給付金等受給者のみ）	人	(H27) 118	36	87	130	183	228	150	
R3年度実績値の理由	農業政策課	農業次世代人材投資事業、親元就農者支援事業などで就農を支援することにより、一定の新規就農者を確保できている。								
統計指標 農地の利用権設定面積	長野県農地情報管理センター登録面積	ha	(H27) 667.3	750.1	773.2	831.6	752.7	835.4	893	
R3年度実績値の理由	農業政策課	農地流動化助成金や農地中間管理事業などで農地の流動化を促進するとともに担い手の経営規模拡大を支援することにより、一定の農地利用権設定面積を確保できている。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容（改善を行った内容を中心に記載）	<ul style="list-style-type: none"> ・実質化された「人・農地プラン」により中心経営体への農地の集約を進め、新規就農者に対する相談体制を充実させるためサポートチームを構築するなど新たな担い手の確保も進めた。 ・新規就農者への研修資金・営農資金の助成による支援を進めるとともに親元就農者支援事業により地域の中心となる農業の担い手である認定農業者の子弟の就農促進を行った。 ・農業研修センターにおいて、農業に携わりたい人や企業まど、多様な人材を新たな担い手として育成するため、研修コースごと野菜栽培の技術指導等を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・市町村計画化された「地域計画」（旧「人・農地プラン」）の策定に向けた取り組み ・新規就農者及び認定農業者の確保育成 ・農業の多様な担い手の確保育成 	持続可能な食料生産システムの確保に向け、次世代を担う就農者の確保育成と担い手への農地の集積・集約による農地の遊休荒廃化の抑止
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手の掘り起しや農地の出し手を把握し、長野市農業公社との連携により、一層の農地流動化を推進する。 ・新規就農者及び認定農業者へ補助金などの支援制度の周知と経営改善指導や栽培技術支援などのフォローアップを行う。 ・農業研修センターでの技術研修を充実する。 	

1 施策の概要

施策番号	6-2-2	
分野	産業・経済分野	担当部局
政策	活力ある農林業の振興	担当課
施策	地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進	
施策の目指す状態	りんご、もも、ぶどうなどの高品質で安全・安心なおいしい農産物が生産され、高い評価を得ている。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
		○					○						○	○		○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	%	(H28) 87.8	86.4	85.7	88.6	89.8	92.0	88.5	→
R3年度実績値の理由	肯定的評価割合は前年度より2.2ポイント増加し、全年代で満遍なく肯定的評価割合が高くなっている。高付価値化された品種（シャインマスカット等）の供給拡大が背景にあると考えられる。								
回答者自身の実践状況①	%	(H28) 80.9	77.3	75.9	76.2	78.2	78.5	77.2	→
R3年度実績値の理由	50才以上の4年代区分においては、肯定的評価割合が8割を超えるなど地産地消の意識は高いが、40歳代以下の世代では、否定的意見として地産産の割高さを感じている声もあり、価格重視の傾向から肯定的評価割合が低い。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	備考	
果樹の新品種・新技術導入による栽培面積	ha	(H27) 68.3	86.1	95.9	109.2	120.5	153.6		106
R3年度実績値の理由	農業政策課	果樹の新品種・新技術の導入に対する補助事業の継続などにより、栽培面積は増加している。							
果樹農業生産額	億円	(H28) 92.7	90.2	92.0	87.6	89.6	84.4		104
R3年度実績値の理由	農業政策課	令和元年東日本台風、凍霜害やひょう害などの自然災害の影響や樹園地の減少により、生産額が伸び悩んでいる。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業の省力化及び多収化を図るために、りんごの「新しい化栽培」の導入を支援した。 ・高収入が見込まれるシャインマスカット等のぶどうの栽培面積が増加するよう、ぶどう新品種推進や振興果樹等苗木導入等に係る補助金を交付した。
(改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域奨励作物（小麦・大豆・そば・枝豆）に対し補助金を交付し、生産量を増やすとともに、農地の遊休荒廃化を抑制し、地産地消を推進した。

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・農業の省力化（後継者不足、農業従事者の高齢化の進行により） ・本市農業の主体である果樹の生産性向上及び高付加価値 ・市内農産物の高付価値化と地産地消の推進 ・農地の遊休荒廃化防止及び中山間地域農業の振興 	<p>生産活動のイノベーションを支援するため、新品種・新栽培技術の導入を促すとともに、スマート農業の取り組みを進める。</p>
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・りんごの新しい化の導入による省力化及び、ぶどう等の新新種の苗木の導入等による生産性の向上。 ・地産地消の推進のために地産地消協力店の拡大や消費地でのPR活動の実施、市内農産物の普及促進と高付価値化の推進。 ・農地の有休荒廃化、中山間地域農業の振興のため、奨励作物（小麦・大豆・そば・枝豆）に対して補助金交付の継続。 ・中山間地域優良農地復元事業及び新規事業の被災地区荒廃農地活用補助金を活用し農地の遊休荒廃化を抑制し優良農地への復元。 	

6-2-3

1 施策の概要

施策番号	6-2-3		
分野	産業・経済分野	担当部局	農林部
政策	活力ある農林業の振興	担当課	森林いのしか対策課
施策	森林の保全と資源の活用促進		
施策の目指す状態	森林が守り育てられ、森林資源が有効に活用されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○		○			○	○	○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	森林が整備されている地域である	%	(H28) 41.1	36.6	34.8	38.8	42.4	41.7	38.9	→
R3年度実績値の理由	森林整備は単年度で結果が表れるものではなく評価自体もしにくいため、アンケート回答者の違いによる主観の差が評価に影響していると思われる。長期的な評価が向上するよう継続的な事業実施に努めたい。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
木材生産量	国・県への木材生産補助申請実績	m ³	(H27) 8,168	9,345	13,783	6,867	9,773	5,693		17,500
R3年度実績値の理由	森林いのしか対策課	コロナウイルス感染症の影響により木材需要が低迷したことによる減少。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	新型コロナウイルス感染症の影響により、木材需要が低迷したため、令和3年度の木材生産量は減少したが、森林経営計画を作成する林業事業者の支援や、フォレストワーカー育成事業による林業従事者の確保を積極的に実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 森林所有者の森林整備への意欲の低下 森林の境界不明や、所有者不明地の増加 林業の担い手の減少 手入れの遅れた森林の増加 	再生可能な木材資源の有効活用を推進するため、持続可能な経営管理が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 森林経営計画の策定を進めるため林業事業者と連携して森林施業地を集約化する。 林業の担い手の確保・育成のための支援。 森林整備を進めるための補助事業の実施。 	

1 施策の概要

施策番号	6-3-1		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	特色を活かした商工業の振興	担当課	商工労働課
施策	商工業の強化と環境整備の促進		
施策の目指す状態	足腰の強い工業生産や商業活動が展開され、地域外からの利益が取り込まれている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	活力のある企業が多い地域である	%	(H28) 22.8	21.7	23.5	24.9	26.9	30.1	25.4	↗
R3年度実績値の理由	全ての地区で前年に比べて肯定的な回答が増加したため									
環境・体制に関する評価②	市内に个性的で魅力的なお店が増えている	%	(H28) 30.7	30.7	31.7	34.1	33.9	37.3	33.5	↗
R3年度実績値の理由	40代以上の世代で前年に比べて肯定的な回答が増加したため									
回答者自身の実践状況①	地元のお店で買い物をするように心がけている	%	(H28) 79.6	77.7	76.3	76.4	81.4	79.9	78.3	→
R3年度実績値の理由	前年と同様の傾向である									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
製造品出荷額等 (年)	経済センサスまたは工業統計調査による従業者4人以上の事業所の出荷額	億円	(H26) 4,388	5,506	5,661	5,884	5,938	R5.2以降算定予定	4,575	
R3年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された令和2年の実績値は5,938億円となっている。								
商品販売額 (小売業) (年)	経済センサスまたは商業統計調査による小売業の販売額	億円	(H26) 4,290	-	-	-	-	-	4,290	
R3年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された平成28年の実績値は4,935億円となっている。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・街路灯維持管理事業 (R3→2件) ・商店街電灯料助成事業 (R3→53件) ・賑わい演出事業補助金 (R3→13件) ・ものづくり支援センターに配置したインキュベーションマネージャーが積極的に企業を訪問するなどして、企業の研究開発に対する補助金の活用を促すとともに国の開発補助金の申請の相談を行うなどものづくり企業への支援を行った。 ・令和元年東日本台風災害で被災した企業の復興を図るため、災害対策資金による支援を行っている。 ・小規模事業者のIT化・デジタル化による生産性の向上を図るため、長野市小規模事業者IT機器等導入支援事業補助金を交付している。令和3年度は令和2年度の交付事業者に対してアンケート調査を実施し、今後のフォローアップにつなげていくため、機器等の活用状況を把握した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・商業活動が将来に渡って持続していくために、事業者の経営基盤の強化、地域に密着した商業環境を整備していく必要がある。 ・企業の事業継続や生産性の向上につなげていくため、デジタル技術の活用について支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業活動が持続するための経営基盤強化や環境整備の支援を行っていく必要がある。 ・市内企業の生産性向上のため、デジタル技術の活用を支援していく必要がある。
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の商店街団体については、今後は老朽化しつつある街路灯維持管理に対する支援や、街の防犯、安全のためのニーズが増えていくと考えられ、継続的な支援を行っていく。 ・市内企業のデジタル技術の活用及びその前提となるデジタル化について、計画の策定から実行まで幅広く支援を行っていく。 	

1 施策の概要

施策番号	6-3-2		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	特色を活かした商工業の振興	担当課	商工労働課
施策	地域の特性が光る商工業の推進		
施策の目指す状態	中心市街地、中山間地域などの地域ごとにある様々な特色を活かし、商工業に活気があり、まちがにぎわうとともに、新製品・新技術が開発され、企業活動が活性化している。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価① 活力のある企業が多い地域である(再掲：6-3-1)	%	(H28) 22.8	21.7	23.5	24.9	26.9	30.1	25.4	↗
R3年度実績値の理由	全ての地区で前年に比べて肯定的な回答が増加したため								
環境・体制に関する評価② 市内に個性的で魅力的なお店が増えている(再掲：6-3-1)	%	(H28) 30.7	30.7	31.7	34.1	33.9	37.3	33.5	↗
R3年度実績値の理由	40代以上の世代で前年に比べて肯定的な回答が増加したため								
回答者自身の実践状況① 地元のお店で買い物をするように心がけている(再掲：6-3-1)	%	(H28) 79.6	77.7	76.3	76.4	81.4	79.9	78.3	→
R3年度実績値の理由	前年と同様の傾向である								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
製造品出荷額等(年)(再掲：6-3-1)	億円	(H26) 4,388	5,506	5,661	5,884	5,938	R5.2以降算定予定	4,575	
R3年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された令和2年の実績値は5,938億円となっている。							
商品販売額(小売業)(年)(再掲：6-3-1)	億円	(H26) 4,290	4,935	-	-	-	-	4,290	
R3年度実績値の理由	商工労働課	直近で実施された平成28年の実績値は4,935億円となっている。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社まちづくり長野のまちづくり活動(非営利部門)を支援するための運営補助金を交付 戸隠竹細工の保存、後継者育成、また販路拡大を支援するための補助金を交付 中小企業者が企業価値の算定、事業承継計画の策定など、事業承継に向け各種の専門家に依頼する経費等について助成する「事業承継促進補助金」により、中小企業者の事業承継に対して補助金を交付し、事業継続を支援 企業と研究機関等が共同で行う研究開発事業に対し、ものづくり研究開発事業補助金を交付し、新技術開発の支援を行った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・本市の人口は減少基調であり、今後、空き店舗の増加、後継者不足、通行量の減少など、地域の賑わいと魅力の低下が懸念される。一方で「信州・長野」のブランド力は全国でも高く、地域の魅力や特性を活かし、関係機関等と連携を図りながら集客や販売を促進していく必要がある。 ・「長期戦略2040」のビジョン実現につながる新技術等の創出や、既存企業の成長につながるよう支援を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴う環境負荷の低減を図る必要がある。 ・事業継続につながる人材育成等の支援を行っていく必要がある。 ・産学官が連携してイノベーションの創出を一層進めていく必要がある。
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の集客力を高めて賑わいを創出するため、まちづくり会社等と連携して効果的な対策を検討する。 ・本市の特色ある工芸品や物産品を観光資源と絡めて紹介することで、販路の拡張と市内への誘客を図る。 ・地域企業の特性を生かした新技術の開発や販路の開拓といった支援制度により、企業活動を支援していく。 	

1 施策の概要

施策番号	6-3-3		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	特色を活かした商工業の振興	担当課	商工労働課
施策	新たな活力につながる産業の創出		
施策の目指す状態	起業・創業、企業の誘致により新たな雇用が生まれている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境				経済				全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○						○	○			○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	新たな雇用が生まれている	%	(H28) 9.4	10.8	11.6	10.6	8.7	9.3	10.2	↗
R3年度実績値の理由	30代と70代以上を除く全ての世代で前年比べて肯定的な回答が増加したため									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
新技術・新製品開発件数	長野市ものづくり研究開発事業の選定を経て、大学などと共同開発を行う事業件数 (H17年度からの累計)	件	(H27) 29	36	39	42	45	47		47
R3年度実績値の理由	商工労働課	企業が新技術・新製品の開発のため積極的に研究開発や設備投資を行う傾向にあり、事業件数は順調に伸びている。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街団体が実施する商店街の販促促進事業につながるイベントに対し補助金を交付した。 ・中心市街地の空き店舗、空き家等を活用して出店する者が実施する出店の取組に対して補助金を交付した。 ・市内の既存工業用地に限られるため、新たな産業用地の開発方針の決定をするとともに、ICT産業の企業誘致の一環として、リモートワークやテレワークといった働き方の変化に対応する施設整備の支援を行った ・スタートアップをはじめとする起業・創業につながるよう、起業を身近に感じられるようなイベントの開催や、起業家の成長を加速させる伴走支援などを実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・個人消費の低迷、経営者の高齢化、後継者不足、消費者の購入経路の多様化等により、商店街の空き店舗等が増加し、商店街の活力が低下しているため、来街者を増加させ、まちの賑わいを創出していく必要がある。 ・用地、オフィス、雇用の確保など、進出拡大意欲を持つ企業のニーズに寄り添った企業誘致をしていく必要がある。 ・スマートシティの担い手としても期待されている、スタートアップの起業や成長につながる先輩起業家やロールモデルの輩出・集積に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への負荷低減につながる産業をはじめとする新たな産業創出につながる活動を引き続き支援していく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> ・住民や観光客の誘客を促進する取組や、街なかの賑わいを創出する取組等を行う商店街団体等を支援する。 ・信州ITバレー構想や「長期戦略2040」を踏まえた企業誘致戦略を進めていく。 ・スタートアップをはじめとする産業の新たな担い手を生み出すことに取り組む。 	

1 施策の概要

施策番号	6-4-1		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	安定した就労の促進	担当課	商工労働課
施策	就労の促進と多様な働き方の支援		
施策の目指す状態	企業の特長や求人に関する情報が容易に入手でき、就労が促進されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境				経済				全体		
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
				○	○	○	○						○				○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	仕事を見つけやすい環境が整っている	%	(H28) 13.2	12.9	15.5	15.1	13.7	13.7	14.2	↗
R3年度実績値の理由	ハローワークやインターネットで求人情報が取得できる点は肯定的に評価されているが、コロナ禍が採用状況に与える影響について全年代で否定的評価が多い。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
就職情報サイト「おしごとながの」のセッション数	インターネット就職情報サイト「おしごとながの」のセッション数	回	(H27) 41,253	92,505	145,486	167,067	170,081	155,257		62,000
R3年度実績値の理由	商工労働課	イベントがオンライン開催となり、会員数が減少したことによりセッション数も減少した。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 若者のUJIターン就職促進を図るため、長野地域若者就職促進協議会による就職情報サイト「おしごとながの」の運営をはじめ、長野地域の企業と若者をつなげる場「ナガノのシゴト博」などの開催を通して、多くの若者に地元で働く魅力をオール長野地域で発信した。 就職支援事業として、「ママたちのお仕事フェスタ」では、再就職やキャリアアップを希望する女性を対象に自己理解ワークや就労に関する情報提供を実施した。 高齢者の社会参加の観点から、長野市生涯現役促進協議会では国の事業を受託し、年齢に関わらず活躍できる社会の実現を目指して、就労支援セミナーの開催や就労相談会の実施、シニア人材の活用推進に取り組んだ。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> SNSなど様々なツールを活用し、広く情報を発信することで多くの参加者を呼び込み、参加者と企業とのマッチングを推進させる。 求職者が就職情報サイト「おしごとながの」を利用し、仕事が容易に探せるように求人情報や企業情報の登録を呼びかけるとともに、利用しやすいシステムの改修を進める。 	高齢者や女性、子育て世代などのニーズに応じた働き方を実現するとともに、雇用とのマッチングを進めるには、市だけでなく国や県と連携を図っていく必要があり、企業への支援も必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> 常に就職採用活動の傾向を把握し、イベントをはじめとした発信の内容や方法を適宜見直ししながら様々なニーズに添った就労の促進を図る。 	

6-4-2

1 施策の概要

施策番号	6-4-2		
分野	産業・経済分野	担当部局	商工観光部
政策	安定した就労の促進	担当課	商工労働課
施策	勤労者福祉の推進		
施策の目指す状態	中小企業の福利厚生や研修の機会が確保され、勤労者がいきいきと働いている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
							○										○

2 指標の推移等

アンケート指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価①	市内に勤める知人や友人がいきいきと働いている	%	(H28) 34.4	32.6	30.7	30.9	35.2	33.6	32.6	↗
R3年度実績値の理由	新型コロナの影響により、広い世代で否定的評価が増加したため前年より数値が下がった。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
統計指標	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	備考	
長野市勤労者共済会への加入者割合	中小企業勤労者数に占める長野市勤労者共済会の会員数の割合 (当該年度の4月末時点)	%	(H27) 10.9	10.2	10.5	10.6	11.2	11.3		11.0
R3年度実績値の理由	商工労働課	勤労者数が減少したことにより加入率が増加し、目標達成となった。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 勤労者福祉施設の管理運営を指定管理者に委託し、各種講座を開催するなど利用促進を図った。 補助金を交付している長野市勤労者共済会では、施設利用補助券を全会員に配布することで利用者の拡大やサービスに繋げた。また、会員数の増加を目指し、ダイレクトメール発送や商工会議所の会報等に掲載をするなど周知に努めた。 勤労者の住宅資金、生活資金等の貸し付け原資として、長野県労働金庫に資金を預託し協調融資制度を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
時代の変化とともに個々の求める余暇活動などが多様化している中、健康維持活動や余暇活動に限らず、勤労者福祉の充実を図っていく必要がある。	いきいきと働くためには、若者、女性、高齢者などすべての労働者に働きがいのある時代に合った働き方や安定的な労働環境を促進する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい環境の整備など働き方改革を推進するとともに、長野市勤労者共済会にあっては事業の利便性を向上させ新規会員の獲得に向け、一層のPRに協力する。 協調融資制度では、利用者増加に向けて、利用者のニーズやさらに優位性が保てる融資商品の提案を求めていく。 勤労者福祉施設については、施設再編の方針に沿って、年齢や性別に関わりなく勤労者のワーク・ライフ・バランス実現を支援する施設を目指し、整備を進める。 	

分野7 快適に暮らし活動できるコンパクトなまち「ながの」(都市整備分野)

政策1 いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進

施策1 地域の特性に応じた都市機能の充実

施策2 暮らしを支える生活機能の維持

施策3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進

施策4 地域の特色を活かした景観の形成

政策2 拠点をつなぐネットワークの充実

施策1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築

施策2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備

1 施策の概要

施策番号	7-1-1		
分野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	都市計画課
施策	地域の特性に応じた都市機能の充実		
施策の目指す状態	中心市街地や鉄道駅周辺など都市拠点となるべき地域に都市機能が集約されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○							○	○		○

2 指標の推移等

	内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
				H29	H30	R1	R2	R3	平均	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①		(H28) 49.4	49.2	48.3	47.7	48.1	50.4	48.7	↗
	R3年度実績値の理由			長野駅周辺第二土地区画整理事業による公共施設整備が完了したことやセントラルスクウェアの整備により、評価が上昇したと考えられる。						
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	-	-	-	-	-	-	-
	R3年度実績値の理由									
統計指標	人口密度	居住誘導区域の人口密度	(H27) 50.9	50.9	50.8	50.7	50.6	50.4		50.9
	R3年度実績値の理由	都市計画課		市街化区域内人口が概ね維持されており、居住誘導区域の人口密度も概ね維持できた。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	都市計画マスタープランの基本方針である集約型都市構造に対応する土地利用の実現のため、長野市立地適正化計画の見直しに向けて長野市都市計画審議会の検討部会を7回開催し、適正な土地利用が図られるよう見直しを進めた。都市再生特別措置法に基づき、一定の区域に人口や都市機能を誘導していくため、開発行為や建築行為にかかる事前の届出を徹底させた。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
集約型のまちづくりを進めるには、計画的な規制・誘導が必要である。特に近年は人口減少とともに、都市全体が低密度化している問題に加え、自然災害への対応など防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策が必要である。	快適に暮らし活動できるまちづくりに際しては、都市機能の集約施策を推進すると共に、近年、頻発・激甚化する自然災害に対応するため「災害に強いまちづくり」の観点を加えた総合的な対策が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
都市計画マスタープランに基づき個別具体の都市計画を誘導し、中心市街地や鉄道駅周辺などについては低・未利用地の有効活用を図るほか、都市拠点としての機能を高めて集約型のまちづくりを進めるために立地適正化計画に関連する支援策、取り組み状況などについてパンフレット等で情報提供することで周知を図る。 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に即した都市づくりの実現に向け、区域区分の見直し作業等を引き続き検討し、関係機関と調整及び協議を進めていく。	

7-1-2

1 施策の概要

施策番号	7-1-2		
分野	都市整備分野	担当部局	建設部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	道路課
施策	暮らしを支える生活機能の維持		
施策の目指す状態	市民の暮らしを支える都市基盤や日常生活に必要な機能が維持されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済			全体		
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
							○	○						○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価① 日常生活に必要なインフラが整備されている	%	(H28) 51.7	53.3	52.6	49.3	55.3	56.3	53.4	↗
R3年度実績値の理由	大きな変動はないが、公共交通の利便性の向上を求める意見が増加している。								
回答者自身の実践状況① (設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
上水道管路の耐震化率	%	(H27) 11.4	H29 13.1	H30 13.9	R1 14.4	R2 15.2	R3 15.8	備考	14.5
R3年度実績値の理由	水道整備課	老朽管解消事業などで耐震管を17,543m布設したことによる。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤について、計画的に改修、更新を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤を将来にわたって健全な状況を維持していくため、計画的に改修、更新を実施していく必要がある。過疎化が進む中山間地においては、施設の複合化などの取組を進める。	都市基盤の強化に際しては、社会や環境の側面にも配慮し、持続可能な、社会・環境・経済の統合的なインフラ整備とする必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
インフラ施設を持続的に健全に保つためには、将来的に維持費の増大が見込まれるため、計画的なメンテナンスの実施や新技術の導入など、財政負担の軽減、平準化を図る必要がある。	

1 施策の概要

施策番号	7-1-3		
分野	都市整備分野	担当部局	建設部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	建築指導課
施策	多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進		
施策の目指す状態	だれもが気軽にまちなかを移動でき、暮らしやすい住環境が整っている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
						○	○											○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
環境・体制に関する評価①	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	%	(H28) 30.3	30.8	30.4	28.7	31.8	31.4	30.6	↗
R3年度実績値の理由	大きな変化はないが、肯定的評価である「そう思う・ややそう思う」の回答割合が1.7ポイント減少したため。									
回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(H28) -	-	-	-	-	-	-	-
R3年度実績値の理由										
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
道路施設における歩行空間の整備	①1.5m以上の歩道総延長 ②点字ブロックの総延長 ③歩車道の段差解消箇所数	①km ②km ③箇所	(H27)	①	①	①	①	①		①
			289.4	292.0	293.7	296.8	297.1	286.0		
			②	②	②	②	②	②		
			85.9	86.6	87.5	89.8	89.8	87.0		
③	③	③	③	③	③	③				
④	356	370	384	391	396	360				
R3年度実績値の理由	道路課	道路改良等に合わせて実施したことにより順調に整備が進んだ。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の高齢者、障害者等が利用する建築物や、多くの人が利用する建築物については、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）、長野県福祉のまちづくり条例及び長野市福祉環境整備指導要綱に基づく整備基準を満たすように指導及び助言を行うとともに、公共建築物についても、整備基準を満たすよう勧めること ・ユニバーサルデザインの導入を図った。 ・障害者や高齢者など、すべての人にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた道路の整備については、道路交差点における歩車道の段差解消(396箇所)、歩道幅員の確保や、市民・観光客・外国人が分かりやすい歩行者用案内標識などの整備を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・建築物のバリアフリー化の促進に努める。 ・道路の歩行空間の整備については目標を上回るペースで事業が進んでいる。引き続き、誰もが気軽に街なかを移動できる道路環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者や高齢者等の人々が、安全で快適に暮らし活動できるような建物のバリアフリー化の促進に努める。 ・誰もが気軽に移動できる道路環境の整備については持続可能な都市及び居住環境を実現する。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・民間の建築物については、引き続き、関係法令に基づく適正な整備に向けた指導及び助言を行うとともに、公共の建築物については、高齢者や障害者を含むすべての人々が、円滑に利用できるよう、人にやさしい建築物の更なる整備を図っていく。 ・道路の歩道空間の整備として、段差解消は中心市街地がほぼ完了したことから、郊外の住宅地等の歩行者の多い箇所を優先整備する。点字ブロックや歩道整備については、関係団体の意見や通学路としての利用状況などを勘案しつつ整備を進めるとともに、道路改良に合わせた整備にも積極的に取り組む。 	

1 施策の概要

施策番号	7-1-4	
分野	都市整備分野	担当部局 都市整備部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課 まちづくり課
施策	地域の特色を活かした景観の形成	
施策の目指す状態	豊かな自然環境と調和した景観や、地域固有の歴史・文化が感じられる景観が形成されている。	

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水・衛生	7 エネルギー	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	8 経済成長と雇用	9 イノベーション	11 持続可能な都市	12 生産と消費	17 実施手段
							○										○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	平均		
アンケート指標 環境・体制に関する評価①	景観やまちなみが美しい地域である	%	(H28) 57.2	55.4	54.8	56.6	60.5	59.6	57.4	→
R3年度実績値の理由	景観やまちなみについて、市の施策や地域の活動が行われており、美しい地域と感じる意識は一定の評価である。									
アンケート指標 回答者自身の実践状況①	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	%	(H28) 73.9	71.6	71.7	68.0	71.2	71.9	70.9	→
R3年度実績値の理由	市民一人ひとりの美しい景観づくりへの意識が高く、その結果が数値に反映している。									
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)	
			H29	H30	R1	R2	R3	備考		
統計指標 道路美装化延長	歴史的風致の維持向上のため、周囲の良好な景観に調和した道路美装化延長	km	(H27) 7.83	8.41	8.41	8.52	8.62	9.00		9.00
R3年度実績値の理由	まちづくり課	地域の特色を活かした景観を計画的に整備するため、善光寺周辺地区及び戸隠地区において道路美装化を行った。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 善光寺周辺地区では、善光寺門前にふさわしい景観を計画的に整備するため、地元住民、関係者及び関係機関と協議を行いながら、道路美装化 (L=0.28km) を実施した。 戸隠地区では、国の重要伝統的建造物群保存地区である歴史的な町並みの魅力を高めるため、地元住民、関係者及び関係機関と協議を行いながら、道路美装化 (L=0.10km) 及び美化のための測量設計を実施した。 松代地区では、関係地権者と協議を行いながら、地域の景観の核となる景観重要建造物の整備助成を1件実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
地域固有の歴史・文化が感じられる景観形成には、歴史的建造物の保全とともに、建造物と一体となって歴史的風致を形成する周辺環境において、地域の特性を十分に考慮した施設整備を行うことが必要である。また、住民による主体的な取り組みにつながるよう住民意識の高揚が必要である。	地域の特色を活かした景観形成に際しては、住民が主体的に参画し、住民と行政が協働により取り組むとともに、地域ごとの特性を十分に考慮した整備計画を基に一貫性をもった取組とすることが必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
事業実施に先立ち住民や関係団体と協議を行うなど、地域の理解を得ながら施設整備を推進するとともに、地域の歴史を活かしたまちづくりに関する勉強会や工事施工現場の見学会等を通して、景観に対する住民意識の高揚を図る。	

1 施策の概要

施策番号	7-2-1		担当部局	都市整備部
分野	都市整備分野		担当課	交通政策課
政策	拠点をつなぐネットワークの充実			
施策	地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築			
施策の目指す状態	だれもが利用しやすい公共交通が構築され、多くの人々が利用している。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会			環境				経済				全体					
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○		○	○				○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価① 公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	%	(H28) 35.7	33.9	31.9	30.4	34.5	34.1	33.0	↗
R3年度実績値の理由	29歳以下において肯定的な意見が増えたが、40～59歳においては減少したため、前年度から0.4%減								
回答者自身の実践状況①	%	(H28) 26.4	27.2	24.2	22.1	21.3	20.4	23.0	↗
R3年度実績値の理由	70歳以上においての肯定的な意見が減少したため、前年度から0.9%減								
回答者自身の実践状況②	%	(H28) 50.4	55.9	48.4	47.8	49.3	48.7	50.0	↗
R3年度実績値の理由	19歳以下においては肯定的な意見が増えたが、20～39歳においては減少したため、前年度から0.6%減。必要性は理解しながらも、公共交通機関の利便性等から行動ができていないとの意見が多い。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
公共交通利用回数	回/人	(H26) 128.5	H29 139.0	H30 139.4	R1 137.0	R2 100.7	R3 R4.12以降算定予定	備考	
R3年度実績値の理由	交通政策課		令和3年度実績値は未集計(令和4年12月以降に集計)						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容(改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通網の確保・維持。(市バス、廃止路線代替バス、コミュニティバス、乗合タクシー、中山間地域輸送システムの運行) ICカードKURURUの運用、管理。 ながのスマート通勤応援事業の取組として、パーク・アンド・レールライド社会実験やスマート通勤啓発活動を実施。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の運行に要する経費は、車両の維持・更新費用等により年々増加傾向にあるため、より効率的な運行とする必要がある。 利用者が減少傾向にあるため、路線維持のためにも利用促進を図る必要がある。 運行事業者においては運転手不足という課題があるため、補助金等があれば路線を維持できるという状況では無くなってきている。 	自動車中心社会において、移動を制約される交通弱者などが、安全かつ容易に利用でき、環境に配慮した公共交通ネットワークを持続可能とする必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 長野市地域公共交通計画に基づき、①公共交通のネットワーク再構築・運行、②運行環境の整備・利便性向上、③啓発・利用促進に取り組む。 令和4年に取り組む事業としては、ながのスマート通勤応援事業の実施、A I オンデマンド交通システムの実証実験、バス共通ICカードKURURUの更新の検討、廃止路線代替バス等市が運行する路線の見直しに向けた検討等を行う。 	

1 施策の概要

施策番号	7-2-2		
分野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政策	拠点をつなぐネットワークの充実	担当課	交通政策課
施策	拠点をつなぐ交通ネットワークの整備		
施策の目指す状態	自家用乗用車に過度に頼らず、中心市街地、観光地などの拠点や生活機能の拠点を移動できる交通ネットワークが形成されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○		○	○				○	○		○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
			H29	H30	R1	R2	R3	平均	
環境・体制に関する評価① 公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている(再掲：7-2-1)	%	(H28) 35.7	33.9	31.9	30.4	34.5	34.1	33.0	↗
R3年度実績値の理由	29歳以下において肯定的な意見が増えたが、40～59歳においては減少したため、前年度から0.4%減								
回答者自身の実践状況①	%	(H28) 26.4	27.2	24.2	22.1	21.3	20.4	23.0	↗
R3年度実績値の理由	70歳以上においての肯定的な意見が減少したため、前年度から0.9%減								
回答者自身の実践状況②	%	(H28) 50.4	55.9	48.4	47.8	49.3	48.7	50.0	↗
R3年度実績値の理由	19歳以下においては肯定的な意見が増えたが、20～39歳においては減少したため、前年度から0.6%減。必要性は理解しながらも、公共交通機関の利便性等から行動ができていないとの意見が多い。								
内容	単位	基準値	前期基本計画期間中の実績値						目標値 (R3)
公共交通利用回数 (再掲：7-2-1)	回/人	(H26) 128.5	H29	H30	R1	R2	R3	備考	
市民一人当たりのバス・鉄道などの公共交通機関を利用した回数			139.0	139.4	137.0	100.7	R4.12以降算定予定		132.1
R3年度実績値の理由	交通政策課	令和3年度実績値は未集計(令和4年12月以降に集計)							
自転車通行空間の総延長	km	(H27) 7.96	8.70	9.00	9.80	11.40	13.40		15.00
R3年度実績値の理由	道路課	千曲川新道の工事が計画どおり進んだため							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R3年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通行空間等の整備として、市営自転車駐車場(北長野駅・篠ノ井駅・川中島駅)へのサイクルスタンドの設置や、稲荷山駅自転車駐車場の屋根の修繕を行った。 ・長野市自転車活用推進計画に基づき、新幹線側道への矢羽根型路面標示の設置など具体的な施策に取り組んだ。 ・松代・若穂地区の拠点を結び、地域・観光振興を目的とした自転車道・遊歩道(千曲川新道)については、地元との合意による優先順位に基づき整備を行い、一部で供用開始した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進む駐輪場については、計画的な改修等の長寿命化により、利用環境の改善を図り、適正に維持管理する必要がある。 ・自転車通行空間の整備については、自転車ネットワーク計画に基づき利用者の利便性と安全性向上のため計画的に整備する必要がある。 ・千曲川新道については、地元との協議により通学路として活用できる箇所を優先的に整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関や自転車等の利用を促進し、環境に負荷のかからない交通手段に乗り換える必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が著しい駐輪場の再整備と、破損した駐輪ラック等の計画的な更新、防犯対策を進める。 ・自転車ネットワーク計画に基づき、道路管理者と連携を図りながら、自転車通行空間の整備を進める。 ・千曲川新道について、地元協議の上、計画的に境界立会いや測量設計を実施し整備を進める。 	

第五次長野市総合計画前期基本計画

令和3年度進捗状況

長野市 企画政策部 企画課

電話 026-224-5010 FAX026-224-5103